

美里町公共施設白書



平成 29 年 3 月

熊本県 美里町

目次

はじめに	1
第1章.公共施設を取り巻く環境	2
1.町の概要	2
2.人口動態	3
3.財政状況	5
4.公共施設の概要	6
第2章.公共施設の用途別に見た現状	15
1.文化集会系施設	16
2.社会教育系施設	21
3.スポーツ・レクリエーション系施設	25
4.産業系施設	36
5.学校教育系施設	39
6.子育て支援施設	44
7.保健・福祉施設	48
8.行政系施設	52
9.公営住宅	56
10.その他施設	62
11.インフラ施設の概要	66
第3章.今後の公共施設マネジメント	68
1.公共施設の課題の整理	68
2.公共施設マネジメントの必要性	70
3.今後の取り組みについて	71

はじめに

高度経済成長期に一齐に整備された公共建築物や道路などのインフラが更新時期を迎え、これらの老朽化に起因する事故などが全国的にも社会問題になっています。これを受け総務省では、長期的な視点を持って、保有施設の更新、統廃合、長寿命化を計画的に実施し、財政負担の軽減などを実現するため、地方自治体に対して公共施設等総合管理計画の策定を求めています。

本町は、合併以前より人口の変動や経済発展にあわせて、学校や町営住宅をはじめとする多くの公共施設を建設しており、現在、本町の保有する公共施設は 136 施設(約 84,400 m²)となっております。人口一人当たりの面積は 8.2 m²で、同人口規模の自治体や全国平均(3.8 m²/人)と比較すると多く、また全体の 5 割近くが築後 30 年を経過しており、今後の更新費用増大が予測されます。

本町では少子高齢化と人口減少が進み、町の財政状況は将来的にも大変厳しい状況となっております。また、これら人口構造の変化は公共施設に対する需要変化をもたらし、各地域に応じて異なることから、各地域・各世代の需要に合致した持続可能な公共サービスの提供を目指し、公共施設の最適化を行っていく必要があります。

本町が保有している公共施設について、建物の性能(施設)、コストの状況(財務)、利用の状況(供給)の各要素についての現状把握、施設位置情報も含めた公共施設情報の一元管理を行い、公共施設の施設用途毎の設置目的や現況、課題を町民の皆様に広く知っていただき、今後の公共施設マネジメントについて町民の皆様と共に検討し、方向性を定めていくための基礎資料として「公共施設白書」を作成しました。

第 1 章.公共施設を取り巻く環境

1.町の概要

平成 16 年(2004 年)11 月 1 日に中央町と砥用町が合併し、美里町が誕生しました。美里町の町名は、全国から公募した中から選考し「いつまでも美しいふる里でありますように」等の理由から美里町となっています。

美里町は熊本県のほぼ中央に位置し、面積は 144.00 km²、その 4 分の 3(104.27 km²)を森林が占める中山間地域です。熊本市から南東へ約 30 km、自動車です約 40 分の距離に位置する地域で、南部地域には標高 1,000m級の山岳が連なり、一部は九州中央山地国定公園や県立自然公園にも指定されています。さらに一級河川緑川とその支流を多く抱えており、流域には緑川ダムや船津ダムを有した自然豊かな地域です。

また、西部地域に一部平坦地が見られますが概して宅地や農地は少なく、住宅地は地域を東西に横切る国道 218 号をはじめとする主要道路に沿って点在し、農地もその大部分が丘陵地や傾斜地で、棚田等として利用されています。

土地の利用状況は、農用地 9.1%、森林 72.4%、宅地 2.0%、道路 3.3%、水面・河川等 2.8%、その他 10.4% (平成 26 年 3 月時点)となっています。

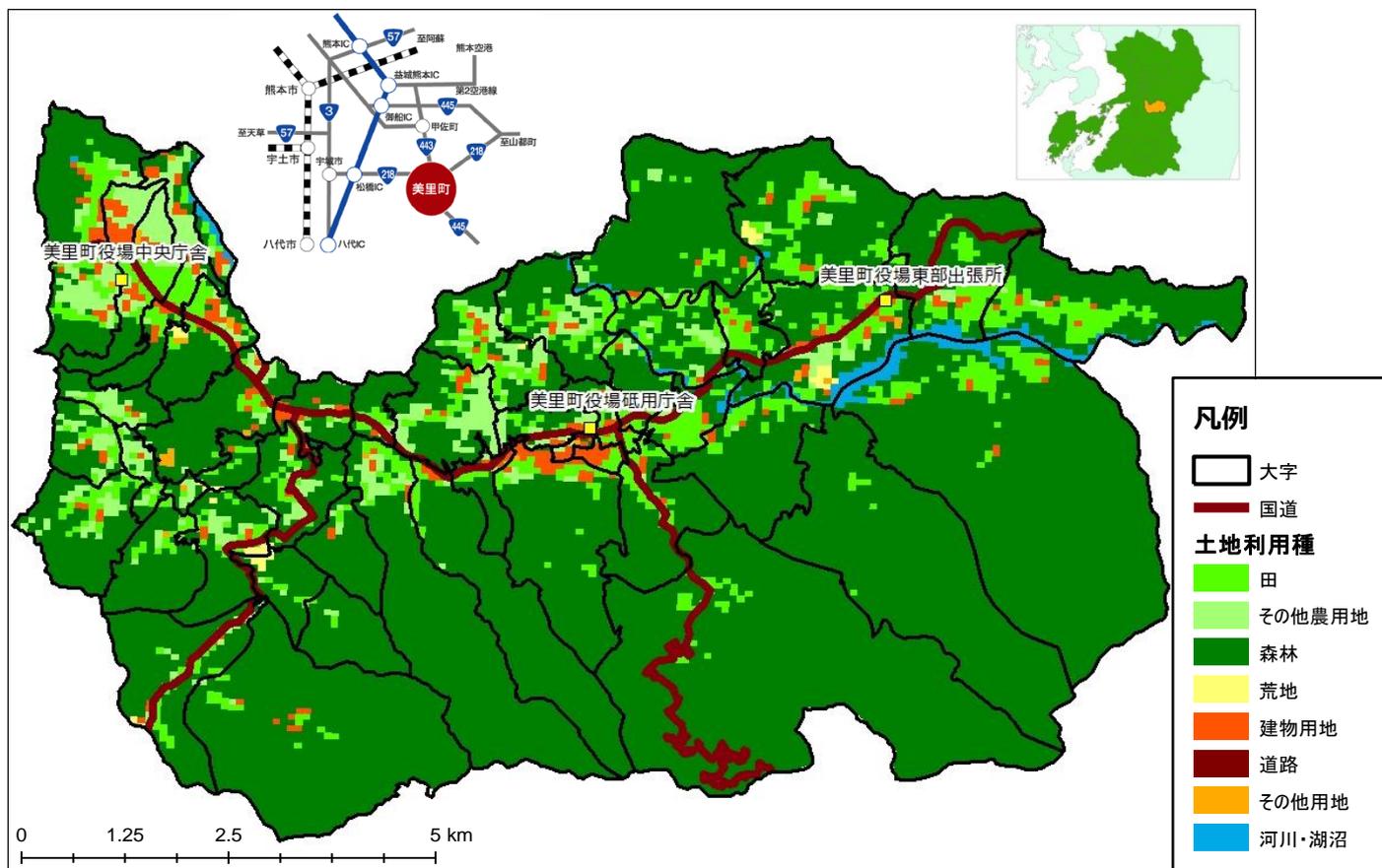


図 美里町の地勢

※国土交通省国土政策局 国土数値情報(土地利用 3 次メッシュデータ)を基に作成

2.人口動態

2-1.人口推移(総人口、年齢階層別)

本町の2010年時点での人口は11,388人で、2005年から2010年までの5年間で866人減少しています。一方で65歳以上(高齢人口)の割合は38.3%で、2.4ポイント上昇しています。また、15歳未満(年少人口)は197人減少し、その比率は10.5%から9.6%へと減少しています。2015年の国勢調査によると、総人口は10,333人(2010年比1,055人減)に減少しており、前5年間よりも減少速度が上がっています。

また本町の男女年齢別人口ピラミッドを見ると、2010年ではいわゆるつぼ型をしています。2040年には逆富士山型とでもいう様な、これまでにない人口構造をとることが予想されています。

国立社会保障・人口問題研究所によると、人口減少と少子高齢化は今後も継続するものと見込まれ、30年後の2040年には総人口が約6,600人程度まで減少し、高齢人口が生産年齢人口、年少人口を上回る規模になると推計されています。

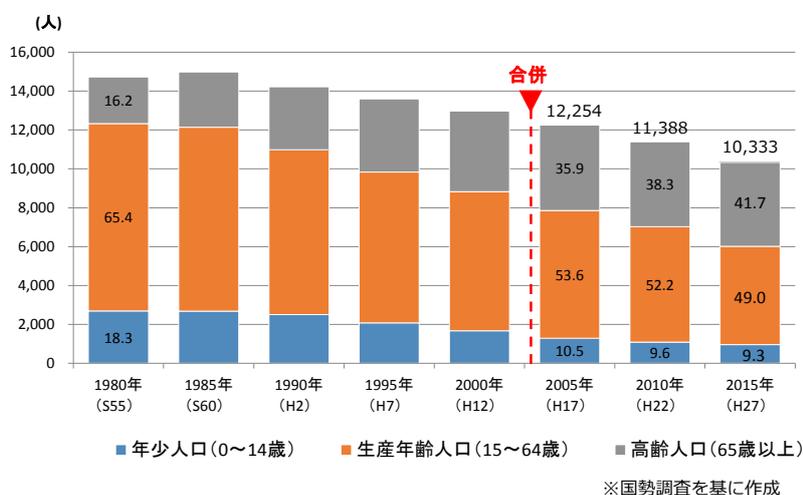
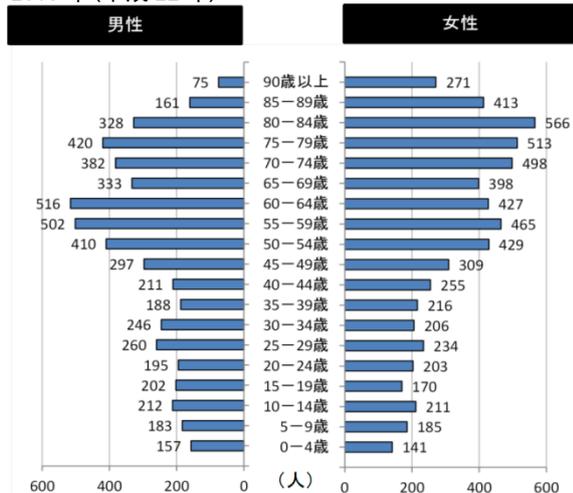


図 美里町年齢3区分別人口推移

2010年(平成22年)



2040年(平成52年)

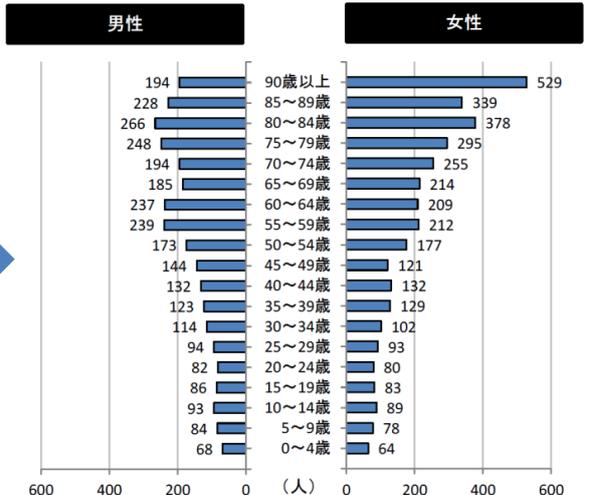


図 人口ピラミッド(左:2010年 右:2040年)

※「美里町人口ビジョン」より

一方で、本町は平成 27 年 11 月に「美里町人口ビジョン」を策定しており、国立社会保障・人口問題研究所の 2060 年(45 年後)推計人口である 4,117 人を 1,635 人上回る、5,752 人を本町の目指す将来人口としています。

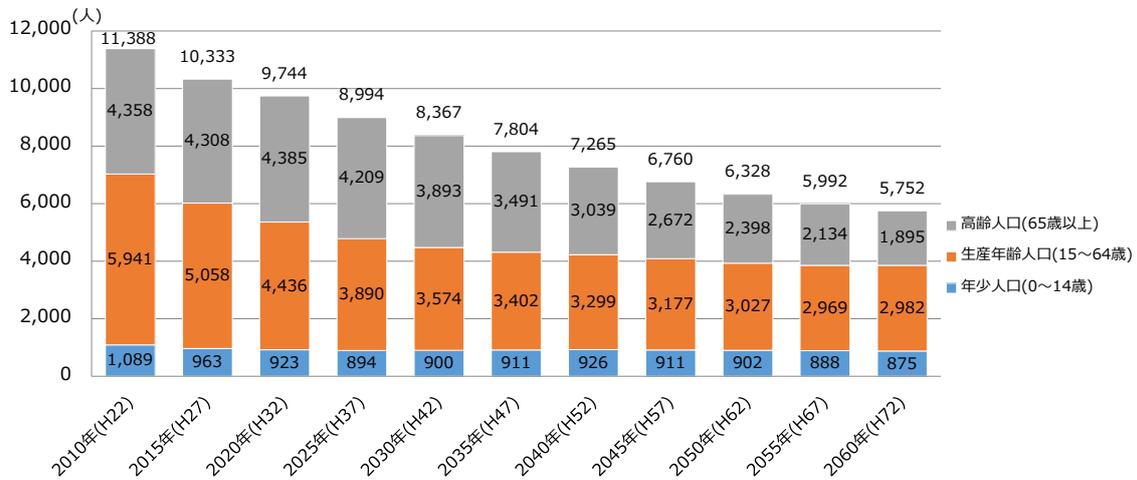
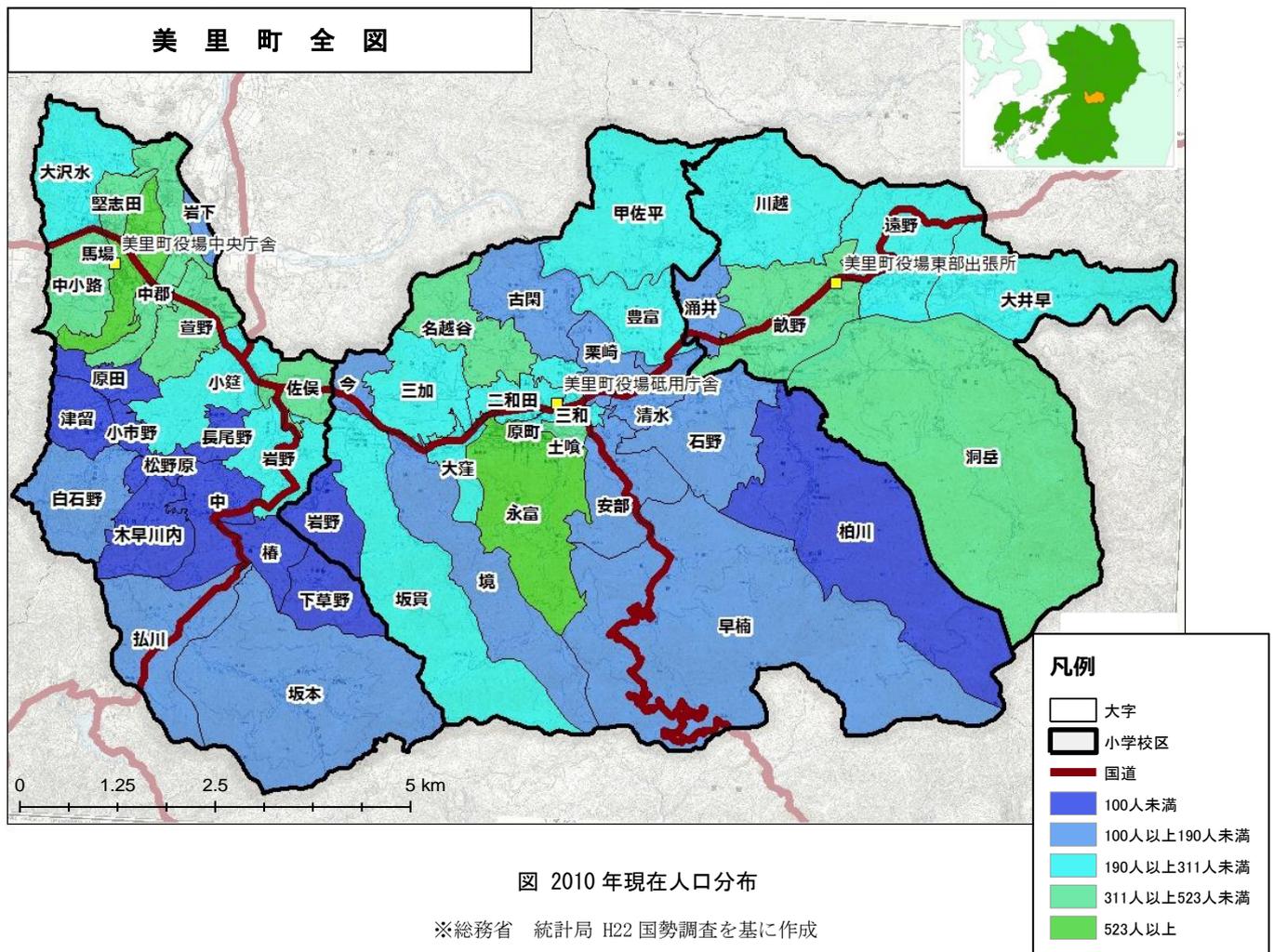


図 美里町独自推計(パターン3)年齢3区分別将来人口

※「平成 27 年国勢調査」「美里町人口ビジョン」を基に作成
 ※平成 27 年の合計値は年齢不明の 4 人を含む数値です

2-2.地区別の人口分布

下図は平成 22 年度国勢調査を基に作成した各地区の人口分布状況です。



3.財政状況

3-1.歳入

本町の平成 27 年度普通会計の歳入総額(予算)は約 75 億円となっています。このうち、一般財源の地方交付税は 35 億円で、歳入の約 47%を占めています。今後の歳入見通しでは、この地方交付税の多くを占める普通交付税について、10 年間にわたる合併に伴う優遇措置が平成 26 年度で終了し、平成 27 年度からの 5 年間で当該算定による増加額が段階的に縮減されることや、生産年齢人口の減少による町税の減少等を考慮し、平成 35 年度では歳入総額を約 62 億円と見込んでいます。

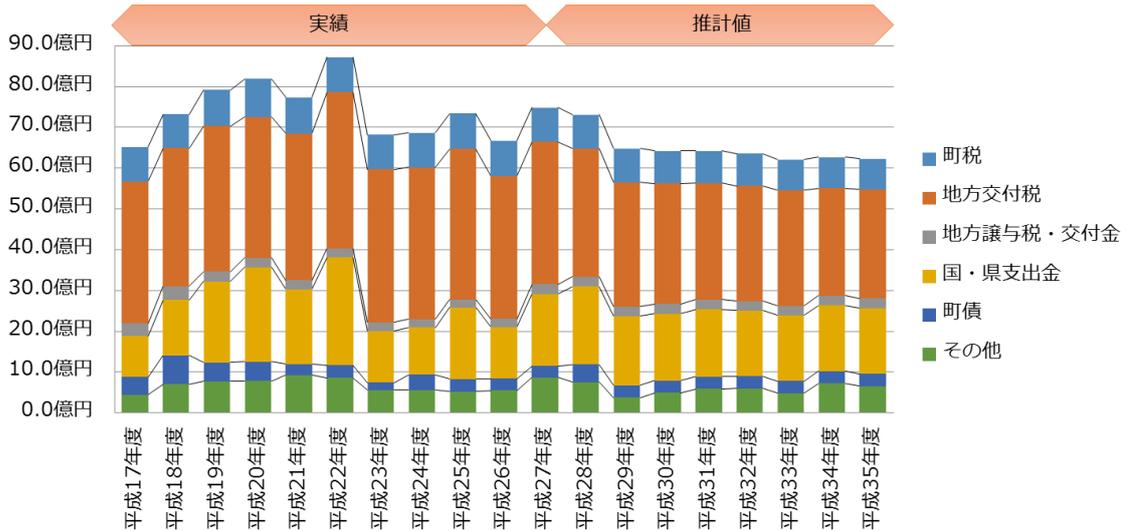


図 性質別歳入額推移

※平成 27 年度美里町財政見通しを基に作成

3-2.歳出

本町の平成 27 年度普通会計の歳出総額は約 69 億円と見込まれており、このうち義務的経費である人件費は職員適正化計画に基づく職員数削減、退職手当組合特別負担金、議員定数の改正等により縮減すると見込んでいます。投資的経費においては道整備交付金事業や、元気な地域づくり交付金事業など補助事業を中心に見込んでおり、平成 35 年度では約 10 億円と見込んでいます。

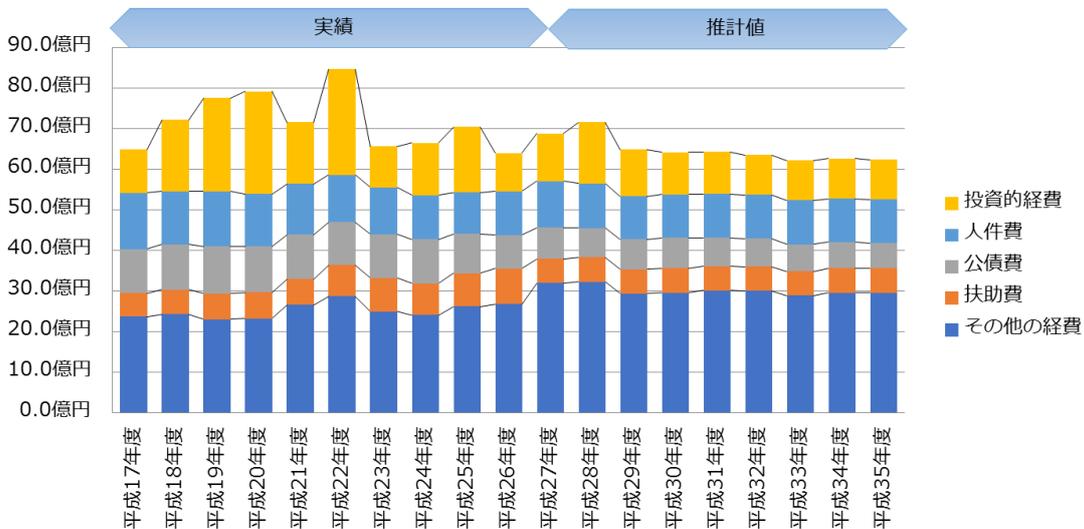


図 性質別歳出額推移

※平成 27 年度美里町財政見通しを基に作成

4.公共施設の概要

本白書にまとめる対象施設は本町が保有する公共施設の全体像を把握するため、インフラ施設を含むすべての公共施設とします。

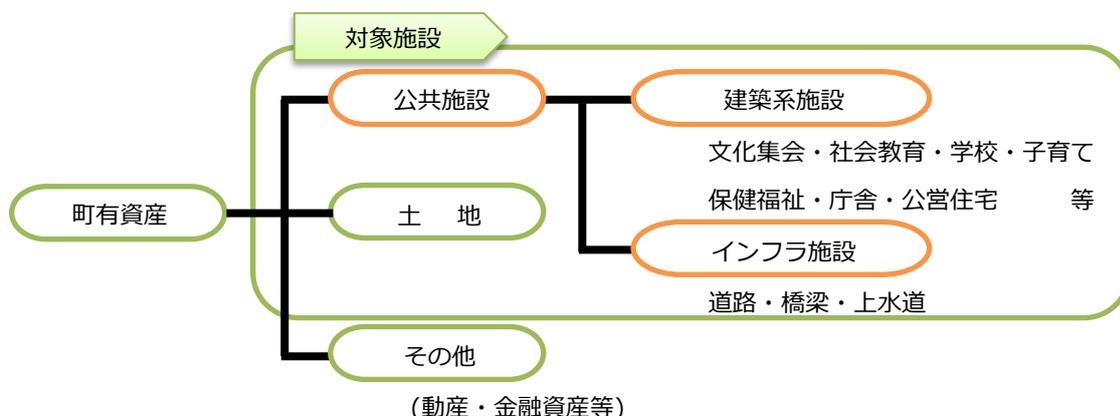


図 白書にまとめる対象施設

特に断りのある場合を除き、建築系施設については、本町が管理している平成 26 年度 3 月末時点の固定資産台帳を基に整理しています。

また、対象施設は次の表に示す建築系施設の分類表に従って、機能(用途)別に整理分類します。

表 公共施設の保有量と施設の分類

施設用途(大分類)	施設用途(中分類)	施設数	棟数	延床面積(m ²)	
文化集会系施設	集会施設	31	38	8,326.99	
		31	38	8,326.99	
社会教育系施設	図書館	2	2	290.62	
		2	2	290.62	
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	17	32	14,135.51	
		レクリエーション・観光施設	11	89	7,460.46
		28	121	21,595.97	
産業系施設	産業系施設	2	2	233.34	
		2	2	233.34	
学校教育系施設	学校	5	63	23,078.63	
		5	63	23,078.63	
子育て支援施設	幼保・こども園	2	2	523.04	
		2	2	523.04	
保健・福祉施設	高齢者福祉施設	5	11	4,578.87	
		5	11	4,578.87	
行政系施設	庁舎等	4	8	6,208.26	
		4	8	6,208.26	
公営住宅	公営住宅	16	81	14,278.08	
		16	81	14,278.08	
公園	公園	8	15	445.34	
		8	15	445.34	
その他	その他	23	40	4,235.13	
		23	40	4,235.13	
上水道施設	上水道施設	10	14	638.62	
		10	14	638.62	
合計		136	397	84,432.89	

4-1.公共施設の保有量と用途別の内訳

本町が保有する公共施設(建築系)の延床面積の総量は 84,432.89 m²となっています。延床面積を機能(用途)別に見ると、学校教育系施設が 27.3%、スポーツ・レクリエーション系施設が 25.6%、公営住宅が 16.9%と多く、これらで全体の約7割を占めています。一施設当たりの規模(延床面積)については、学校教育系施設と行政系施設が概して大きい傾向にあります。

また構造別延床面積に見ると、鉄筋コンクリート造が 42.4%と大半を占め、鉄骨造が 22.6%、木造が 18.4%と続きます。経過年数別延床面積について見ると 48.2%が建築から 30 年以上経っていることがわかります。

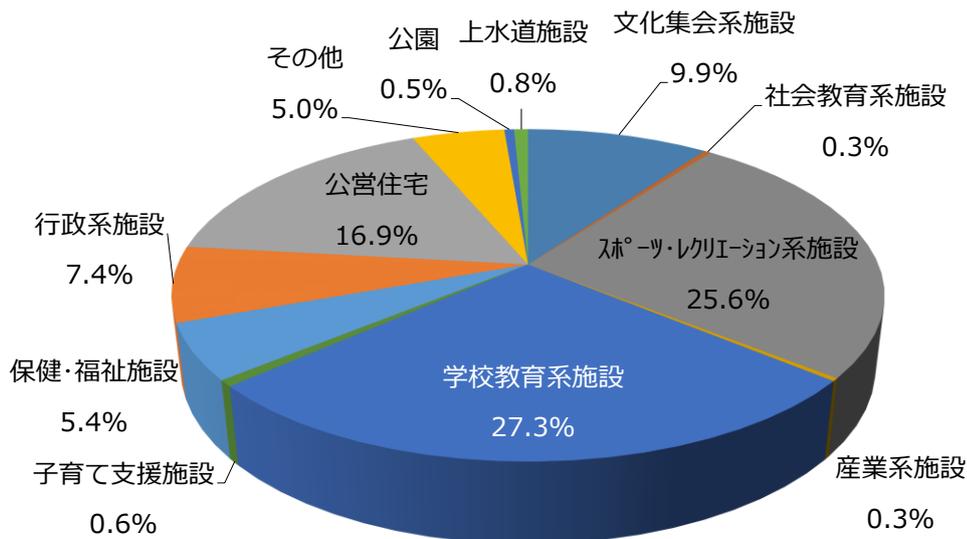


図 類型別延床面積割合

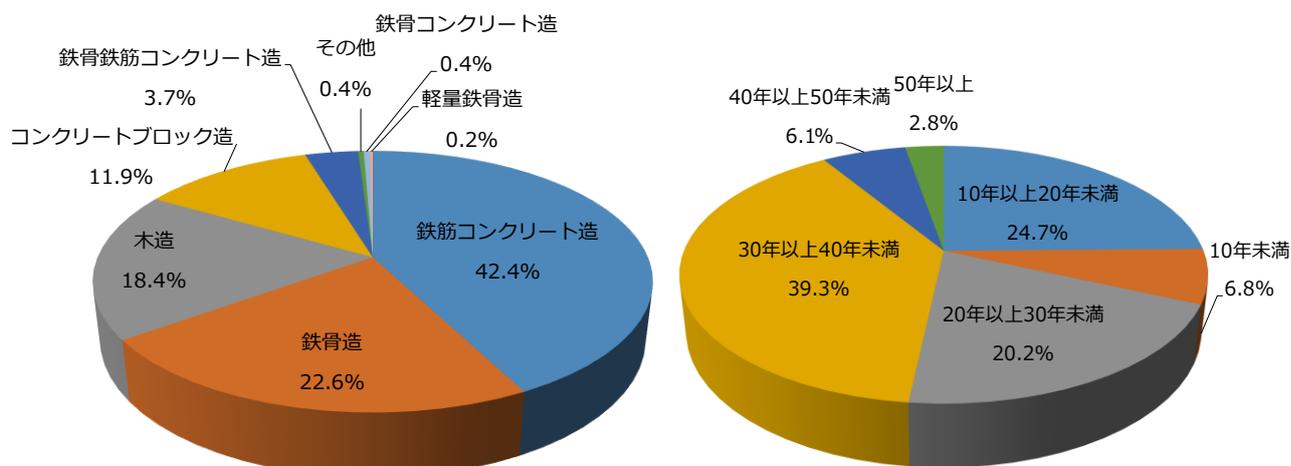


図 構造別延床面積割合

図 経年別延床面積割合

インフラ施設の保有量は以下の通りとなっています。また町有地の総量とその割合を示します。

表 インフラ施設の保有量

種別	内容	施設数量
道路	一般道路延長	293.9 km
	(道路改良率)	(60%)
	自転車歩行者道	11.4 km
	農道	11.3 km
	林道	117.0 km
橋梁	橋梁延長	2.9 橋
	橋梁数	193.0 橋
上水道	管路延長	120.6 km

表 町有地の保有量

地目	延床面積(m ²)
保安林	1,762,771.00
一般山林	1,458,460.93
公衆用道路	1,057,944.28
宅地	346,257.54
公園	214,559.07
用悪水路	185,452.48
学校用地	126,854.79
一般畑	27,954.57
一般田	12,944.75
ため池	11,929.00
水道用地	7,739.00
原野	3,424.93
墓地	2,680.00
防火用水	1,333.00
河川敷	617.56
境内地	22.68
その他雑種地	155,992.97
その他	6,923.10
合計	5,383,861.65

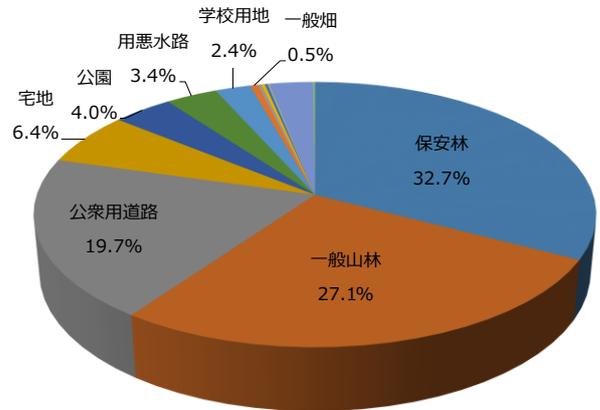


図 町有地の保有量割合

4-2.他自治体との比較

本町の公共施設の町民一人当たりの延床面積は 8.2 m²/人となっています。全国平均である 3.8 m²/人及び熊本県内自治体平均の 4.8 m²/人よりも多くなっている理由としては、住民人口に対する行政面積が広く、人口密度が低いことが挙げられます。また、合併に伴い機能が重複した施設があり、人口規模と比較して多くの施設が配置されていることも一人当たりの延床面積が多い要因となっています。

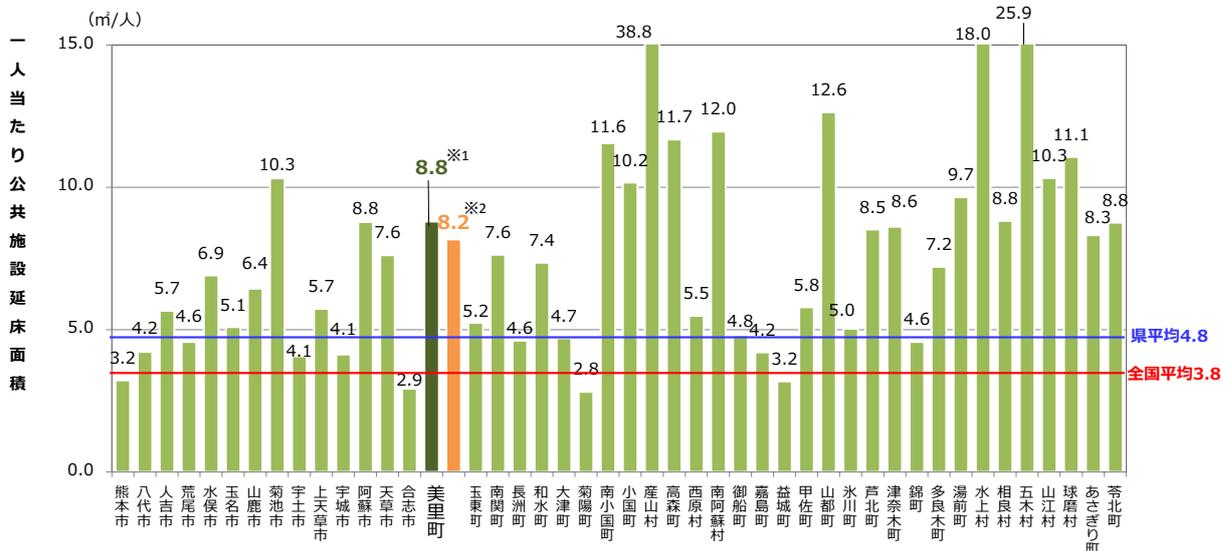


図 熊本県内における住民一人当たり公共施設保有量の比較

※1 延床面積 91,367 m²(平成 26 年度公共施設状況調査)に基づく

※2 延床面積 84,433 m²(平成 28 年 3 月 31 日現在)に基づく

4-3.築年数別の状況

建築系施設を築年度別に見てみると、前述の通り、築30年を超過した建物が40,895.03㎡で全体の48.4%となっています。特に1978(昭和53)年から1983(昭和58)年にかけては合わせて2,000㎡以上の施設が毎年建築されており、この時期に学校教育系施設や公営住宅などが多く建築されたことがわかります。今後、これらの施設やその他の施設についても、徐々に耐用年数を迎え、短期的には修繕、中期的には更新などの検討が必要となります。

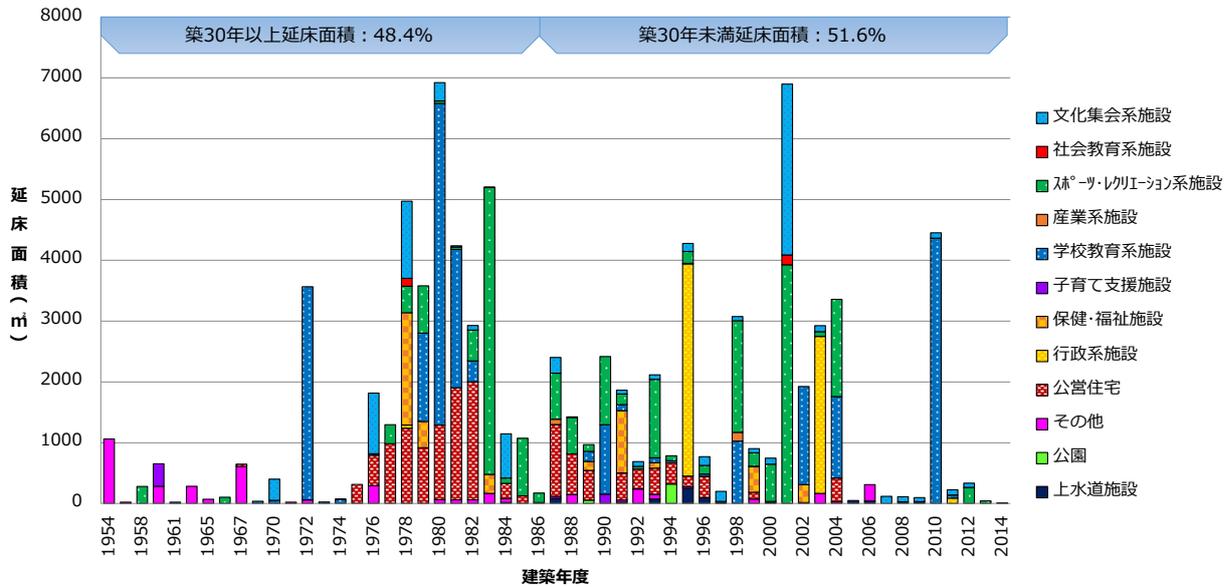


図 築年度別施設類型ごとの延床面積

1981(昭和56)年に建築基準法が改正され、耐震基準が変更となっているので、それ以前に建築された建物はいわゆる旧耐震建物であり耐震性能が低い可能性があります。旧耐震建物であっても学校教育施設の主要な建物は診断・改修が行われており、建築系施設全体の86.4%(延床面積)は耐震性が確保されています。

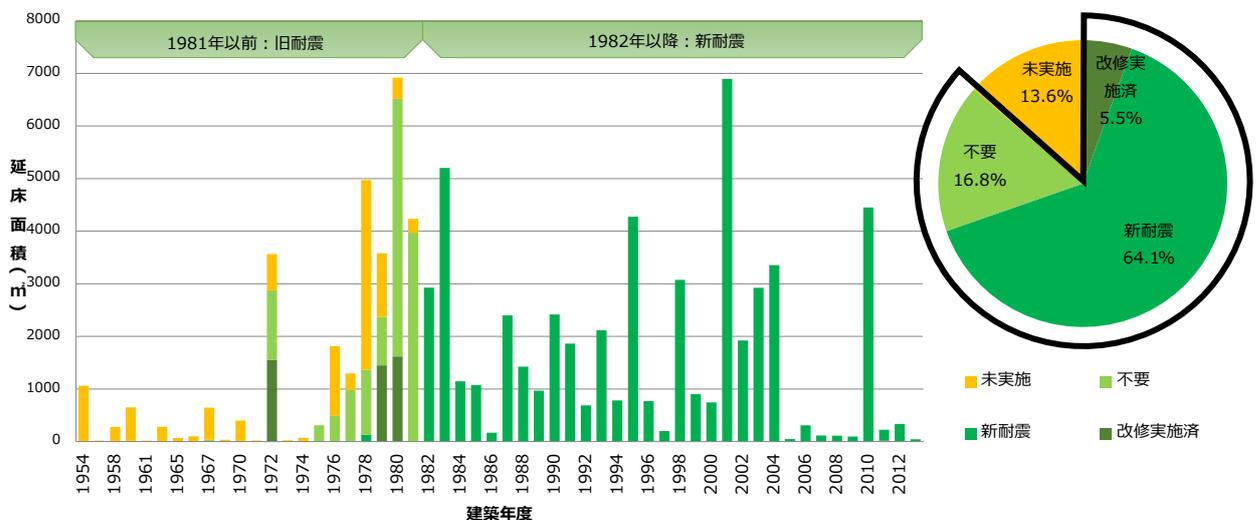


図 保有施設の耐震性

4-4.公共施設の分布

本町が保有する公共施設の配置状況を以下に示します。

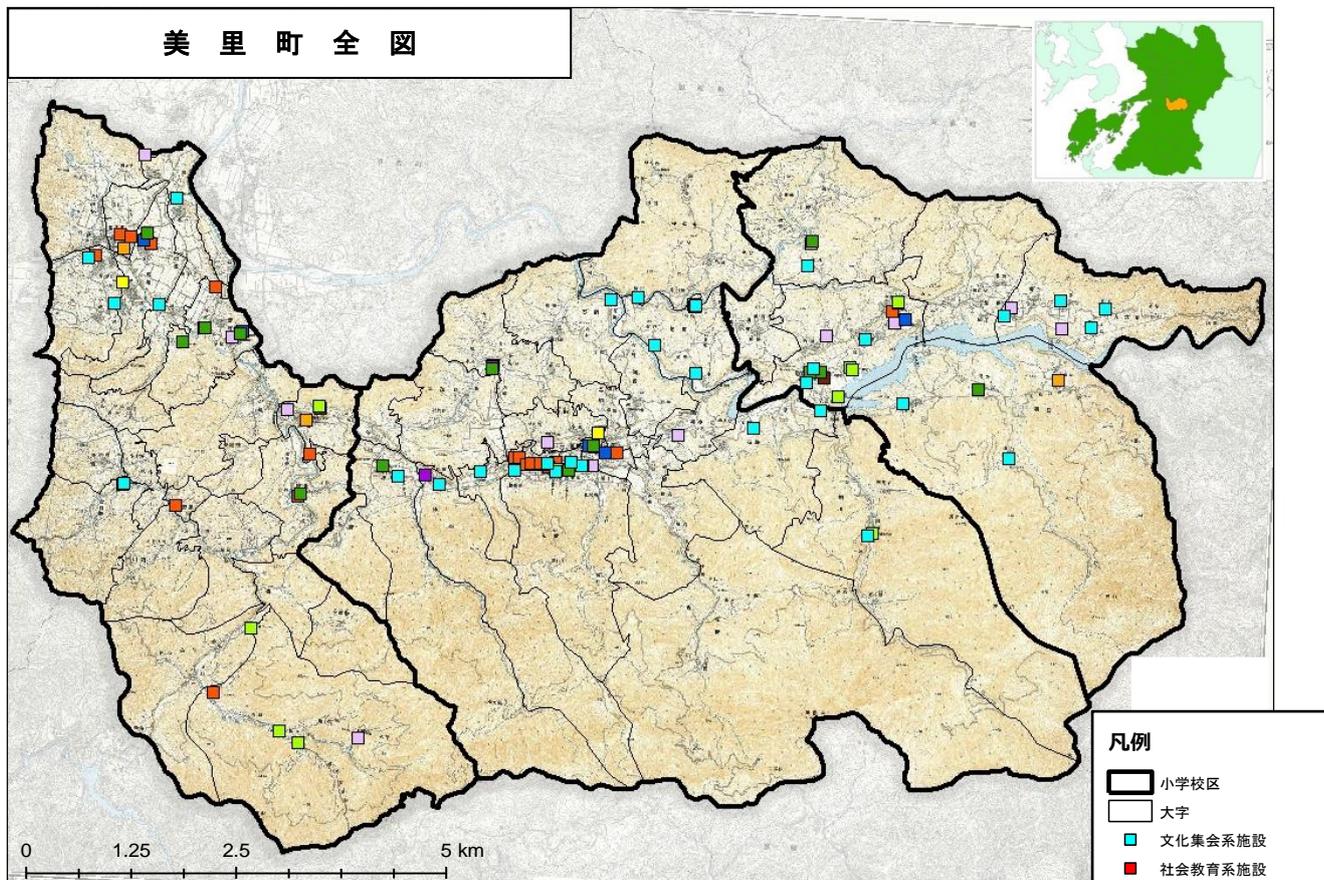


図 公共施設の分布

表 地域別施設保有量(延床面積)

地域	延床面積(m)	地域	延床面積(m)	地域	延床面積(m)
畝野口	12,974.59	大井早	1,282.41	中郡口	316.94
永富口	10,814.03	名越谷	1,182.74	境口	253.12
馬場口	10,810.07	堅志田	793.20	柏川口	188.76
萱野口	10,552.11	中小路	759.67	石野口	115.51
原町口	7,048.63	木早川内	688.00	甲佐平	67.08
佐俣口	7,018.94	坂本口	619.31	二和田	65.55
土喰口	5,405.00	豊富口	618.94	大沢水	64.00
三和口	2,581.20	川越口	612.05	清水口	60.41
払川口	2,444.54	岩野口	610.64	古閑口	41.67
大窪口	2,419.42	坂貴口	606.96	合計	83,069.27
白石野	1,468.00	洞岳口	585.78		

※インフラ施設(公園、上水道施設)等を除く

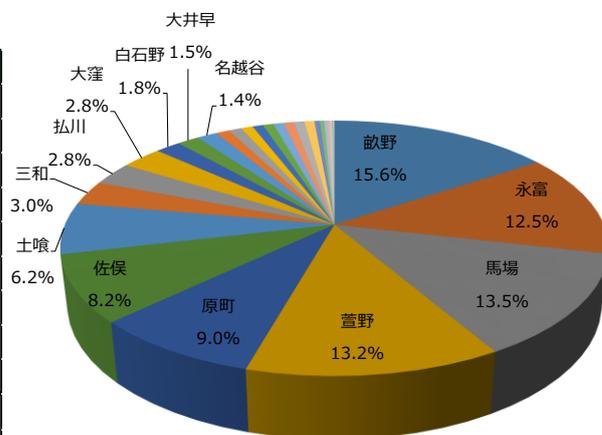


図 地域別施設保有量(延床面積割合)

4-5.公共施設の将来更新費

建築系、いわゆるハコモノ公共施設の更新費用について着目すると、40年間で平均7.24億円となっています。2025年までは、すでに更新期を迎えているが大規模改修のなされていない施設による積み残し分が負担となる見通しです。また、20年後の2035年頃からは一斉に建替えの時期を迎え、2040年頃では例年の投資的経費を大きく上回る更新費用が必要になると予想されます。

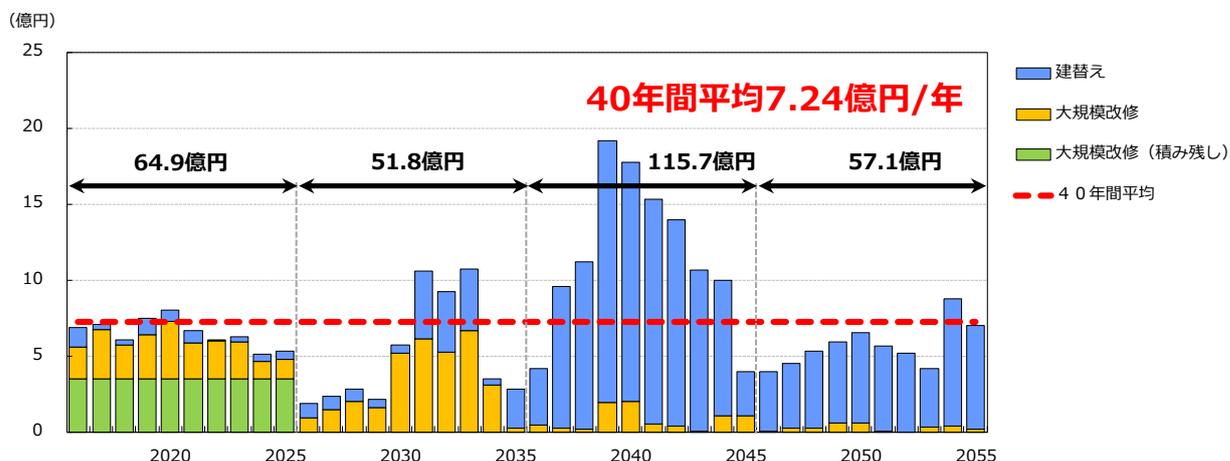


図 公共施設の将来更新費

施設類型ごとの将来更新費を見ると、2035年以降の多くの建物が更新期を迎える時期には特に学校教育系施設、公営住宅の占める割合が大きくなっています。また、施設数及び棟数が多いスポーツ・レクリエーション系施設や学校教育施設、公営住宅については、更新が集中していない時期であっても、ほぼ継続して改修・更新が必要となっています。

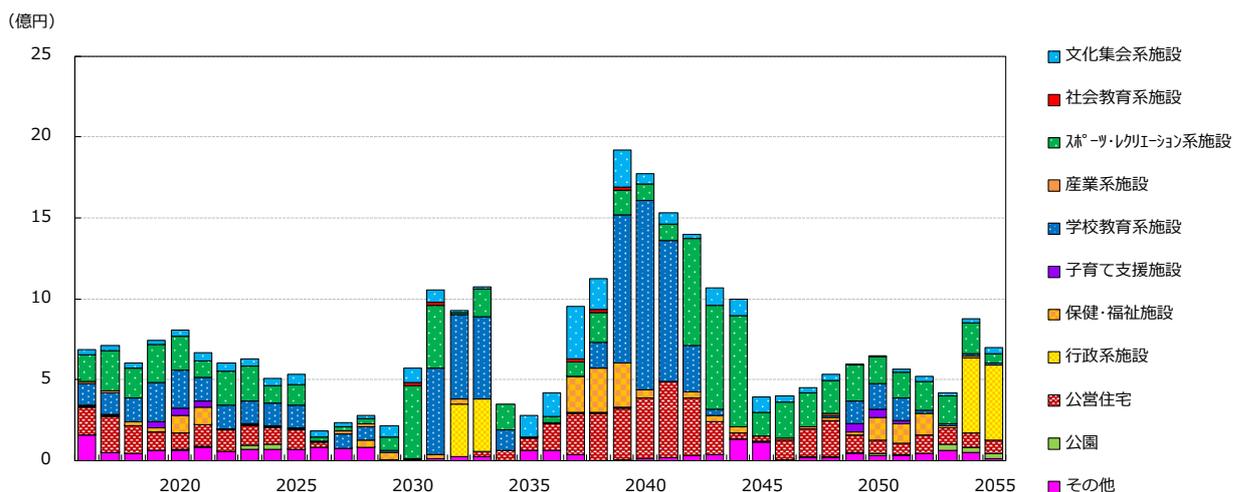


図 類型ごとの将来更新費

4-6.インフラ施設の将来更新費

インフラ系施設について注目すると、40年間の平均で一年当たり約9.1億円の更新費が必要になることが試算されています。その一年当たりにかかる整備額のおおよその内訳は、道路が4.8億円、橋梁が1.3億円、上水道が3.0億円となっており、特に上水道の更新は、単年度で20億円程必要となる箇所も見るすることができます。

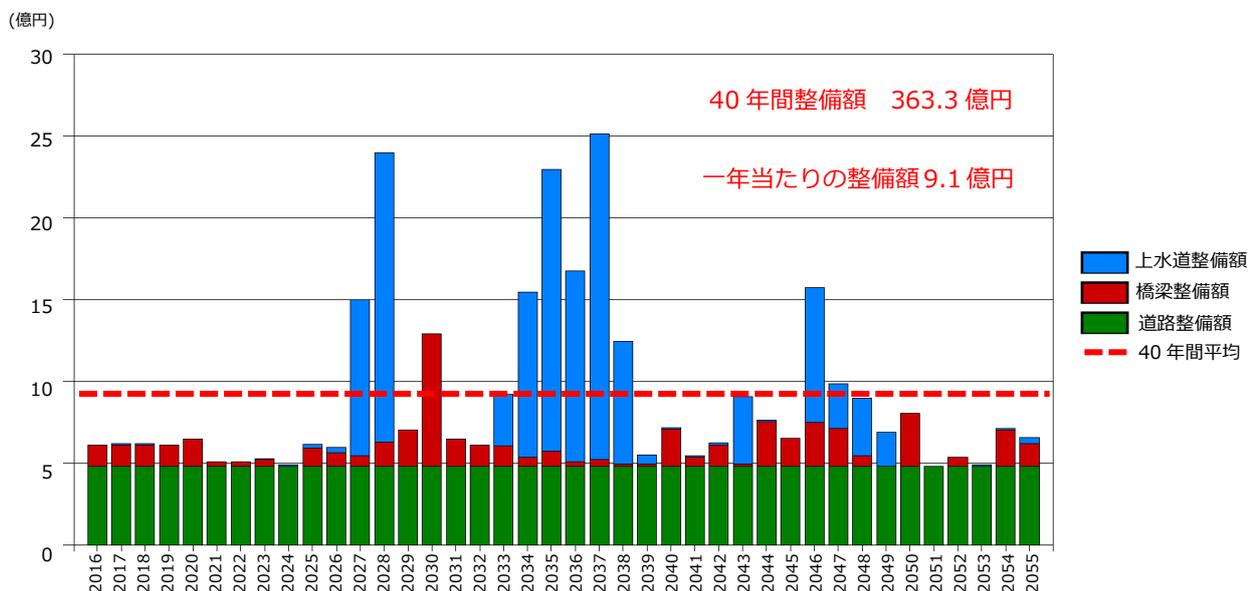


図 インフラ資産の将来の更新費用の推計

4-7.公共施設の将来更新費と財政状況

本町の投資的経費に関する歳出を見ると10億円から20億円程度を推移しており、今後も年間10億円程度である見通しです。このうちの約9割を普通建設事業費が占めており、これが公共施設のために用いられる金額です。一方で、建築系施設の更新に一年当たり7.24億円、上水道を除くインフラ施設に約6.1億円かかるという推計がなされており、公共施設の更新費が将来長期的に大きな負担となることが考えられます。

更新費用推計の前提条件

総務省提供の財団法人自治総合センター更新費推計ソフトに基づき、以下の条件で試算

(1) 建築系施設

①耐用年数の設定

耐用年数 60年（日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」）

②更新年数の設定

- ・建設時より30年後に大規模改修を行い、60年間使用して建替え
- ・現時点で建設時より31年以上、50年未満の施設については、今後10年間で均等に大規模改修を行うと仮定
- ・現時点で、建築時より50年以上経過しているものは、建替えの時期が近いので、大規模改修は行わないと仮定

表1 建築系施設単価

大規模改修		建替え	
文化集会系施設	25 万円/㎡	文化集会系施設	40 万円/㎡
社会教育系施設	25 万円/㎡	社会教育系施設	40 万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設	20 万円/㎡	スポーツ・レクリエーション系施設	36 万円/㎡
産業系施設	25 万円/㎡	産業系施設	40 万円/㎡
学校教育系施設	17 万円/㎡	学校教育系施設	33 万円/㎡
子育て支援施設	17 万円/㎡	子育て支援施設	33 万円/㎡
保健・福祉施設	20 万円/㎡	保健・福祉施設	36 万円/㎡
行政系施設	25 万円/㎡	行政系施設	40 万円/㎡
公営住宅	17 万円/㎡	公営住宅	28 万円/㎡
公園	17 万円/㎡	公園	33 万円/㎡
その他	20 万円/㎡	その他	36 万円/㎡

※建替えについては解体費含む

※単価は、既に先行して更新費用の試算に取り組んでいる地方公共団体の調査実績や設定単価等を基に設定

(2) インフラ施設

- 更新費用（円）＝ 将来年次別更新ストック量（㎡）× 更新単価（円/㎡）とし、道路については総面積を耐用年数で割った値を1年間の更新量と仮定
- RC橋、PC橋、石橋、木橋はPC橋に、鋼橋は鋼橋に更新すると仮定

表2 対象施設の推計条件

対象分野	耐用年数	単価	
道路	15年		4,700円/㎡
橋梁	60年	PC橋	425千円/㎡
		鋼橋	500千円/㎡
上水道	40年	表3参照	

表3 上水道単価

導水管・送水管		配水管			
管径	単価	管径	単価	管径	単価
300mm未満	100千円/m	50mm以下	97千円/m	350mm以下	111千円/m
300～500mm未満	114千円/m	75mm以下	97千円/m	400mm以下	116千円/m
500～1000mm未満	161千円/m	100mm以下	97千円/m	450mm以下	121千円/m
1000～1500mm未満	345千円/m	125mm以下	97千円/m	500mm以下	128千円/m
1500～2000mm未満	742千円/m	150mm以下	97千円/m	550mm以下	128千円/m
2000mm以上	923千円/m	200mm以下	100千円/m	600mm以下	142千円/m
		250mm以下	103千円/m	700mm以下	158千円/m
		300mm以下	106千円/m	800mm以下	178千円/m

第 2 章.公共施設の用途別に見た現状

本章では公共施設を機能(用途)に基づき分類したものを、それぞれの施設類型ごとに利用人数や運営費、耐震改修の状況等を整理しました(平成 27 年 3 月現在)。公共施設マネジメントの対象施設は町保有の“全ての施設”ですが、本白書の第 2 章でコスト等の整理、比較を行う公共施設は“インフラ資産(公園、上水道施設)を除く、施設延床面積が概ね 50 m²以上の主要な施設”です。(例外：田底地区集会所、萱野地区集会所、塚瀬地区集会所、フォレストアドベンチャー・美里、旧永富団地は 50 m²以下ですが記載しています。)ただし、公園、上水道施設についても施設の概要のみ取りまとめています。

本章で扱う施設について

本章で扱う施設の総量は、本町が保有する 136 施設 84,432.89 m²のうち、インフラ資産(公園、上水道施設)を除く、施設延床面積が概ね 50 m²以上の主要な施設である 109 施設 358 棟 83,069.27 m²です。

1) **施設配置状況**では、同類型の施設がどのような間隔、密度で配置されているかを整理しており、地域ごとの施設保有量を把握します。

2) **概要**ではそれぞれの施設における基本的な情報について整理しています。

建物の状況(耐震状況)について

1981(昭和 56)年 6 月に建築基準法が改正され、耐震基準が大きく変更されました。本白書では、1982(昭和 57)年度以降に建築された建物を『新耐震』とし、1981(昭和 56)年以前に建築された建物を『旧耐震』として取りまとめています。(P.9 図 保有施設の耐震性参考)

3) **施設の状況**では、施設の建物としての状態に注目し、各棟レベルでの情報を整理しています。

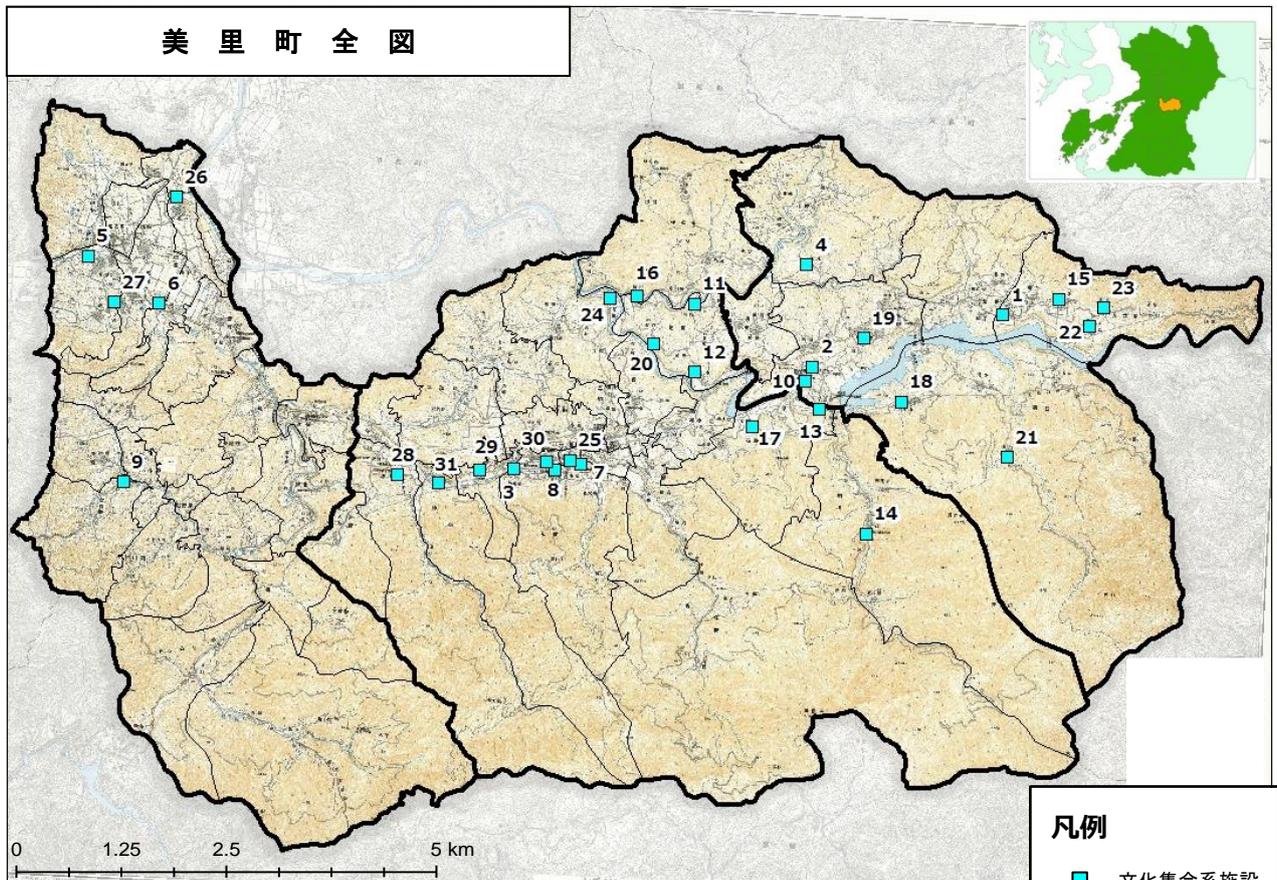
4) **コスト状況**では、平成 24 年度から 26 年度にかかった施設の管理運営に関するコストを比較しています。また延床面積当たりコスト、人数当たりコストは 3 か年の平均コスト、平均人数を用いています。これらの情報はそれぞれの施設、利用人数の規模に対して適切な投資が行われているかを検討する基礎情報となります。赤の破線で表す平均値は値が 0 の施設を除いて計算しています。

5) **サービス状況**ではそれぞれの類型ごとに利用者数や施設の利用率等(3 か年平均)を比較しており、供給に対する利用の状況を把握する基礎情報となります。4) コスト状況と同様に、赤の破線で表す平均値は値が 0 の施設を除いて計算しています。

1.文化集会系施設

1-1.集会施設

1)施設配置状況



番号	施設名称	番号	施設名称
1	美里町大遠多目的集会所	17	石野地区集会所
2	農村婦人の家	18	藤木地区集会所
3	下永富地区農村女性活性化センター	19	水上地区集会所
4	川越用来地区婦人活動促進施設	20	福良地区集会所
5	美里町多目的研修集会施設	21	山出地区集会所
6	美里町中央公民館	22	田底地区集会所
7	美里町公民館低用分館	23	富野地区集会所
8	美里町文化交流センターひびき	24	塚瀬地区集会所
9	美里町公民館西分館	25	原町地区集会所
10	花定野集会所	26	下中郡地区集会所
11	今村集会所	27	中小路地区集会所
12	桑鶴地区集会所	28	坂貫地区集会所
13	明無瀬地区集会所	29	大窪地区集会所
14	柏川地区集会所	30	美里町中永富ふれあいプラザ
15	大辻地区集会所	31	美里町境ふれあいセンター
16	筒川地区集会所		

所在地	延床面積(m)	施設数
永富□	3,146.70	4
境□	98.82	1
原町□	117.00	1
古閑□	41.67	1
甲佐平□	67.08	1
坂貫□	86.95	1
畝野□	444.40	3
石野□	115.51	2
川越□	101.24	1
大井早□	428.41	4
大窪□	84.42	1
中郡□	86.12	1
中小路□	369.00	2
洞岳□	125.77	2
馬場□	1,334.84	1
柏川□	66.12	1
白石野□	1,409.00	1
豊富□	203.94	3
合計	8,326.99	31

図 施設配置図

2)概要

文化集会系施設は地域住民のために、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とし、各種の研修、会議、その他親睦の場を提供し、地域の発展を図るために設置された施設です。本町には31施設あり、うち地区集会所をはじめとする21施設については基本的に各地区によって管理がなされています。

延床面積が1,000㎡を超える施設は3施設あり、最も大きい施設である文化交流センターひびきは2,574.59㎡となっており、続く公民館西分館(1,409.00㎡)、中央公民館(1,334.84㎡)と比べても大きな施設です。

また各地区によって管理がなされている集会所等については概ね100㎡以下ですが、大遠多目的集会所が比較的大きい258.08㎡であり、他には川越用來地区婦人活動促進施設と原町地区集会所が100㎡を上回っています。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (㎡)	管理運営	管理団体	年間運営 開館日数	利用者数
美里町大遠多目的集会所	大井早8679-1	農政係	昭和63年03月	258.08	—	大井早地区・遠野地区	—	—
農村婦人の家	畝野8697	農政係	昭和60年02月	324.00	直営	—	317	615
下永富地区農村女性活性化センター	永富632-1	農政係	平成09年03月	77.17	—	下永富地区	—	—
川越用來地区婦人活動促進施設	川越8#94	農政係	平成10年03月	101.24	—	用來地区	—	—
美里町多目的研修集会所	中小路490	農政係	昭和56年03月	299.00	—	貸付契約者	—	—
美里町中央公民館	馬場61	社会教育係	昭和53年09月	1,334.84	直営	—	341	9,006
美里町公民館低用分館	永富1615-1	社会教育係	昭和59年12月	349.64	直営	—	341	1,244
美里町文化交流センターひびき	永富1483	社会教育係	平成14年03月	2,574.59	指定管理	指定管理者	306	34,620
美里町公民館西分館	白石野21	社会教育係	昭和51年12月	1,409.00	直営	—	341	185
花定野集会所	畝野8701-1	社会教育係	昭和60年03月	54.00	直営	—	—	—
今村集会所	豊富530	社会教育係	昭和52年03月	60.00	直営	—	—	—
桑鶴地区集会所	豊富1514-2	政策企画係	平成06年02月	73.10	—	桑鶴地区	365	—
明無瀬地区集会所	石野1238-4	政策企画係	平成04年03月	50.09	—	明無瀬地区	365	—
柏川地区集会所	柏川1890-4	政策企画係	平成21年12月	66.12	—	柏川地区	365	—
大辻地区集会所	大井早2688	政策企画係	平成05年03月	78.52	—	大辻地区	365	498
筒川地区集会所	甲佐平2987-2	政策企画係	平成09年03月	67.08	—	筒川地区	365	—
石野地区集会所	石野573-1	政策企画係	平成10年03月	65.42	—	石野地区	365	—
藤木地区集会所	洞岳448	政策企画係	平成12年03月	70.72	—	藤木地区	365	—
水上地区集会所	畝野2377-1	政策企画係	平成08年03月	66.40	—	水上地区	365	546
福良地区集会所	豊富2785-1	政策企画係	平成11年02月	70.84	—	福良地区	365	—
山出地区集会所	洞岳2741-3	政策企画係	平成13年02月	55.05	—	山出地区	365	—
田底地区集会所	大井早2165	政策企画係	平成14年03月	46.07	—	田底地区	365	403
菅野地区集会所	大井早1299-3	政策企画係	平成13年02月	45.74	—	菅野地区	365	—
塚瀬地区集会所	古閑866-3	政策企画係	平成14年03月	41.67	—	塚瀬地区	365	—
原町地区集会所	原町19	政策企画係	平成19年12月	117.00	—	原町地区	365	—
下中郡地区集会所	中郡582-1	政策企画係	平成22年12月	86.12	—	下中郡地区	365	—
中小路地区集会所	中小路108-6	政策企画係	平成24年11月	70.00	—	中小路地区	365	—
坂貴地区集会所	坂貴140	政策企画係	平成23年12月	86.95	—	坂貴地区	365	658
大窪地区集会所	大窪516	政策企画係	平成20年12月	84.42	—	大窪地区	365	—
美里町中永富ふれあいプラザ	永富460-1	介護・高齢者支援係	平成13年11月	145.30	直営	—	365	99
美里町境ふれあいセンター	境247	介護・高齢者支援係	平成15年09月	98.82	直営	—	365	400

※管理運営・管理団体については平成27年3月31日現在

3)施設の状況

施設を構成する棟ごとに見ると、45%（延床面積）が築30年以上経過しており、新耐震の割合は68%となっています。大遠多目的集会所を除く200㎡以上の建物は鉄骨造もしくは鉄筋コンクリート造となっており、その他は木造となっています。これらのうち建築年数が30年を超える建物は鉄骨造もしくは鉄筋コンクリート造の建物に多く見られます。中央公民館や公民館西分館等は主要な棟で増改築が行われており、同一施設でも棟ごとの老朽化に差が見られる場合があります。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
美里町大遠多目的集会所	集会所	木造	昭和63年03月	28	258.08	新耐震	—
農村婦人の家	集会所	鉄骨造	昭和60年02月	31	324.00	新耐震	—
下永富地区農村女性活性化センター	集会所	木造	平成09年03月	19	77.17	新耐震	—
川越由来地区婦人活動促進施設	集会所	木造	平成10年03月	18	101.24	新耐震	—
美里町多目的研修集会所施設	集会所	鉄筋コンクリート造	昭和56年03月	35	299.00	未実施	未実施
美里町中央公民館	中央公民館(増築含む)	鉄筋コンクリート造	昭和53年09月	37	1,268.34	未実施	未実施
	車庫	鉄筋コンクリート造	平成08年03月	20	66.50	新耐震	—
美里町公民館低用分館	公民館分館	鉄骨造	昭和59年12月	31	349.64	新耐震	—
美里町文化交流センターひびき	文化交流センター	鉄筋コンクリート造	平成14年03月	14	2,574.59	新耐震	—
美里町公民館西分館	給食室	コンクリートブロック造	昭和57年10月	33	74.00	新耐震	—
	校舎	鉄筋コンクリート造	昭和51年12月	39	937.00	未実施	未実施
	屋外トイレ	コンクリートブロック造	昭和59年03月	32	4.00	新耐震	—
	体育館	鉄骨造	昭和45年12月	45	349.00	未実施	未実施
	プール更衣室	コンクリートブロック造	昭和56年08月	34	20.00	未実施	未実施
	屋外トイレ	コンクリートブロック造	昭和63年11月	27	12.60	新耐震	—
	体育倉庫	木造	平成03年08月	24	12.40	新耐震	—
花定野集会所	集会所	木造	昭和60年03月	31	54.00	新耐震	—
今村集会所	集会所	木造	昭和52年03月	39	60.00	未実施	未実施
桑鶴地区集会所	集会所	木造	平成06年02月	22	73.10	新耐震	—
明無瀬地区集会所	集会所	木造	平成04年03月	24	50.09	新耐震	—
柏川地区集会所	集会所	木造	平成21年12月	6	66.12	新耐震	—
大辻地区集会所	集会所	木造	平成05年03月	23	78.52	新耐震	—
筒川地区集会所	集会所	木造	平成09年03月	19	67.08	新耐震	—
石野地区集会所	集会所	木造	平成10年03月	18	65.42	新耐震	—
藤木地区集会所	集会所	木造	平成12年03月	16	70.72	新耐震	—
水上地区集会所	集会所	木造	平成08年03月	20	66.40	新耐震	—
福良地区集会所	集会所	木造	平成11年02月	17	70.84	新耐震	—
山出地区集会所	集会所	木造	平成13年02月	15	55.05	新耐震	—
田底地区集会所	集会所	木造	平成14年03月	14	46.07	新耐震	—
菅野地区集会所	集会所	木造	平成13年02月	15	45.74	新耐震	—
塚瀬地区集会所	集会所	木造	平成14年03月	14	41.67	新耐震	—
原町地区集会所	集会所	木造	平成19年12月	8	117.00	新耐震	—
下中郡地区集会所	集会所	木造	平成22年12月	5	86.12	新耐震	—
中小路地区集会所	集会所	木造	平成24年11月	3	70.00	新耐震	—
坂貫地区集会所	集会所	木造	平成23年12月	4	86.95	新耐震	—
大窪地区集会所	集会所	木造	平成20年12月	7	84.42	新耐震	—
美里町中永富ふれあいプラザ	集会所	木造	平成13年11月	14	145.30	新耐震	—
美里町境ふれあいセンター	集会所	木造	平成15年09月	12	98.82	新耐震	—

4)コスト状況

本項では、平成 24 年度から 26 年度にかかった施設の管理運営に関するコストを比較します。また延床面積当たりのコスト、人数当たりのコストは 3 か年の平均コストを用いています。

延床面積当たりのコスト(3 年間平均)が最も大きい施設は農村婦人の家で 11.4 千円/㎡となっています。また農村婦人の家は利用者一人当たりのコスト(3 年間平均)が 2 番目に高く 6.1 千円/人となっています。利用者一人当たりのコストが最も高い公民館西分館は 12.6 千円/人となっており、他の施設と比べてかなり高くなっています。文化交流センターひびきの 26 年度コストは 29,157 万円と大きくなっていますが、利用者が多いため、利用者一人当たりのコストは 0.8 千円/人と平均より低くなっています。

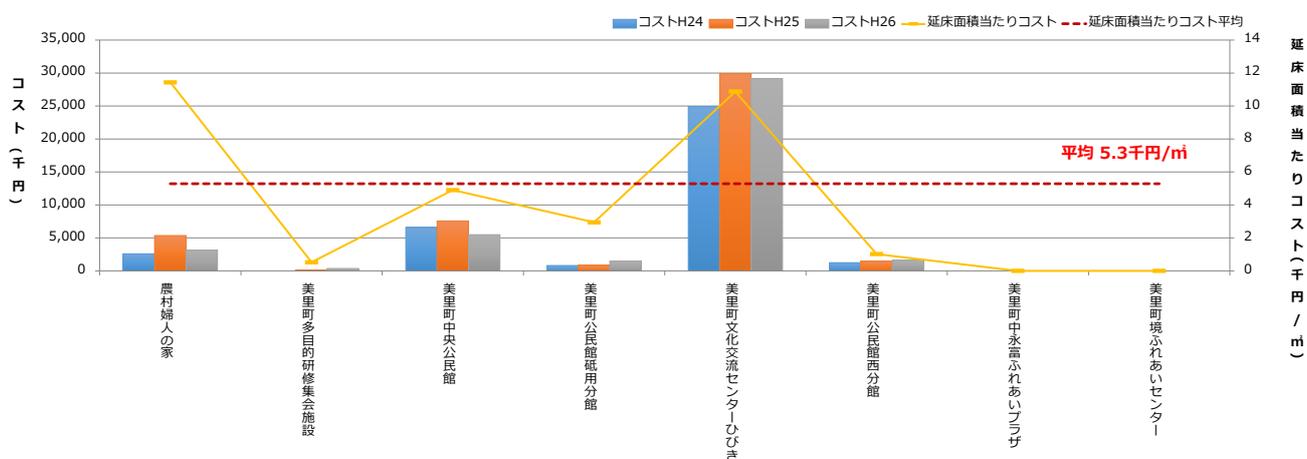


図 延床面積当たりのコスト比較

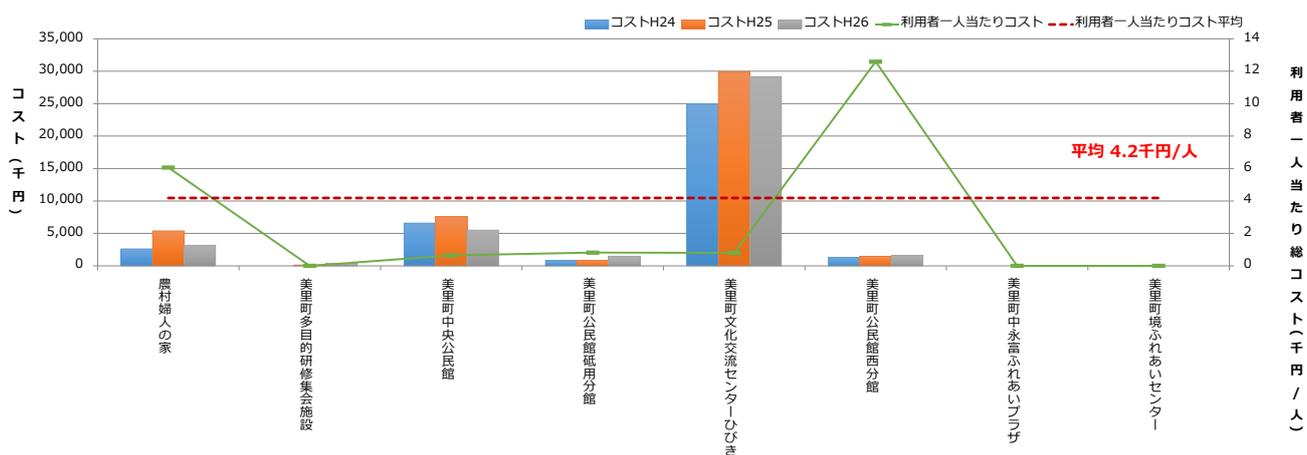


図 利用者一人当たりのコスト比較

※コスト状況、サービス状況については地区によって管理がなされている集会施設を除く施設を比較しています。

5) サービス状況

図では平成 24 年度から 26 年度の利用者数と貸室利用率(3 年間平均)を示しています。貸室利用率は施設の利用可能な居室の利用時間をコマ割りし、その中で利用されているコマ数との割合で算出しています。

利用者数が最も多い施設は文化交流センターひびきで、26 年度には 34,620 人の利用がありました。次に多い中央公民館は 24 年から毎年利用者が減っており、26 年度は 9,006 人と 24 年度から 2,659 人減少しています。

貸室利用率は概して低い傾向にありますが、文化交流センターひびきについては平均すると 14.2% の利用率となっています。その内訳は、ホール、ホワイエ、コミュニティホールの利用率が 20~30% 程度と比較的高く、舞台のみの利用やリハーサル室、大研修室の利用率も 15~20% 程度となっています。一方で和室、コミュニティルーム等、比較的小規模な部屋の利用率は 10% に届かず、特にパソコン室の利用率は 1% 以下となっています。

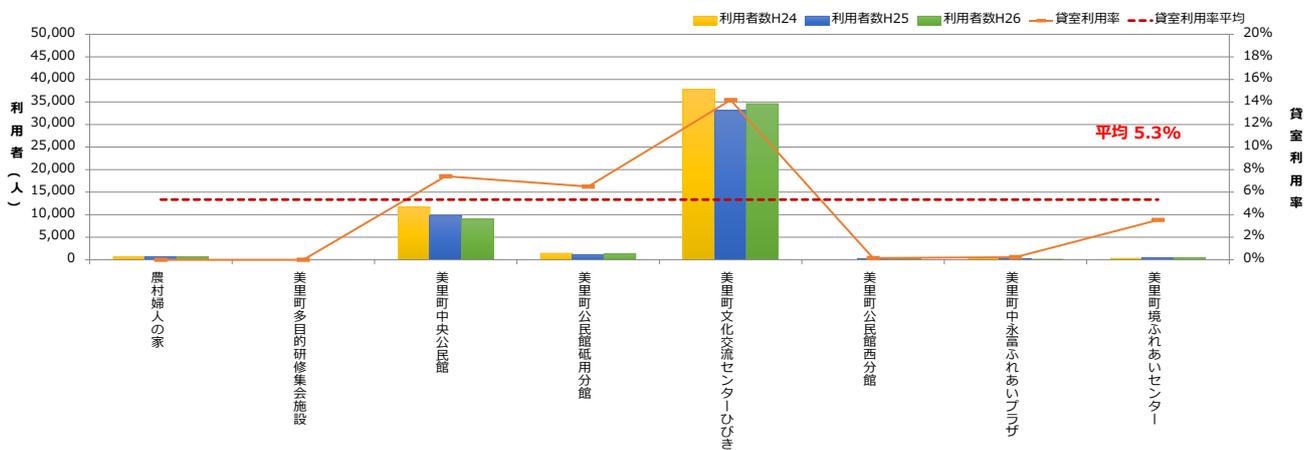


図 利用者数と貸室利用率比較



美里町中央公民館



美里町文化交流センターひびき

2.社会教育系施設

2-1.図書館

1)施設配置状況

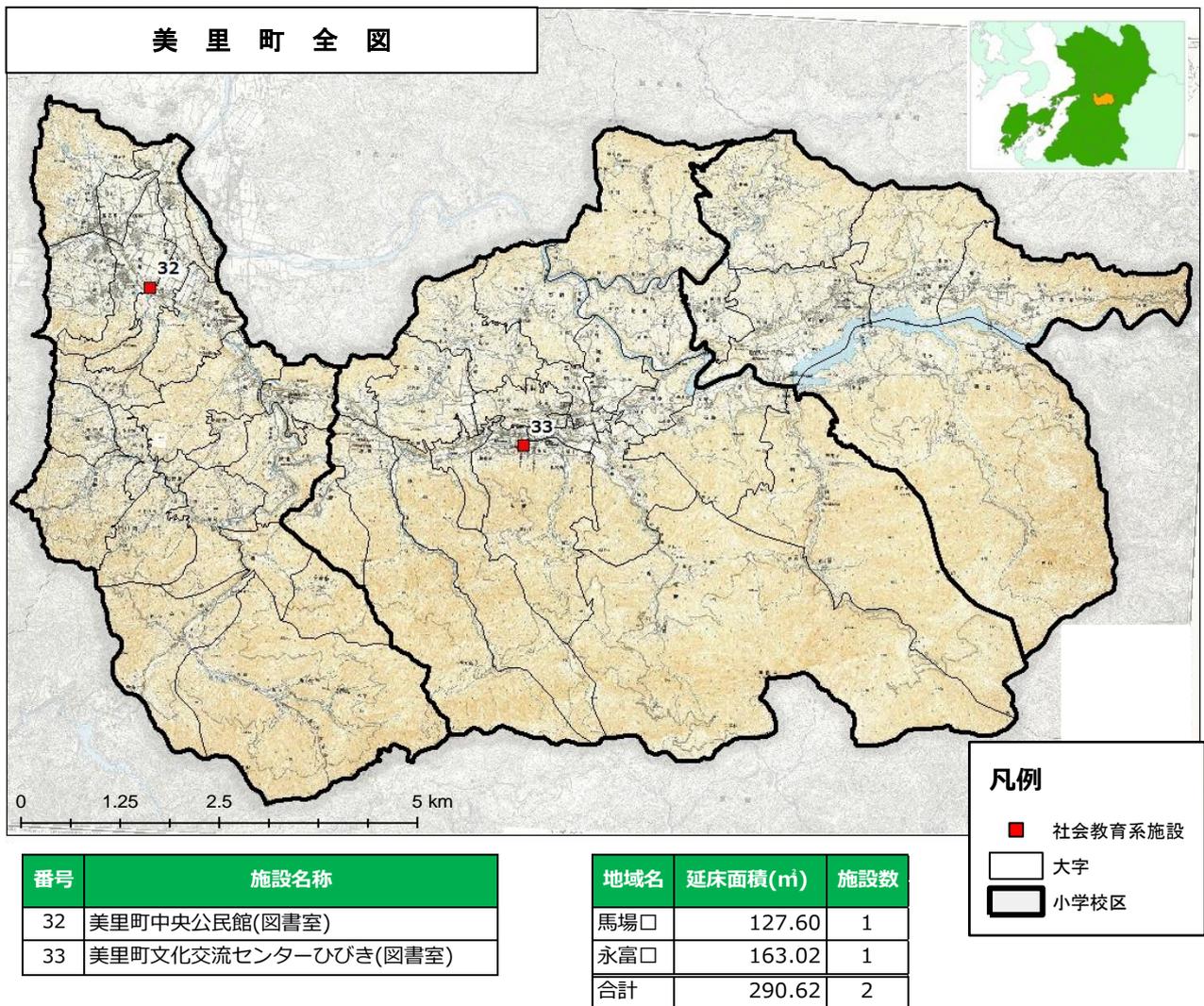


図 施設配置図

2)概要

全国的に見ると、図書館を保有している自治体は4割程度です。本町は図書館を単独施設として保有していないため、中央公民館と文化交流センターひびきの図書室がその役割を担っています。平成26年度時点での蔵書数は、中央公民館図書室が6,535冊、文化交流センターひびき図書室が11,111冊となっており、それぞれ2,143件と4,398件の貸出が行われています。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (㎡)	管理運営	管理団体	蔵書冊数	貸出件数
美里町中央公民館(図書室)	馬場6-1	社会教育係	昭和53年09月	127.60	直営	—	6,535	2,143
美里町文化交流センターひびき(図書室)	永富1-83	社会教育係	平成14年03月	163.02	指定管理	指定管理者	11,111	4,398

※管理運営・管理団体については平成27年3月31日現在

3)施設の状況

中央公民館図書室は127.60㎡、文化交流センターひびき図書室は163.02㎡となっています。中央公民館自体は築30年を超える建物ですが、中央公民館図書室は平成23年度に増改築を行っています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
美里町中央公民館(図書室)	図書室	鉄筋コンクリート造	昭和53年09月	37	127.60	新耐震	—
美里町文化交流センターひびき(図書室)	図書室	鉄筋コンクリート造	平成14年03月	14	163.02	新耐震	—

4)コスト状況

3年間の平均コストは中央公民館図書室が766千円、文化交流センターひびき図書室が3,103千円とおおよそ4倍の差が見られます。文化交流センターひびき図書室では平成26年度に、中央公民館図書室の貸出システムと連動させるためのシステム改修を行っている等の理由から、前年度に比べおおよそ1,700千円高くなっています。

施設の延床面積当たりのコストと利用者一人当たりのコストの両方で文化交流センターひびきが高くなっています。

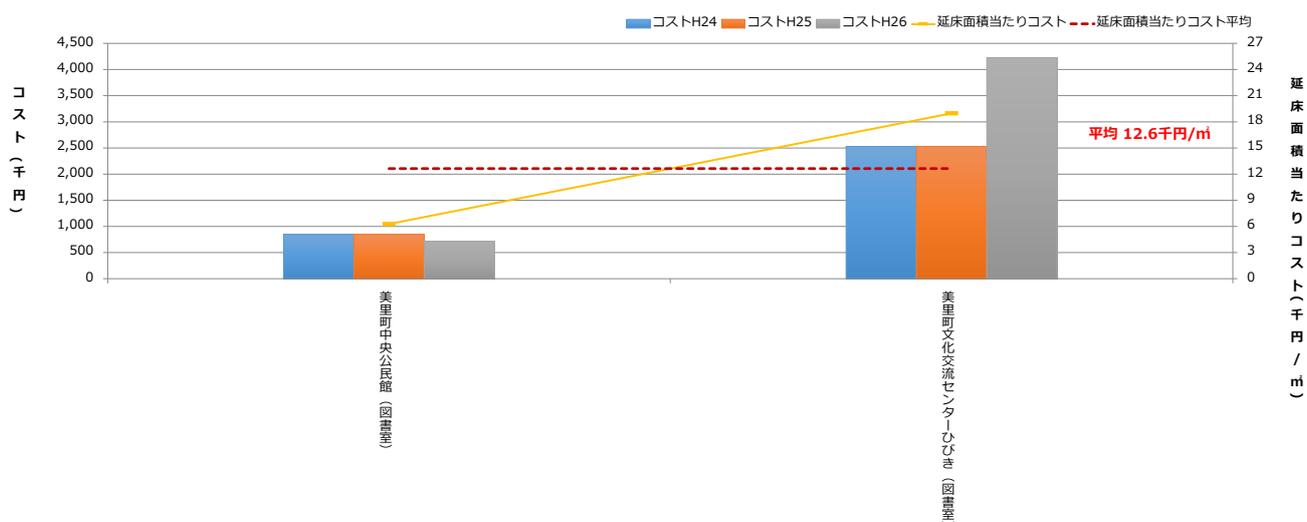


図 延床面積当たりのコスト比較

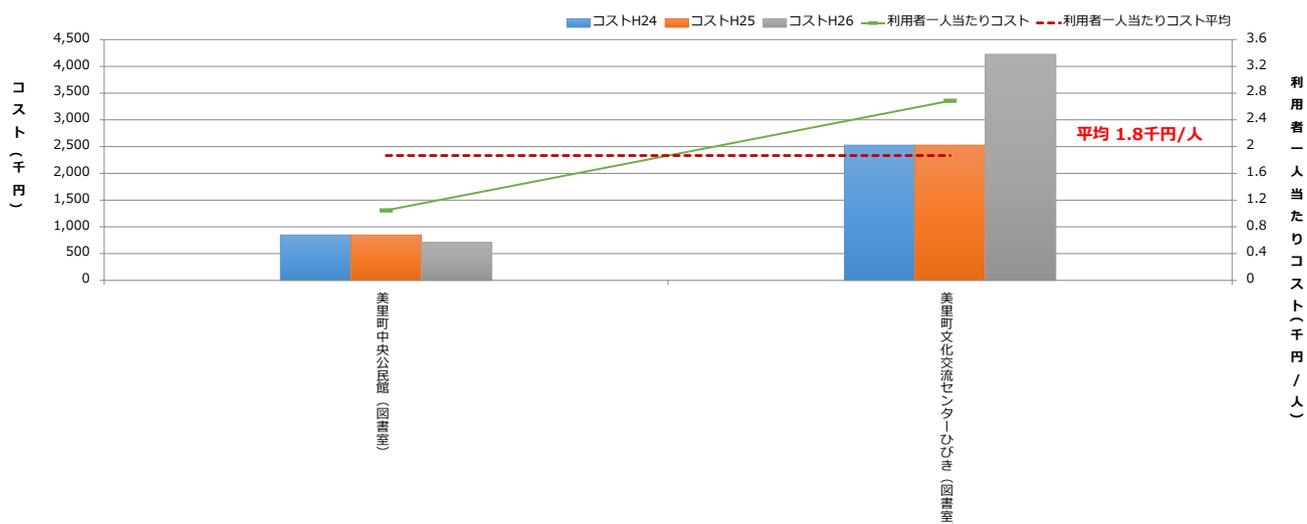


図 利用者一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

利用人数は両施設とも平成 25 年度から 26 年度にかけて増加はしていますが、24 年度の人数と比較すると減少しています。24 年度から 26 年度にかけて中央公民館図書室が 274 人減少して 680 人、文化交流センターひびき図書室が 7 人減少して 1,204 人となっており、中央公民館図書室の利用者が大きく減少しています。

貸出件数は 24 年度から 26 年度にかけて中央公民館図書室が 497 件減少して 2,143 件、文化交流センターひびきが 298 件増加して 4,398 件となっています。利用者一人当たりの貸出件数は 3 年間平均で中央公民館図書室 3.12 件/人、文化交流センターひびき図書室 3.41 件/人となっています。

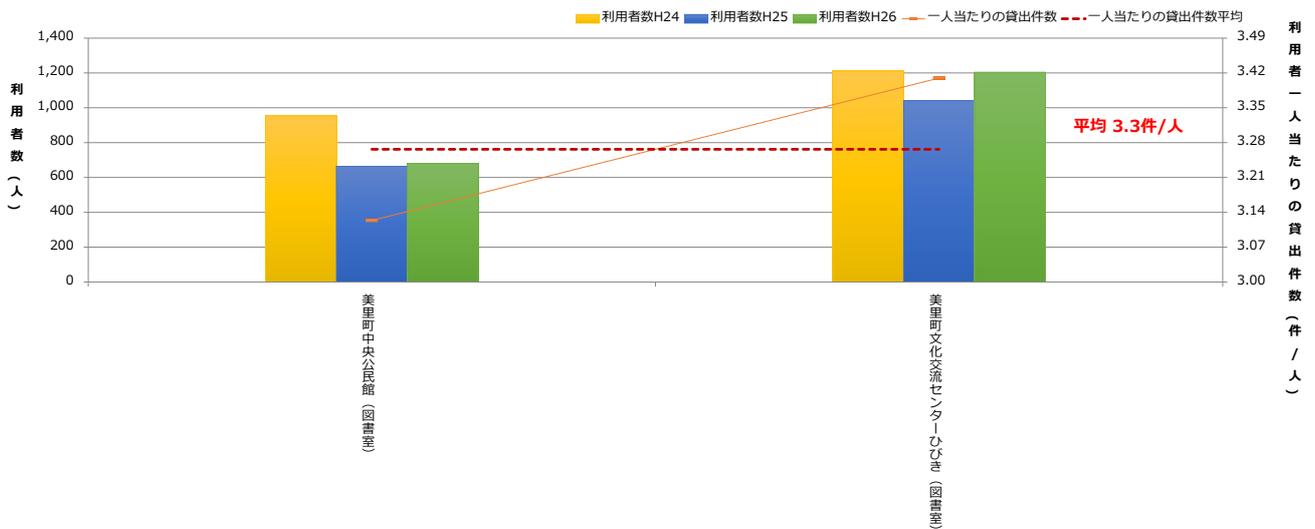


図 利用者数と一人当たりの貸出件数比較



美里町中央公民館 図書室

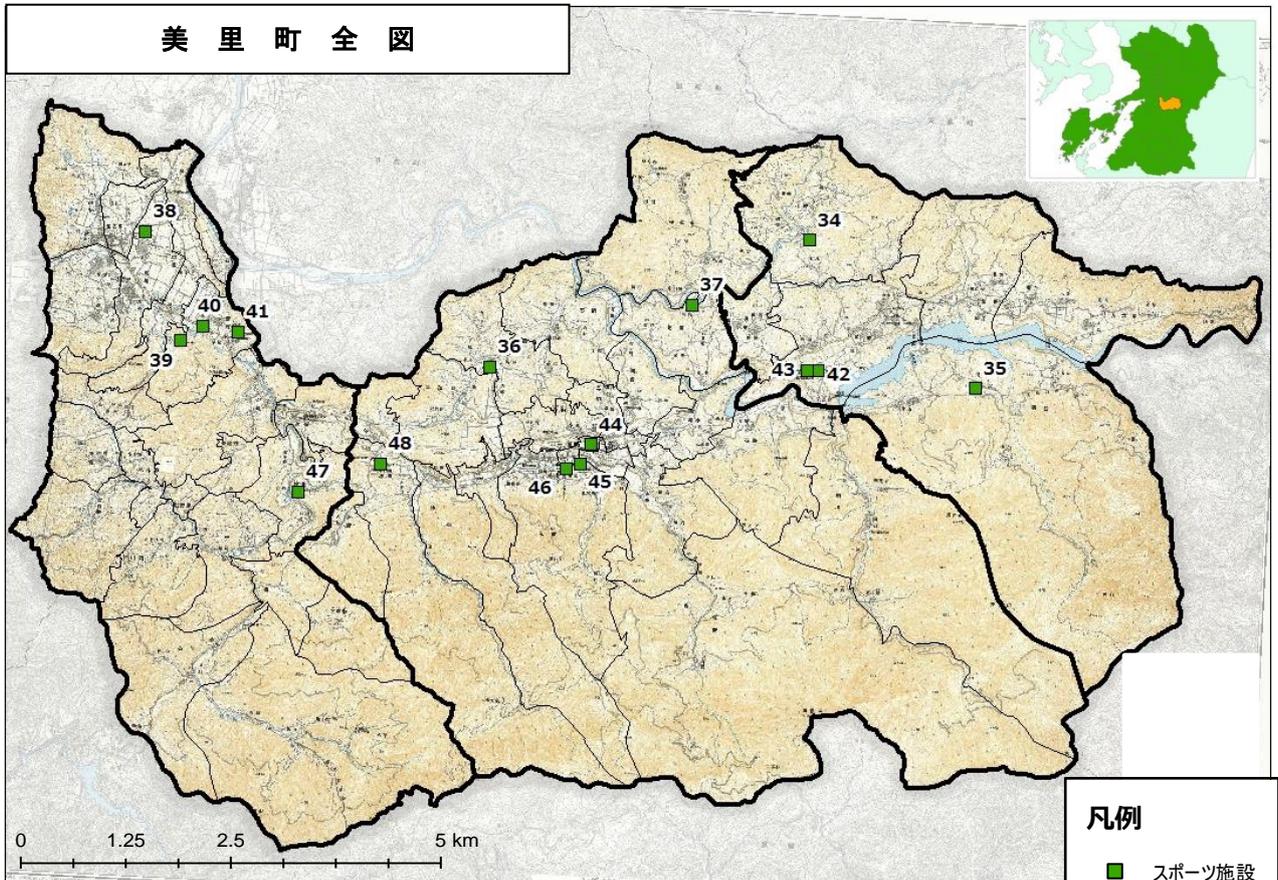


美里町文化交流センターひびき 図書室

3.スポーツ・レクリエーション系施設

3-1.スポーツ施設

1)施設配置状況



番号	施設名称
34	川越社会教育センター
35	洞岳社会教育センター
36	三溪社会教育センター
37	豊富社会教育センター
38	美里町町営球技場
39	美里町カントリーパーク
40	美里町中央屋内ゲートボール場
41	美里町総合体育館
42	美里町低用屋内ゲートボール場
43	美里町低用B&G海洋センター
44	柔剣道場
45	美里町勤労者体育センター
46	美里町スポーツセンター
47	美里町町営岩野グラウンド
48	美里町林業総合センター

所在地	延床面積(m ²)	施設数
永富□	2,508.64	2
萱野□	4,667.49	2
岩野□	299.14	1
原町□	273.00	1
坂貴□	520.01	1
畝野□	4,194.13	2
川越□	363.08	1
中郡□	230.82	1
洞岳□	312.00	1
馬場□	58.50	1
豊富□	102.00	1
名越谷□	531.00	1
合計	14,059.81	15

図 施設配置図

2)概要

スポーツ施設は、地域間の交流や町民の健康増進、スポーツ活動の推進等を目的として設置された施設です。

広い延床面積を持つ屋内スポーツ施設も多く、1,000㎡以上の施設が4施設存在し、そのうち美里町総合体育館と美里町砥用B&Q海洋センターは3,000㎡を超え、他の2施設は2,000㎡以下の規模となっています。その他、美里町町営球技場など屋外スポーツ施設も保有しています。

利用人数は屋外スポーツ施設である美里町カントリーパークが最も多い24,419人、次に美里町総合体育館12,315人、美里町町営球技場10,888人でそれぞれ利用者の多い施設となっています。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (㎡)	管理運営	管理団体	年間運営 開館日数	利用者数
川越社会教育センター	川越B366	社会教育係	昭和57年11月	363.08	直営	—	—	—
洞岳社会教育センター	洞岳D17	社会教育係	昭和52年04月	312.00	直営	—	—	—
三溪社会教育センター	名越谷M24	社会教育係	平成01年02月	531.00	直営	—	—	—
豊富社会教育センター	豊富B30	社会体育係	昭和41年10月	102.00	直営	—	—	—
美里町町営球技場	馬場E44	社会体育係	昭和62年07月	58.50	直営	—	357	10,888
美里町カントリーパーク	中郡I387	社会体育係	平成07年10月	230.82	直営	—	357	24,419
美里町中央屋内ゲートボール場	菅野I580	社会体育係	昭和61年03月	762.50	直営	—	357	734
美里町総合体育館	菅野Z45	社会体育係	平成14年02月	3,904.99	指定管理	指定管理者	305	12,315
美里町砥用屋内ゲートボール場	畝野B53-1	社会体育係	平成03年03月	993.75	指定管理	指定管理者	305	5,038
美里町砥用B&G海洋センター	畝野B701-1	社会体育係	昭和58年04月	3,200.38	指定管理	指定管理者	305	6,288
柔剣道場	原町Z48-1	社会体育係	昭和53年11月	273.00	直営	—	356	1,406
美里町勤労者体育センター	永富I629	社会体育係	昭和59年03月	1,355.75	直営	—	356	5,938
美里町スポーツセンター	永富I517	社会体育係	平成06年03月	1,152.89	直営	—	357	4,889
美里町町営岩野グラウンド	岩野B684	社会体育係	昭和33年12月	299.14	直営	—	357	2,160
美里町林業総合センター	坂貫E63	林務係	平成16年07月	520.01	直営	—	365	4,286

※管理運営・管理団体については平成27年3月31日現在

グラウンド等の屋外を主として利用する施設について、下表に取りまとめました。

総敷地面積はカントリーパークの101,964.70㎡が最大で、続いて農山村広場、総合運動公園となっています。総合運動公園の利用者数は14,125人とカントリーパークに次ぐ人数となっています。

表 屋外スポーツ施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	敷地面積 (㎡)	管理運営	管理団体	年間運営 開館日数	利用者数
美里町町営球技場	馬場E44	社会体育係	昭和62年07月	11,671.00	直営	—	357	10,888
美里町カントリーパーク	中郡I387	社会体育係	平成07年10月	101,964.70	直営	—	357	24,419
美里町町営岩野グラウンド	岩野B684	社会体育係	昭和33年12月	9,045.00	直営	—	357	2,160
美里町総合運動公園	畝野3701-1	社会体育係	昭和55年11月	22,476.00	指定管理	指定管理者	305	14,125
美里町農山村広場	坂貫759	社会体育係	平成16年03月	25,494.00	直営	—	365	—
美里町佐俣せせらぎ広場	佐俣15	社会体育係	—	4,860.00	直営	—	365	—

※管理運営・管理団体については平成27年3月31日現在

※グラウンド面積ではなく総敷地面積（土地面積）を入力

3)施設の状況

37%の建物が建築から30年以上経過しており、中でも豊富社会教育センターは築49年、町営岩野グラウンド武道館は築57年と老朽化しています。また現在、豊富社会教育センター講堂及び町営岩野グラウンド武道館は倉庫として扱われています。耐震状況については93%が新耐震となっています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
川越社会教育センター	体育館	鉄骨コンクリート造	昭和57年11月	33	361.08	新耐震	—
	屋外トイレ	木造	昭和57年11月	33	2.00	新耐震	—
洞岳社会教育センター	体育館	鉄筋コンクリート造	昭和52年04月	38	312.00	未実施	未実施
三溪社会教育センター	体育館	鉄筋コンクリート造	平成01年02月	27	531.00	新耐震	—
豊富社会教育センター	講堂	鉄骨造	昭和41年10月	49	102.00	未実施	未実施
美里町町営球技場	管理棟	コンクリートブロック造	昭和56年11月	34	31.50	未実施	未実施
	倉庫	コンクリートブロック造	平成01年02月	27	14.00	新耐震	—
	倉庫	コンクリートブロック造	平成03年07月	24	13.00	新耐震	—
美里町カントリーパーク	北側トイレ	木造	平成07年10月	20	42.00	新耐震	—
	管理棟	鉄骨造	平成08年10月	19	40.00	新耐震	—
	南側トイレ	木造	平成09年03月	19	43.79	新耐震	—
	東屋1	木造	平成10年03月	18	11.32	新耐震	—
	東屋2	木造	平成10年03月	18	12.96	新耐震	—
	倉庫	木造	平成10年08月	17	80.75	新耐震	—
美里町中央屋内ゲートボール場	屋内ゲートボール場	鉄骨造	昭和61年03月	30	762.50	新耐震	—
美里町総合体育館	総合体育館	鉄筋コンクリート造	平成14年02月	14	3,904.99	新耐震	—
美里町砥用屋内ゲートボール場	屋内ゲートボール場	鉄骨造	平成03年03月	25	993.75	新耐震	—
美里町砥用B&G海洋センター	体育館	鉄筋コンクリート造	昭和58年04月	32	1,102.27	新耐震	—
	屋内プール場	鉄骨造	昭和58年04月	32	1,690.00	新耐震	—
	機械室	鉄骨造	昭和58年04月	32	38.00	新耐震	—
	更衣棟	鉄骨造	昭和58年04月	32	125.25	新耐震	—
	艇庫	鉄骨造	昭和58年04月	32	199.98	新耐震	—
	展望所	鉄筋コンクリート造	昭和59年03月	32	44.88	新耐震	—
柔剣道場	武道館	木造	昭和53年11月	37	273.00	未実施	未実施
美里町勤労者体育センター	体育館	鉄骨造	昭和59年03月	32	1,355.75	新耐震	—
美里町スポーツセンター	多目的球技場	鉄筋コンクリート造	平成06年03月	22	1,152.89	新耐震	—
美里町町営岩野グラウンド	武道館	鉄骨造	昭和33年12月	57	279.00	未実施	未実施
	管理棟	コンクリートブロック造	昭和56年11月	34	8.94	未実施	未実施
	屋外トイレ	木造	平成25年08月	2	11.20	新耐震	—
美里町林業総合センター	体育館	鉄骨造	平成16年07月	11	520.01	新耐震	—

4)コスト状況

最もコストがかかっている施設は砥用 B&G 海洋センターで、平成 26 年度が 17,256 千円であり、延床面積当たりコストが 5.2 千円/m²、利用者一人当たりコストが 2.5 千円/人と他の施設に比べ高くなっています。

次点の総合体育館は 26 年度で 5,941 千円となっており、延床面積当たりコストが 1.5 千円/m²、利用者一人当たりコストが 0.6 千円/人と、砥用 B&G 海洋センターに対し半分以下のコスト状況となっています。

スポーツ施設における利用者一人当たりのコスト平均は他類型の施設と比較して低くなっています。

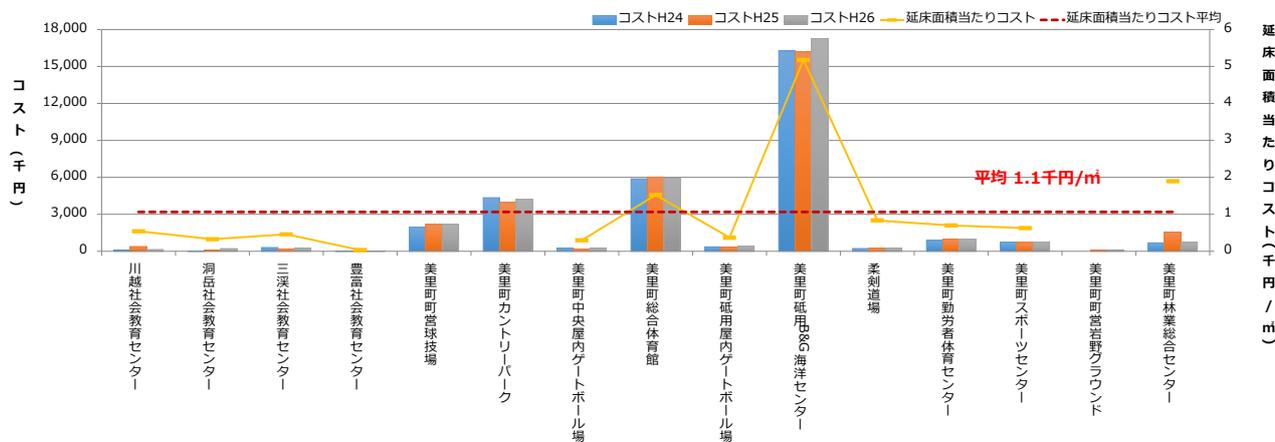


図 延床面積当たりのコスト比較

※町営球技場、カントリーパーク、町営岩野グラウンドについては、屋外スポーツ施設で、建物は管理棟など小規模なものであるため、延床面積当たりコストの比較対象外としています。

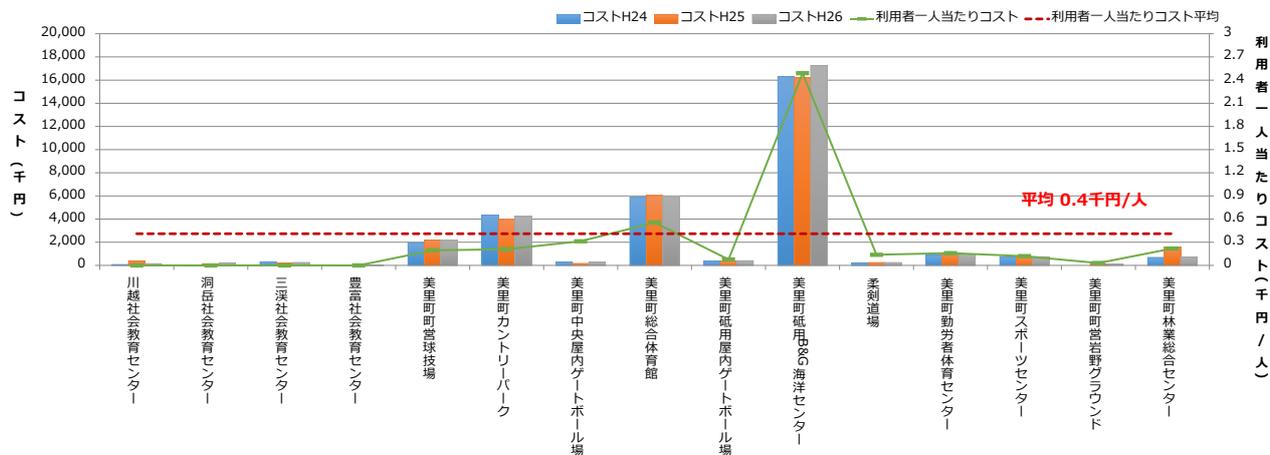


図 利用者一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

利用率については基本的に 25%以上ですが、中央屋内ゲートボール場のみ 7%と他の施設に比べ低くなっています。また各施設の利用者数は 24 年から 26 年にかけてカントリーパークが増加しており、町営岩野グラウンドは変化がなく、その他の施設は減少しています。

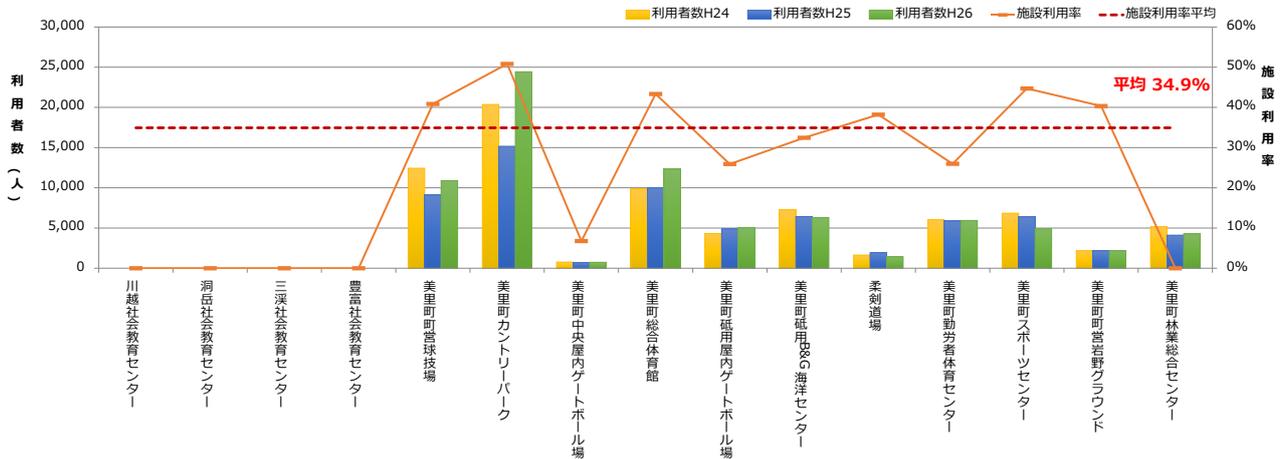


図 利用者数と施設利用率比較



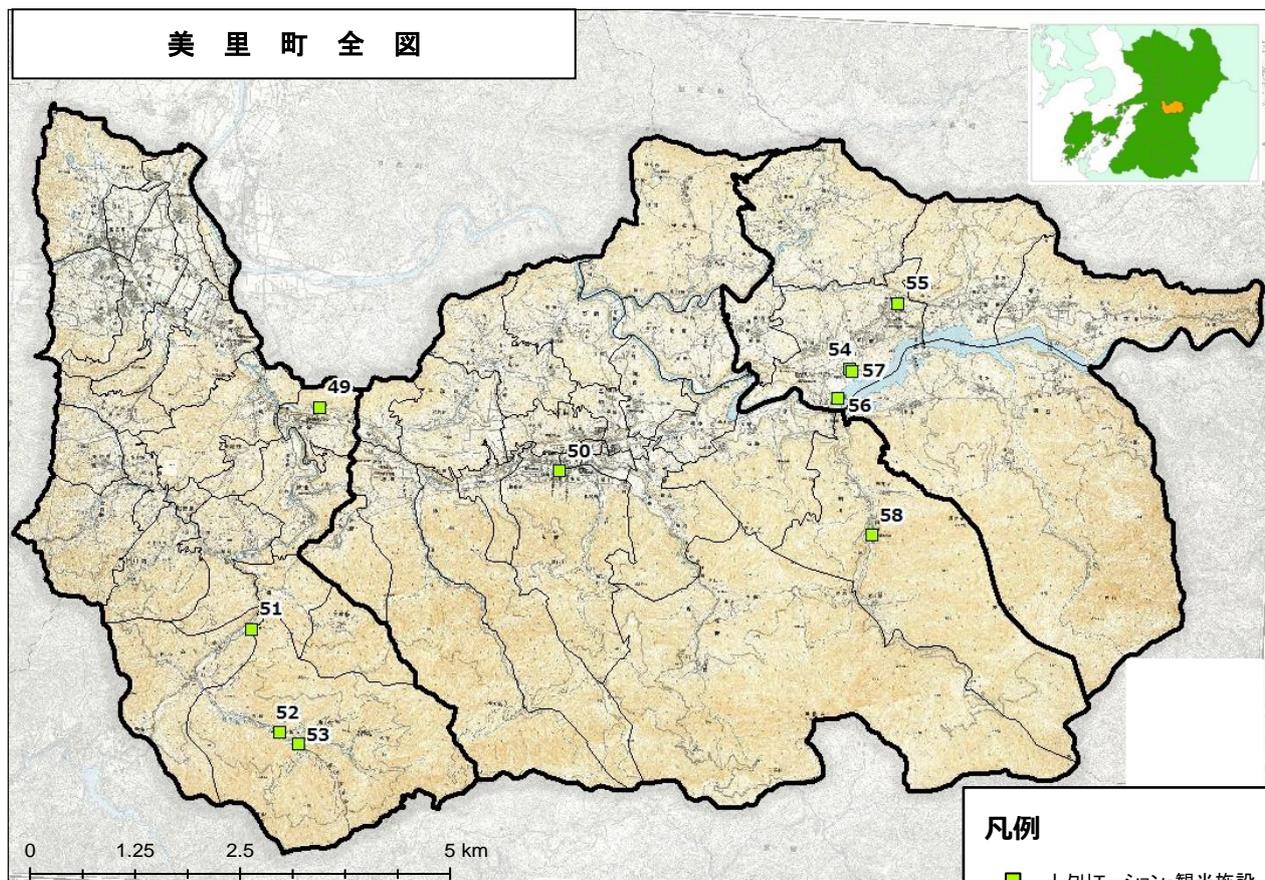
美里町紙用 B&G 海洋センター



美里町スポーツセンター

3-2.レクリエーション・観光施設

1)施設配置状況



凡例

- レクリエーション・観光施設
- 大字
- 小学校区

番号	施設名称
49	美里町総合交流ターミナル
50	美里町陶芸室
51	美里町やすらぎ交流体験施設かじか
52	御坂休憩所
53	御坂遊歩道
54	美里町ガーデンブレイス・家族村
55	東部地区活性化施設（物産館）
56	緑川ダム休憩所
57	フォレストアドベンチャー・美里
58	柏川森林公園

所在地	延床面積(m ²)	施設数
佐俣口	2,369.60	1
永富口	79.53	1
払川口	2,087.74	1
坂本	393.85	2
畝野口	2,349.55	4
柏川口	122.64	1
合計	7,402.91	10

図 施設配置図

2)概要

レクリエーション・観光施設は、地域間交流及び都市と農村の交流を促進し、併せて町民の健康と福祉の増進を図ること等を目的として設置された施設です。

延床面積が広い施設としては、美里町総合交流ターミナルが 2,369.60 m²、美里町やすらぎ交流体験施設かじかが 2,087.74 m²と続き、美里町ガーデンプレイス・家族村が 1,954.13 m²となっています。

美里町総合交流ターミナルは 179,499 人と利用人数が 10 万人を超える施設となっています。

「美里町まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも、フォレストアドベンチャー・美里をはじめとするこれら観光施設を活用した観光産業の成長が期待されています。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体	年間運営 開館日数	利用者数
美里町総合交流ターミナル	佐俣D5	農政係	平成10年10月	2,369.60	指定管理	指定管理者	353	179,499
美里町陶芸室	永富E501	社会教育係	平成08年03月	79.53	直営	—	357	—
美里町やすらぎ交流体験施設かじか	弘川E676-1	社会教育係	平成17年03月	2,087.74	指定管理	指定管理者	307	6,760
御坂休憩所	坂本E51-2	観光商工係	昭和63年03月	106.00	直営	—	0	—
御坂遊歩道	坂本E969	観光商工係	平成03年03月	287.85	直営	—	365	111,523
美里町ガーデンプレイス・家族村	畝野D999-1	観光商工係	昭和63年03月	1,954.13	指定管理	指定管理者	—	8,648
東部地区活性化施設（物産館）	畝野B2-5	政策企画係	平成24年08月	295.50	指定管理	指定管理者	304	14,236
緑川ダム休憩所	畝野B453	観光商工係	平成06年03月	86.77	指定管理	指定管理者	—	—
フォレストアドベンチャー・美里	畝野D83-1	観光商工係	平成27年03月	13.15	直営	—	—	—
柏川森林公園	柏川E28-20	林務係	平成16年08月	122.64	直営	—	90	81

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3) 施設の状況

延床面積で見ると87%が新耐震となっています。レクリエーション・観光施設は施設当たりの棟数が多く、木造建築物の棟数は73%を占めますが、延床面積で見ると38%となっており、数の多い木造建築物は一棟当たりの延床面積が小さいことがわかります。また現在築30年を超える建築物は延床面積ベースで20%となっていますが、あと数年で30年を迎える施設が多く存在しています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況		
						診断状況	改修状況	
美里町総合交流ターミナル	交流ターミナル	鉄骨造	平成10年10月	17	1,724.45	新耐震	—	
	露天風呂	鉄筋コンクリート造	平成10年10月	17	—	新耐震	—	
	屋外調理場	木造	平成10年10月	17	30.14	新耐震	—	
	ロッジ1	木造	平成12年03月	16	66.00	新耐震	—	
	ロッジ2	木造	平成12年03月	16	66.00	新耐震	—	
	ロッジ3	木造	平成12年03月	16	66.00	新耐震	—	
	宿泊施設(集合棟)	木造	平成12年11月	15	372.00	新耐震	—	
	屋外トイレ	鉄筋コンクリート造	平成16年03月	12	35.12	新耐震	—	
	脱衣所増設	木造	平成16年03月	12	9.89	新耐震	—	
美里町陶芸室	陶芸室	鉄骨造	平成08年03月	20	79.53	新耐震	—	
美里町やすらぎ交流体験施設かじか	やすらぎ交流体験施設本館	鉄筋コンクリート造	平成17年03月	11	953.94	新耐震	—	
	用務員棟	木造	昭和54年02月	37	51.00	未実施	未実施	
	食の体験室	鉄骨造	昭和53年10月	37	81.00	未実施	未実施	
	プール更衣室	鉄筋コンクリート造	昭和55年03月	36	14.00	未実施	未実施	
	プール機械室	コンクリートブロック造	昭和49年05月	41	7.00	未実施	未実施	
	渡り廊下	鉄骨鉄筋コンクリート造	昭和54年09月	36	26.00	未実施	未実施	
	体育館	鉄筋コンクリート造	昭和54年09月	36	727.00	未実施	未実施	
	体育館トイレ	鉄筋コンクリート造	昭和55年03月	36	12.00	未実施	未実施	
	体育館裏倉庫	鉄骨造	平成06年03月	22	27.00	新耐震	—	
	野外研修倉庫	鉄骨造	昭和54年03月	37	30.00	未実施	未実施	
	工芸体験室	鉄骨造	昭和58年03月	33	134.00	新耐震	—	
	工芸体験室前倉庫	鉄骨造	昭和61年03月	30	24.80	新耐震	—	
	御坂休憩所	観光案内所	木造	昭和63年03月	28	84.00	新耐震	—
		屋外トイレ	木造	昭和62年03月	29	22.00	新耐震	—
御坂遊歩道	屋外トイレ	木造	昭和62年03月	29	17.00	新耐震	—	
	屋外トイレ	木造	昭和60年03月	31	39.69	新耐震	—	
	屋外トイレ	木造	昭和61年03月	30	15.39	新耐震	—	
	求道の館	木造	平成03年03月	25	65.42	新耐震	—	
	東屋	木造	昭和60年03月	31	29.16	新耐震	—	
	休憩所	木造	昭和61年03月	30	26.87	新耐震	—	
	展望所	木造	昭和61年03月	30	52.05	新耐震	—	
	休憩所	木造	昭和62年03月	29	7.75	新耐震	—	
	休憩所A	木造	昭和63年03月	28	7.75	新耐震	—	
	休憩所B	木造	昭和63年03月	28	21.87	新耐震	—	
	休憩所C	木造	昭和63年03月	28	4.90	新耐震	—	

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
美里町ガーデンプレイス・家族村	ピクニック緑地 休憩所	木造	昭和63年03月	28	79.21	新耐震	—
	ピクニック緑地 休憩所	木造	昭和63年03月	28	39.00	新耐震	—
	ピクニック緑地 屋外トイレ	木造	昭和63年03月	28	24.50	新耐震	—
	ピクニック緑地 展望所	鉄筋コンクリート造	昭和59年03月	32	119.91	新耐震	—
	ピクニック緑地 バーゴラ	鉄筋コンクリート造	昭和63年03月	28	113.04	新耐震	—
	第1キャンプ場 屋外トイレ	木造	昭和62年03月	29	31.31	新耐震	—
	第1キャンプ場 シャワー棟	木造	昭和62年03月	29	29.05	新耐震	—
	第1キャンプ場 東屋	木造	昭和62年03月	29	33.73	新耐震	—
	第1キャンプ場 炊事棟	木造	昭和61年03月	30	33.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 倉庫	木造	昭和62年03月	29	13.20	新耐震	—
	第1キャンプ場 宿泊所	木造	平成12年03月	16	10.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 宿泊所	木造	平成12年03月	16	10.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 宿泊所	木造	平成13年03月	15	10.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 宿泊所	木造	平成13年03月	15	10.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 宿泊所	木造	平成14年03月	14	10.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 宿泊所	木造	平成14年03月	14	10.00	新耐震	—
	第1キャンプ場 浄化槽	鉄筋コンクリート造	昭和61年03月	30	33.97	新耐震	—
	第2キャンプ場 シャワー棟	木造	平成06年03月	22	23.19	新耐震	—
	第2キャンプ場 ビジターセンター（バーベキューハウス）	木造	平成13年03月	15	221.96	新耐震	—
	第2キャンプ場 炊事棟	木造	昭和59年03月	32	9.28	新耐震	—
	第2キャンプ場 東屋	木造	昭和59年03月	32	32.49	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー1	木造	平成08年03月	20	23.49	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー2	木造	平成08年03月	20	23.49	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー3	木造	平成05年03月	23	23.64	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー4	木造	平成05年03月	23	23.64	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー5	木造	平成08年03月	20	26.66	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー6	木造	平成07年03月	21	26.70	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー7	木造	平成07年03月	21	26.70	新耐震	—
	第2キャンプ場 バンガロー8	木造	平成07年03月	21	26.70	新耐震	—
	第3キャンプ場 コミュニティハウス（管理事務所）	鉄骨造	昭和63年03月	28	223.91	新耐震	—
	第3キャンプ場 屋外トイレ	木造	昭和63年03月	28	22.16	新耐震	—
	第3キャンプ場 シャワー棟	木造	昭和63年03月	28	40.67	新耐震	—
	第3キャンプ場 炊事棟	木造	昭和63年03月	28	41.99	新耐震	—
	第3キャンプ場 廃棄物処理棟	鉄筋コンクリート造	昭和63年03月	28	30.00	新耐震	—
	第3キャンプ場 浄化槽	鉄筋コンクリート造	昭和63年03月	28	24.49	新耐震	—
	ケビン 駐車場南側屋外トイレ	木造	昭和60年03月	31	18.48	新耐震	—
	ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成04年03月	24	53.44	新耐震	—
	ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成04年03月	24	53.44	新耐震	—
	ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成04年03月	24	53.44	新耐震	—
	ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成01年03月	27	50.54	新耐震	—
ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成02年03月	26	37.90	新耐震	—	
ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成02年03月	26	37.90	新耐震	—	
ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成02年03月	26	37.90	新耐震	—	
ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成02年03月	26	37.90	新耐震	—	
ケビン 簡易宿泊施設	木造	平成03年03月	25	60.00	新耐震	—	
オートキャンプ場 トイレ棟	鉄筋コンクリート造	平成09年03月	19	30.62	新耐震	—	
オートキャンプ場 炊事棟	木造	平成09年03月	19	27.03	新耐震	—	
艇庫北側屋外トイレ	コンクリートブロック造	昭和58年03月	33	12.36	新耐震	—	
東部地区活性化施設（物産館）	物産館	木造	平成24年08月	3	191.00	新耐震	—
	屋外トイレ	木造	平成24年07月	3	73.00	新耐震	—
	野菜売り場	木造	平成25年08月	2	31.50	新耐震	—
緑川ダム休憩所	休憩所	鉄筋コンクリート造	平成06年03月	22	86.77	新耐震	—
フォレストアドベンチャー・美里	ツリーハウス	木造	平成27年03月	1	13.15	新耐震	—
柏川森林公園	管理棟	木造	平成16年08月	11	86.64	新耐震	—
	炊事棟	木造	平成16年08月	11	36.00	新耐震	—

4)コスト状況

平成 26 年度で最もコストが高い施設は 18,452 千円のやすらぎ交流体験施設かじかで、修繕費等によりコストが増加しています。美里町陶芸室は 25 年度に窯の入れ替えを行っているため、前後の年に比べコストが高くなっており、また施設の延床面積が小さいため延床面積当たりのコストが一番高い 8.2 千円/m²となっています。

柏川森林公園は年間の利用者が 100 人に満たないため、利用者一人当たりコストが 10.1 千円/人と他の施設に比べ大きくなっています。

フォレストアドベンチャー・美里は平成 27 年度より運営開始であるためコストが 0 円となっています。

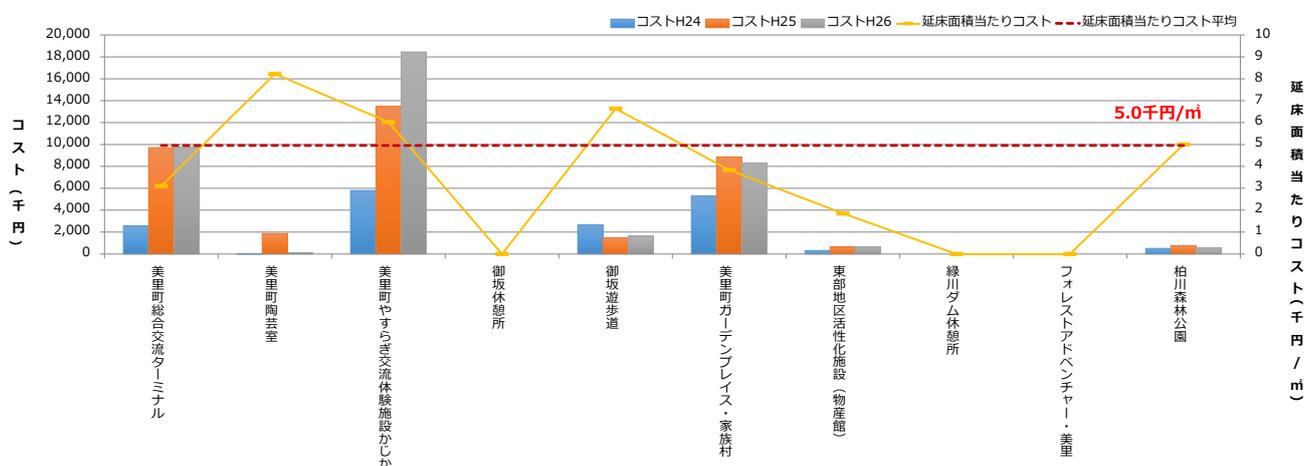


図 延床面積当たりのコスト比較

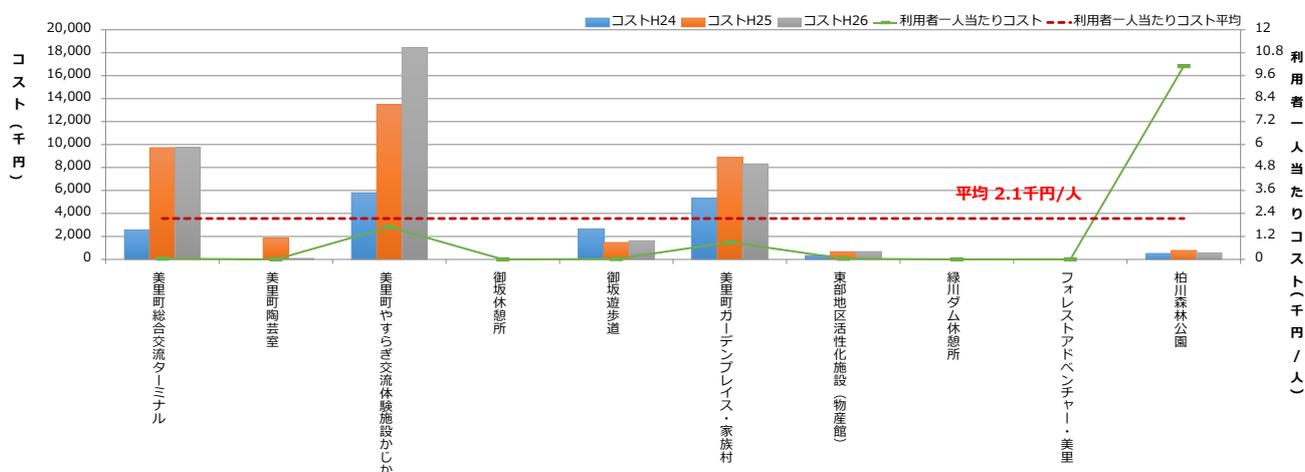


図 利用者一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

フォレストアドベンチャー・美里は平成 27 年度より運営が開始されたため利用者数は 0 人となっています。

総合交流ターミナルの利用者数は毎年 18 万人前後ですが、26 年度は前年度より 2,324 人少ない 179,499 人となっています。

御坂遊歩道を訪れる人の数は 3 年間で増加を続けており、平成 24 年度から 26 年度にかけて 22,943 人増加し、26 年度には 111,523 人となっています。一方、御坂休憩所は現在閉鎖しています。

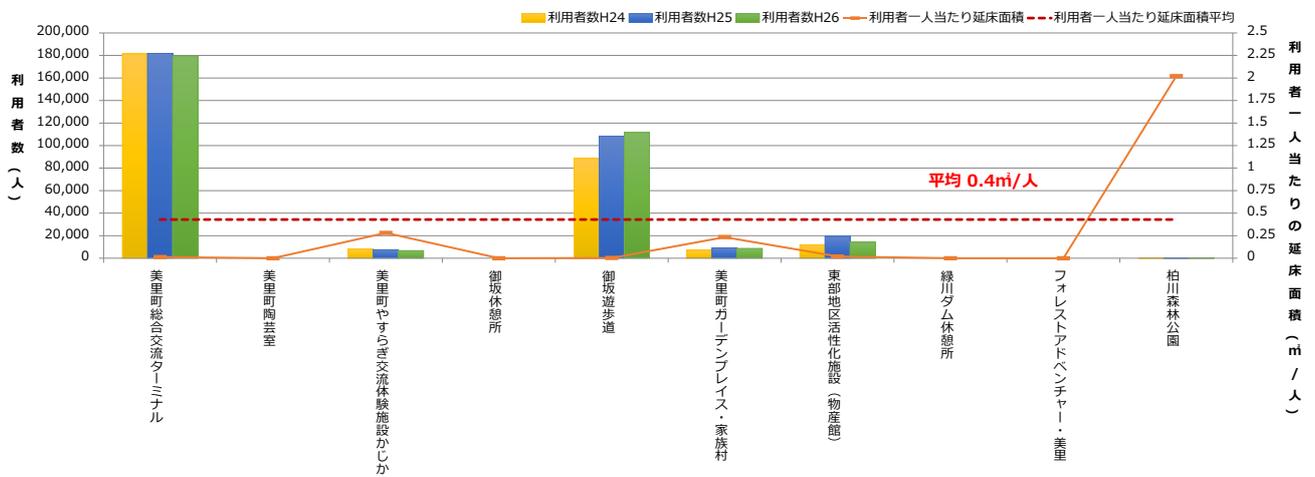


図 利用者数と一人当たりの延床面積比較



東部地区活性化施設 (物産館)



フォレストアドベンチャー・美里

4.産業系施設

4-1.産業系施設

1)施設配置状況

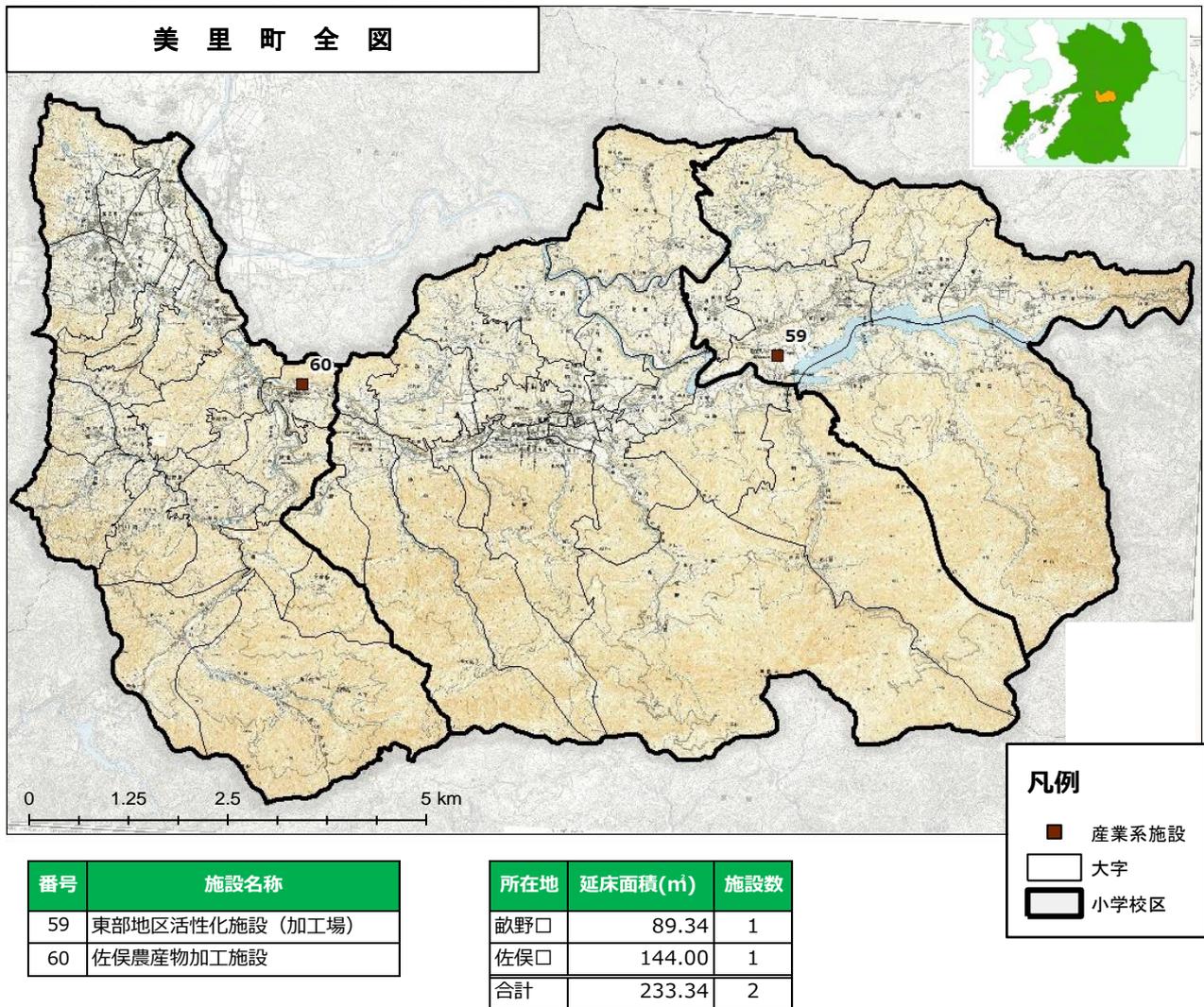


図 施設配置図

2) 概要

産業系施設は、農産物の加工及び販売により農家所得の向上を図り、これを指標に地域農家に農産物の加工及び販売の重要性を広く普及し、もって農村地域の活性化と定住を促進するため、また美里町東部地区の活性化を促進するために設置された施設です。

佐俣農産物加工施設は美里町総合交流ターミナル（佐俣の湯）と同敷地内にあり、延床面積は 144 m²です。東部地区活性化施設（加工場）は東部地区活性化施設（物産館）（よんなっせ）と同じ東部地区にあり、延床面積は約 89.34 m²です。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体
東部地区活性化施設（加工場）	畝野B85-5	政策企画係	昭和63年03月	89.34	指定管理	指定管理者
佐俣農産物加工施設	佐俣D5	農政係	平成10年10月	144.00	指定管理	指定管理者

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3) 施設の状況

両施設とも新耐震基準の建物ですが、東部地区活性化施設（加工場）は築 28 年を迎えています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (m ²)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
東部地区活性化施設（加工場）	加工場	木造	昭和63年03月	28	89.34	新耐震	—
佐俣農産物加工施設	農産加工施設	鉄筋コンクリート造	平成11年02月	17	144.00	新耐震	—

4)コスト状況

平成 26 年度について見ると、東部地区活性化施設(加工場)のコストは 58 千円で延床面積当たりのコストは 0.6 千円/m²となっており、佐俣農産物加工施設のコストは 124 千円、延床面積当たりのコストは 0.9 千円/m²となっています。

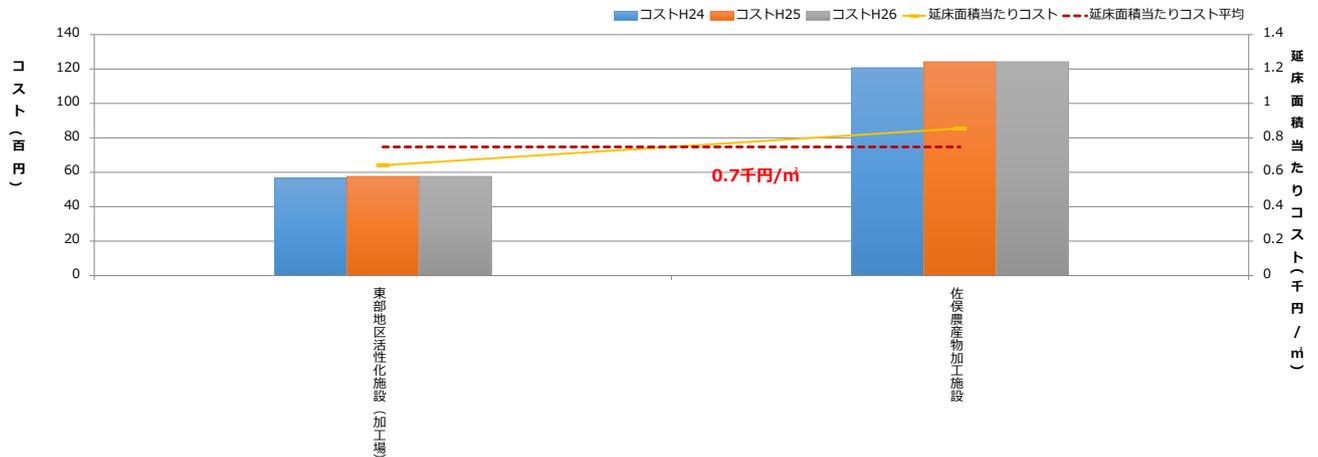


図 延床面積当たりのコスト比較



東部地区活性化施設 (加工場)



佐俣農産物加工施設

5.学校教育系施設

5-1.学校

1)施設配置状況

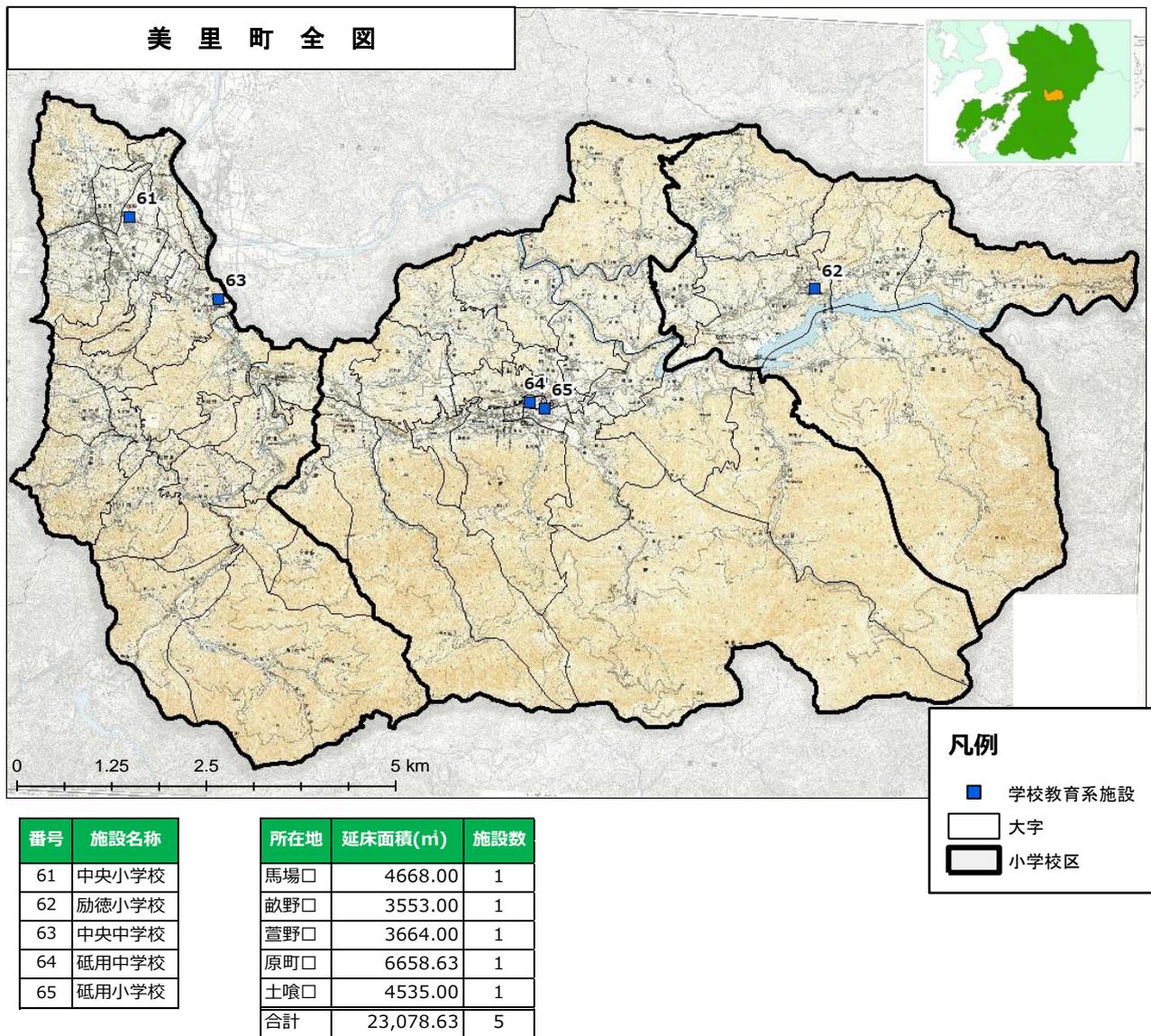


図 施設配置図

2)概要

本町には現在 3 つの小学校と 2 つの中学校が設置されています。最も延床面積が大きい学校は 6,658.63 m²の砥用中学校で、平成 26 年度の生徒数は 129 人です。次に延床面積が大きい中央小学校（4,668.00 m²）は、生徒数が小学校と中学校を合わせた 5 校中一番多い 215 人です。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体	在籍者数	定員数
中央小学校	馬場5B7-1	学校教育係	昭和56年03月	4,668.00	直営	—	215	400
励徳小学校	畝野1D44	学校教育係	昭和56年02月	3,553.00	直営	—	53	200
中央中学校	萱野8E10	学校教育係	昭和47年09月	3,664.00	直営	—	95	120
砥用中学校	原町8B0	学校教育係	昭和55年03月	6,658.63	直営	—	129	240
砥用小学校	土喰8B0	学校教育係	平成23年02月	4,535.00	直営	—	191	280

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3)施設の状況

学校教育系施設の延床面積は合計 23,078.63 m²で、57%が築 30 年以上の建物です。主要な棟や、災害時に避難場所となる体育館（屋内運動場）等は概ね耐震性が確保されており、その他の棟についても順次改修や建替えが行われています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (m ²)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
中央小学校	教室棟1	鉄筋コンクリート造	昭和56年03月	35	537.00	診断実施済	不要
	管理教室棟2-1	鉄筋コンクリート造	昭和56年03月	35	1,311.00	診断実施済	不要
	教室棟2-2	鉄骨造	平成02年10月	25	88.00	新耐震	—
	教室棟2-3	鉄筋コンクリート造	平成02年10月	25	90.00	新耐震	—
	プール専用付属室11	コンクリートブロック造	昭和47年07月	43	81.00	未実施	未実施
	更衣室15	コンクリートブロック造	昭和51年05月	39	23.00	未実施	未実施
	倉庫16	コンクリートブロック造	昭和36年07月	54	20.00	未実施	未実施
	屋外トイレ18	鉄筋コンクリート造	平成06年11月	21	30.00	新耐震	—
	相撲場更衣室兼倉庫20	木造	平成10年01月	18	9.00	新耐震	—
	管理棟21	鉄骨造	平成10年12月	17	35.00	新耐震	—
	教室棟22	鉄骨造	平成10年11月	17	634.00	新耐震	—
	倉庫23	木造	平成10年08月	17	63.00	新耐震	—
	車庫24	鉄骨造	平成10年10月	17	118.00	新耐震	—
	給食堂25	鉄骨造	平成11年03月	17	167.00	新耐震	—
	備蓄倉庫26	木造	平成12年03月	16	7.00	新耐震	—
	屋内運動場27	鉄骨造	平成17年01月	11	1,342.00	新耐震	—
	便所28	鉄筋コンクリート造	平成06年12月	21	5.00	新耐震	—
	楽焼室29	コンクリートブロック造	平成14年07月	13	27.00	新耐震	—
	相撲場	木造	平成05年12月	22	81.00	新耐震	—
	プール	鉄筋コンクリート造	昭和47年07月	43	—	—	—

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
励徳小学校	教室棟1-1	鉄筋コンクリート造	昭和56年02月	35	1,619.00	診断実施済	改修実施済
	教室棟1-2	鉄筋コンクリート造	平成23年11月	4	22.00	新耐震	改修実施済
	管理棟2	鉄筋コンクリート造	昭和56年12月	34	831.00	診断実施済	不要
	給食室3	鉄骨造	昭和57年03月	34	90.00	未実施	未実施
	プール専用付属室6	コンクリートブロック造	昭和43年09月	47	20.00	未実施	未実施
	プール専用付属室7	コンクリートブロック造	昭和43年09月	47	15.00	未実施	未実施
	屋外トイレ12	木造	平成11年03月	17	8.00	新耐震	—
	屋内運動場14	鉄骨造	平成23年02月	5	918.00	新耐震	—
	体育倉庫15	木造	平成23年10月	4	30.00	新耐震	—
	プール	鉄筋コンクリート造	昭和43年09月	43	—	—	—
	中央中学校	普通教室及び特別教室棟1	鉄筋コンクリート造	昭和47年09月	43	1,554.00	診断実施済
管理特別教室棟2		鉄筋コンクリート造	昭和47年09月	43	1,188.00	診断実施済	不要
渡り廊下3		鉄筋コンクリート造	昭和47年09月	43	80.00	診断実施済	不要
昇降口4		鉄筋コンクリート造	昭和47年09月	43	56.00	診断実施済	不要
技術教室棟5		鉄骨造	昭和47年09月	43	172.00	未実施	未実施
クラブ室棟6		コンクリートブロック造	昭和48年03月	43	97.00	未実施	未実施
屋外トイレ10		コンクリートブロック造	昭和48年07月	42	24.00	未実施	未実施
プール専用付属室11		コンクリートブロック造	昭和49年07月	41	66.00	未実施	未実施
給食室13		鉄骨造	昭和57年11月	33	121.00	新耐震	—
屋外トイレ14		鉄筋コンクリート造	平成07年08月	20	7.00	新耐震	—
体育倉庫15		鉄骨造	平成12年12月	15	21.00	新耐震	—
自転車小屋		鉄骨造	昭和48年03月	43	166.00	未実施	未実施
プール		鉄筋コンクリート造	昭和57年11月	33	—	—	—
自転車置き場		軽量鉄骨造	昭和47年09月	43	112.00	未実施	未実施
砥用中学校	普通教室棟1	鉄筋コンクリート造	昭和55年03月	36	1,450.00	診断実施済	改修実施済
	教室・管理棟2	鉄筋コンクリート造	昭和56年02月	35	1,823.00	診断実施済	不要
	教室棟3	鉄筋コンクリート造	昭和56年12月	34	446.00	診断実施済	不要
	プール専用付属室6	鉄骨造	昭和45年10月	45	45.00	未実施	未実施
	プール専用付属室7	コンクリートブロック造	昭和45年10月	45	6.00	未実施	未実施
	給食室8	鉄骨造	昭和57年10月	33	140.00	新耐震	—
	部室9	木造	昭和57年08月	33	81.00	新耐震	—
	柔剣道場10	鉄骨造	平成03年03月	25	963.63	新耐震	—
	屋外トイレ11	木造	平成03年11月	24	24.00	新耐震	—
	倉庫12	鉄骨造	平成08年08月	19	40.00	新耐震	—
	屋内運動場13	鉄筋コンクリート造	平成15年02月	13	1,584.00	新耐震	—
	プール	鉄筋コンクリート造	昭和45年10月	45	—	—	—
	自転車置き場	軽量鉄骨造	昭和56年12月	34	56.00	未実施	未実施
砥用小学校	屋内運動場5	鉄筋コンクリート造	昭和57年01月	34	850.00	診断実施済	不要
	給食室8	鉄骨造	平成02年03月	26	164.00	新耐震	—
	屋外トイレ9	コンクリートブロック造	平成03年10月	24	75.00	新耐震	—
	管理・特別教室棟10	鉄筋コンクリート造	平成23年02月	5	2,272.00	新耐震	—
	普通教室棟11	木造	平成23年02月	5	487.00	新耐震	—
	普通教室棟12	木造	平成23年02月	5	487.00	新耐震	—
	図書室棟13	木造	平成23年02月	5	120.00	新耐震	—
	渡廊下14	鉄骨造	平成23年02月	5	21.00	新耐震	—
	渡廊下15	鉄骨造	平成23年02月	5	25.00	新耐震	—
	渡廊下16	鉄骨造	平成23年02月	5	34.00	新耐震	—

4)コスト状況

励徳小学校を除く4校は、3年間でコストが増加し、平成26年度には30,000千円を超えており、一番高い砥用中学校は36,638千円となっています。

延床面積当たりのコストが最も高いのは中央中学校で9.6千円/m²、生徒数に対するコストが最も高いのが励徳小学校で537千円/人となっています。

下図グラフのコストとは別に、励徳小学校、中央中学校、砥用中学校の3校はそれぞれ平成25年度に校舎やトイレについて1億円以上の大規模改修を行っています。また中央小学校は24年にトイレ、26年にプールの改修、砥用小学校は25年に屋外トイレと図書室について改修を行っています。

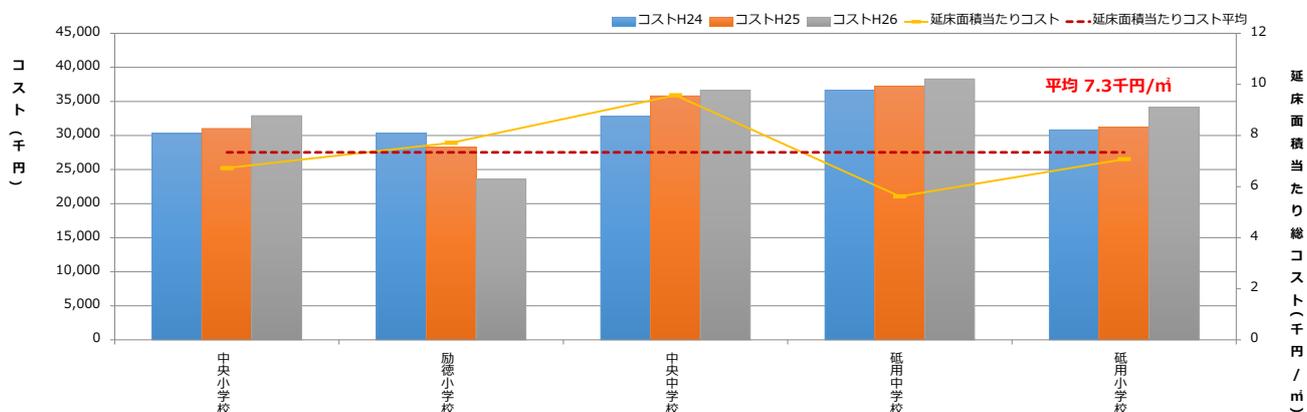


図 延床面積当たりのコスト比較

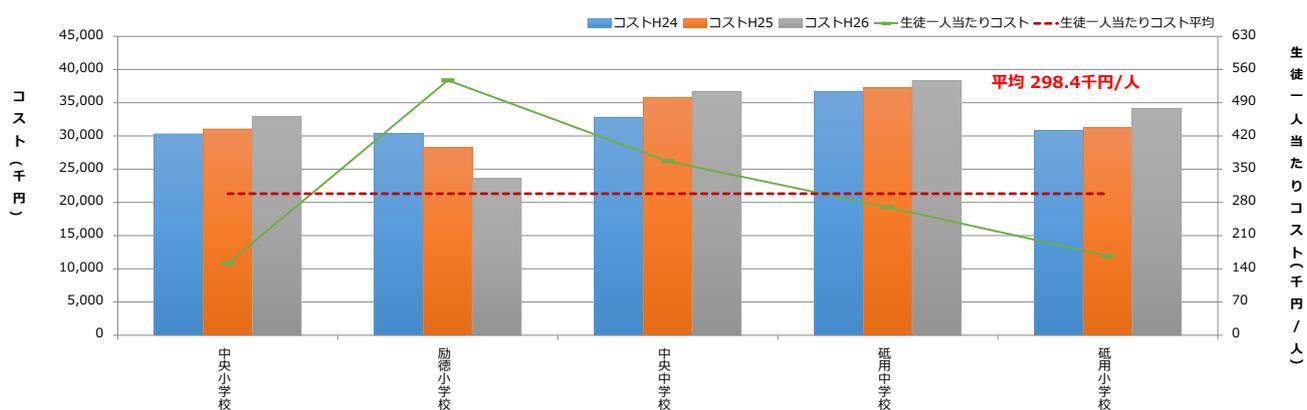


図 利用者一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

平成 24 年度から 26 年度にかけて生徒数が増加している学校は、中央小学校（9 人増）、励徳小学校（3 人増）の 2 校です。対して中央中学校（1 人減）、砥用中学校（22 人減）、砥用小学校（2 人減）の 3 校は減少傾向にあります。本町全体で見ると 24 年度から 25 年度にかけては 20 人の減少でしたが、25 年度から 26 年度にかけては 7 人増加している状況です。

生徒一人当たりの延床面積は 5 校平均が 46.6 m²/人であり、励徳小学校が 81.6 m²/人と最も大きくなっています。小中学校の設置について定められている最低基準では、生徒一人当たり延床面積は小学校が 11.96 m²/人、中学校が 14.21 m²/人となっていますが、本町では生徒数が減少傾向にあるため、基準に比べ生徒一人当たり延床面積が大きくなっています。

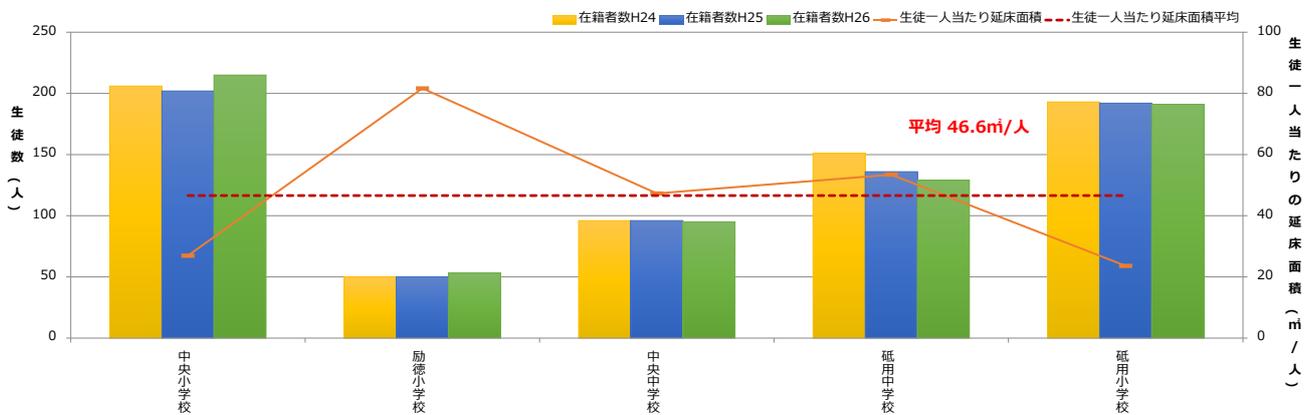


図 生徒数と一人当たりの延床面積



中央中学校



砥用小学校

6.子育て支援施設
 6-1.幼保・こども園
 1)施設配置状況

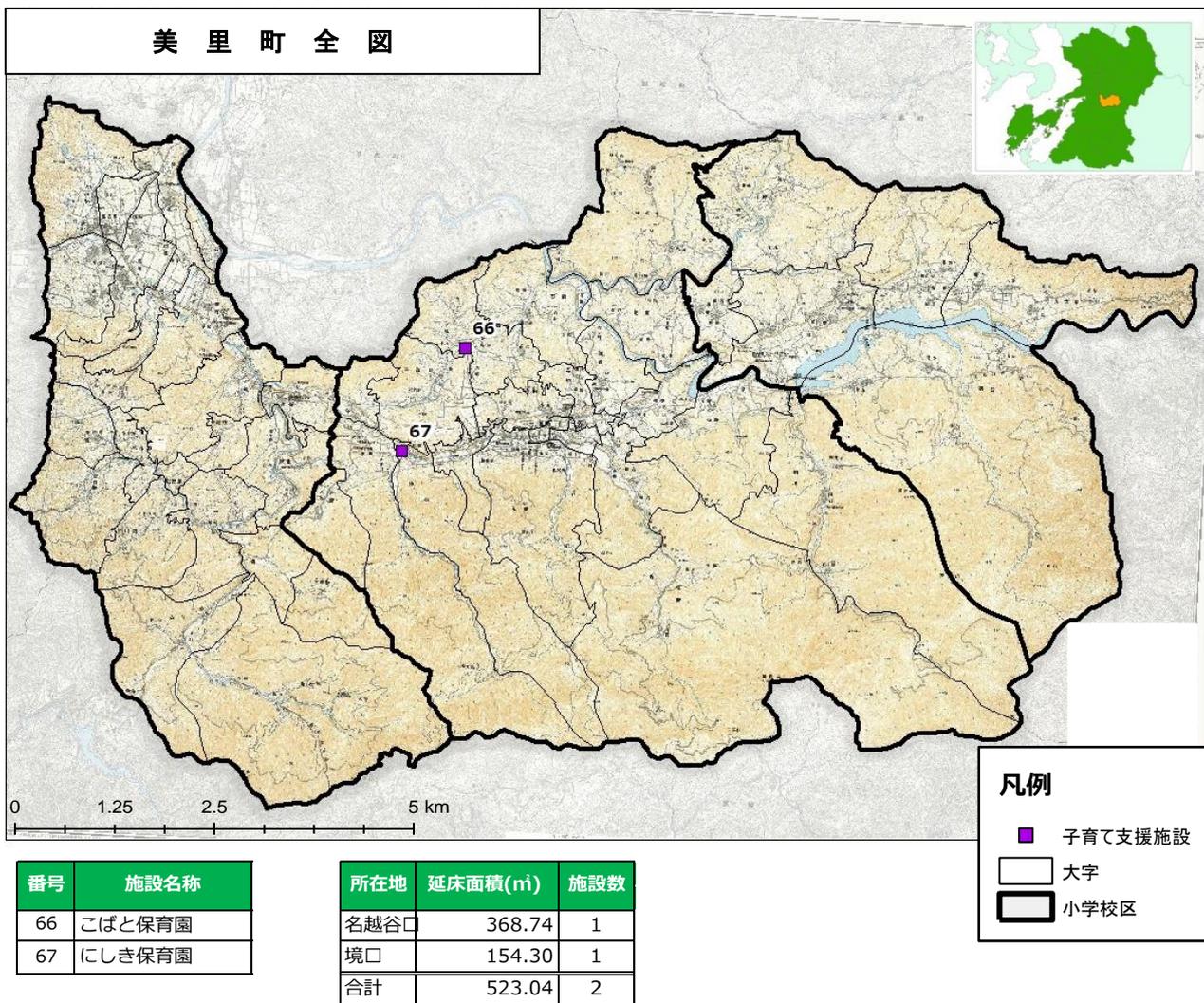


図 施設配置図

2) 概要

本町には 2 つのへき地保育園があり、保育を要する児童に対し必要な保護を行い、児童の福祉増進を図るという目的のもと設置されています。延床面積はこばと保育園が 368.74 m²、にしき保育園が 154.30 m²ですが、定員数は両施設とも 30 人で、平成 26 年度末の在籍者はそれぞれ 5 人です。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体	在籍者数	定員数
こばと保育園	名越谷4D34	子ども・生活支援係	昭和35年12月	368.74	指定管理	指定管理者	5	30
にしき保育園	境B73-1	子ども・生活支援係	平成03年03月	154.30	指定管理	指定管理者	5	30

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3) 施設の状況

こばと保育園は、にしき保育園の 2 倍程度の延床面積となっておりますが、建築年度が古く、建築から 55 年経過しています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (m ²)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
こばと保育園	へき地保育園	木造	昭和35年12月	55	368.74	未実施	未実施
にしき保育園	へき地保育園	木造	平成03年03月	25	154.30	新耐震	—

4)コスト状況

こばと保育園は、にしき保育園の2倍以上の延床面積ですが、平成26年度のコストは、こばと保育園が11,984千円、にしき保育園が8,893千円となっており、延床面積当たりのコストは、こばと保育園の31.7千円/㎡に比べ、にしき保育園が56.7千円/㎡と大きくなっています。

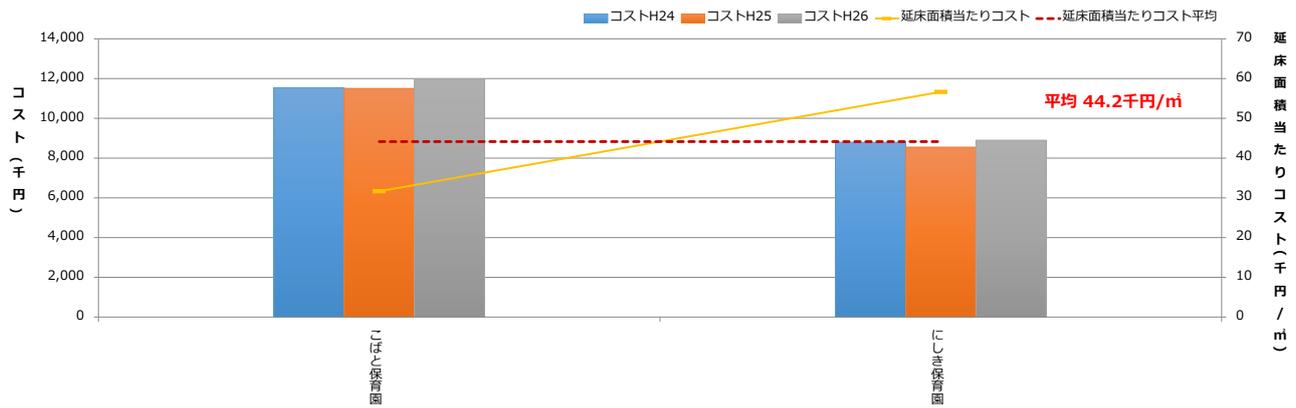


図 延床面積当たりのコスト比較

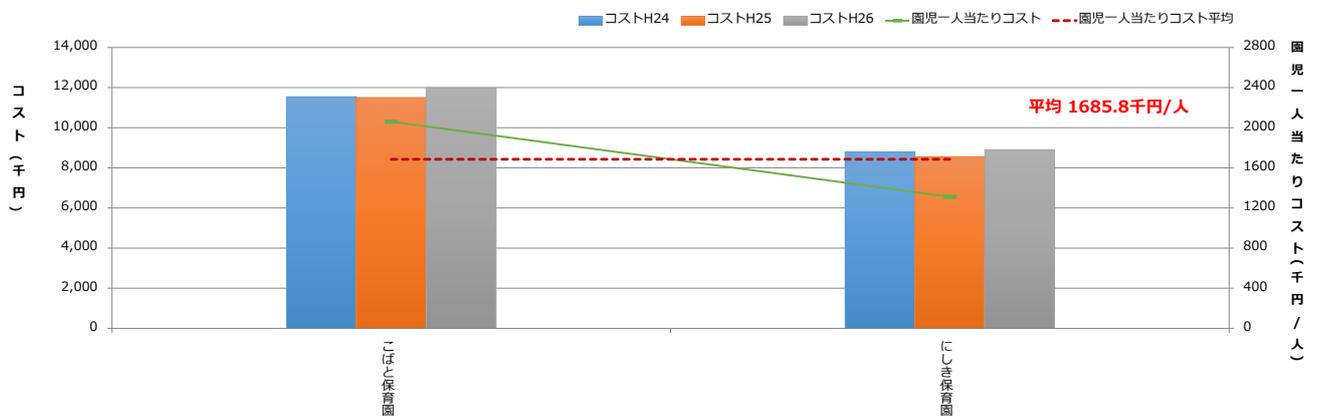


図 園児一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

両施設とも児童の数は減少しており、平成 24 年度時点ではこばと保育園が 6 人、にしき保育園が 9 人でしたが、25 年度では両施設とも 6 人、26 年度には 5 人ずつとなっています。定員充足率（3 か年平均）では、それぞれこばと保育園が 18.9%、にしき保育園が 22.2%となっています。26 年単年度の定員充足率は両施設とも約 17%となっています。

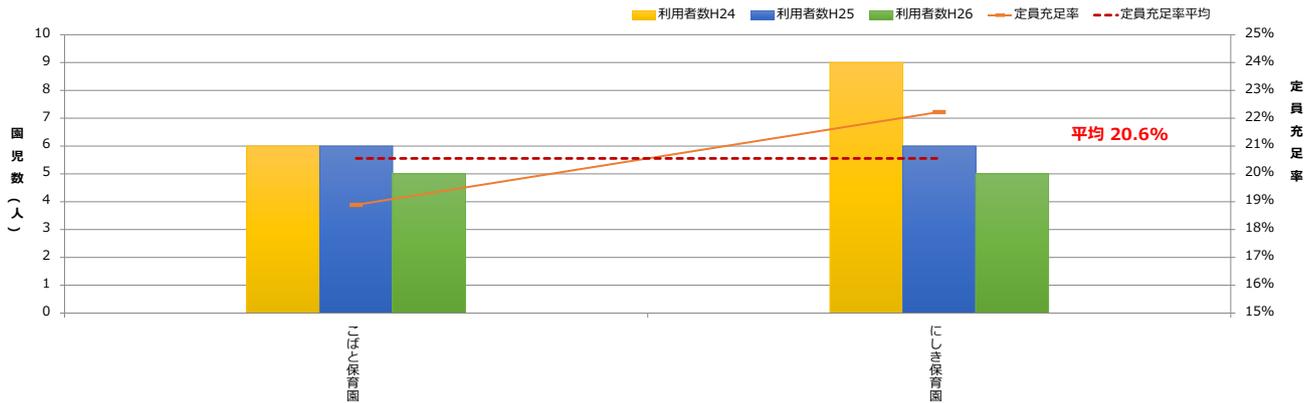


図 園児数と定員充足率比較



こばと保育園



にしき保育園

7.保健・福祉施設

7-1.高齢者福祉施設・障害者福祉施設

1)施設配置状況

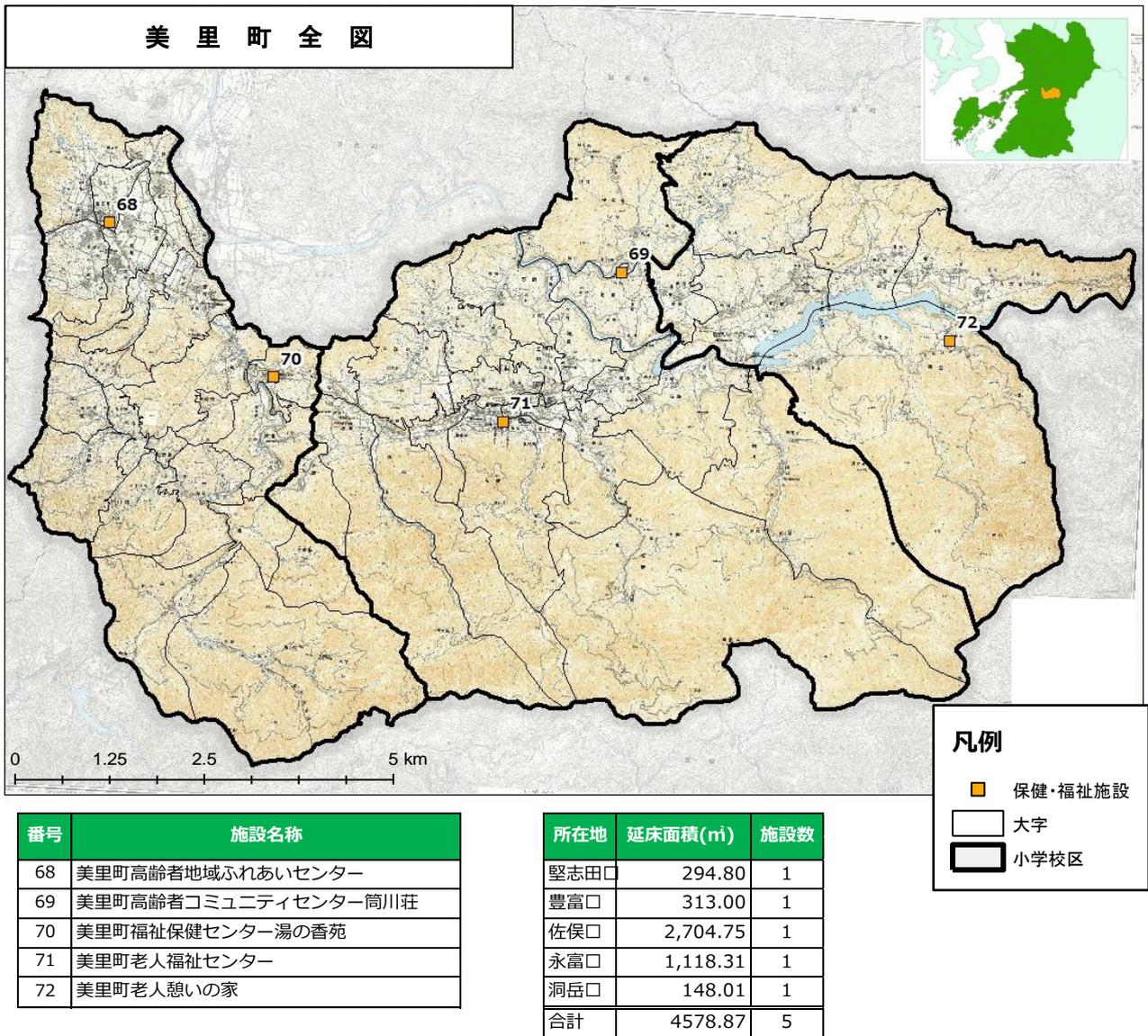


図 施設配置図

2)概要

高齢者福祉施設は、町の高齢者に対して、社会的入院の防止及び介護予防、交流事業を総合的に提供することにより、高齢者が安心して健康で明るい生活を送れるように支援し、介護予防の増進を図るため設置されています。

高齢者福祉施設の中で美里町福祉保健センター湯の香苑が2,704.75㎡と最大の延床面積で、利用者も12,344人と一番多く利用されています。次点の美里町老人福祉センターは延床面積が1,118.31㎡、利用者数が5,856人となっています。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (㎡)	管理運営	管理団体	年間運営 開館日数	利用者数
美里町高齢者地域ふれあいセンター	堅志田52-9	介護・高齢者支援係	平成15年02月	294.80	指定管理	指定管理者	365	6
美里町高齢者コミュニティセンター筒川荘	豊富530	介護・高齢者支援係	昭和59年02月	313.00	直営	—	365	960
美里町福祉保健センター湯の香苑	佐俣838	介護・高齢者支援係	昭和54年03月	2,704.75	指定管理	指定管理者	243	12,344
美里町老人福祉センター	永富1510	介護・高齢者支援係	平成04年03月	1,118.31	指定管理	指定管理者	242	5,856
美里町老人憩いの家	洞岳4173	介護・高齢者支援係	平成02年03月	148.01	直営	—	365	329

※管理運営・管理団体については平成27年3月31日現在

3)施設の状況

高齢者福祉施設の合計延床面積は4,578.87㎡です。そのうち50%が新耐震となっていますが、棟数で見ると少なく、延床面積が大きな福祉保健センター湯の香苑の福祉センター棟は一部改修を行っているものの築37年となっています。また建築から30年経過している建物も延床面積で見ると57%ですが、同様に棟数で見ると少なくなっています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
美里町高齢者地域ふれあいセンター	高齢者地域ふれあいセンター	木造	平成15年02月	13	294.80	新耐震	—
美里町高齢者コミュニティセンター筒川荘	集会所	木造	昭和59年02月	32	313.00	新耐震	—
美里町福祉保健センター湯の香苑	福祉保健センター(改築含む)	鉄筋コンクリート造	昭和54年03月	37	1,848.89	未実施	未実施
	体育館(体育部分)	鉄骨造	昭和54年11月	36	432.72	未実施	未実施
	体育館(保健部分)	鉄骨造	平成12年02月	16	207.30	新耐震	—
	車庫	鉄骨造	平成12年03月	16	182.50	新耐震	—
	ポンプ室(硫黄)	鉄筋コンクリート造	平成12年03月	16	14.90	新耐震	—
	ポンプ室(真水)	鉄筋コンクリート造	平成12年02月	16	18.44	新耐震	—
美里町老人福祉センター	老人福祉センター(増築含む)	鉄筋コンクリート造	平成04年03月	24	1,027.41	新耐震	—
	車庫	鉄骨造	平成06年03月	22	90.90	新耐震	—
美里町老人憩いの家	老人憩いの家	木造	平成02年03月	26	148.01	新耐震	—

4)コスト状況

福祉保健センター湯の香苑は延床面積が 2,704.75 m²で最も大きく、平成 26 年度のコストについても最も高い 9,318 千円となっています。延床面積とコストが共に大きいため、延床面積当たりのコストで見ると 3.4 千円/m²となり、老人憩いの家 (3.7 千円/m²) と同程度です。一方で、老人福祉センターは延床面積当たりコストが 6.7 千円/m²と大きくなっています。

利用者一人当たりのコストで見ると、利用人数の少ない高齢者地域ふれあいセンターが 14.2 千円/人と他の施設に比べて高くなっています。

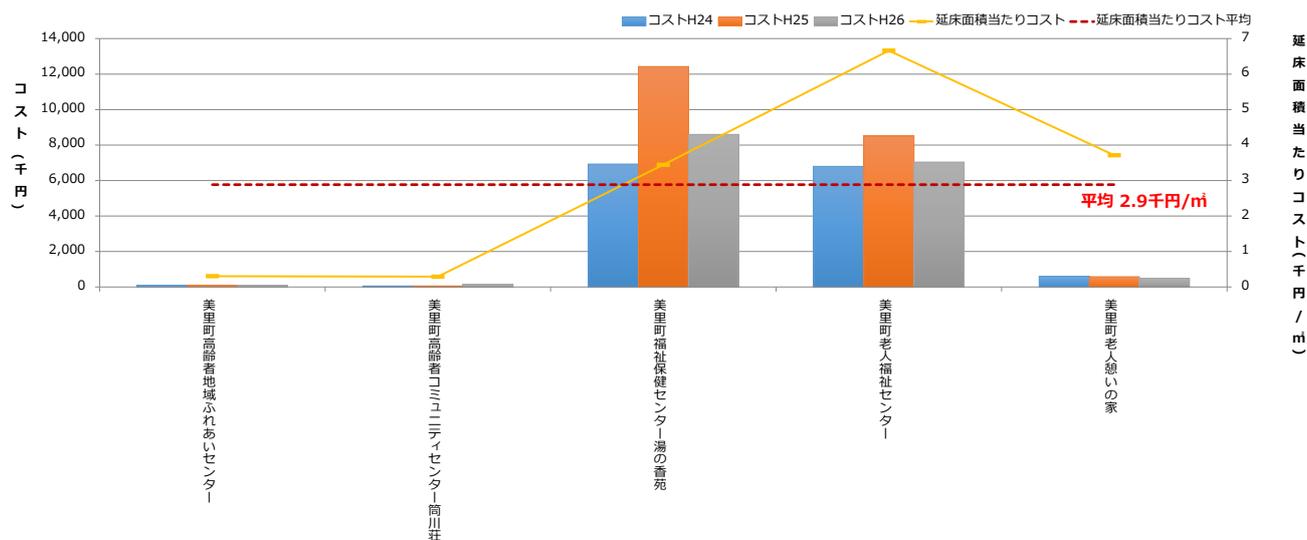


図 延床面積当たりの総コスト比較

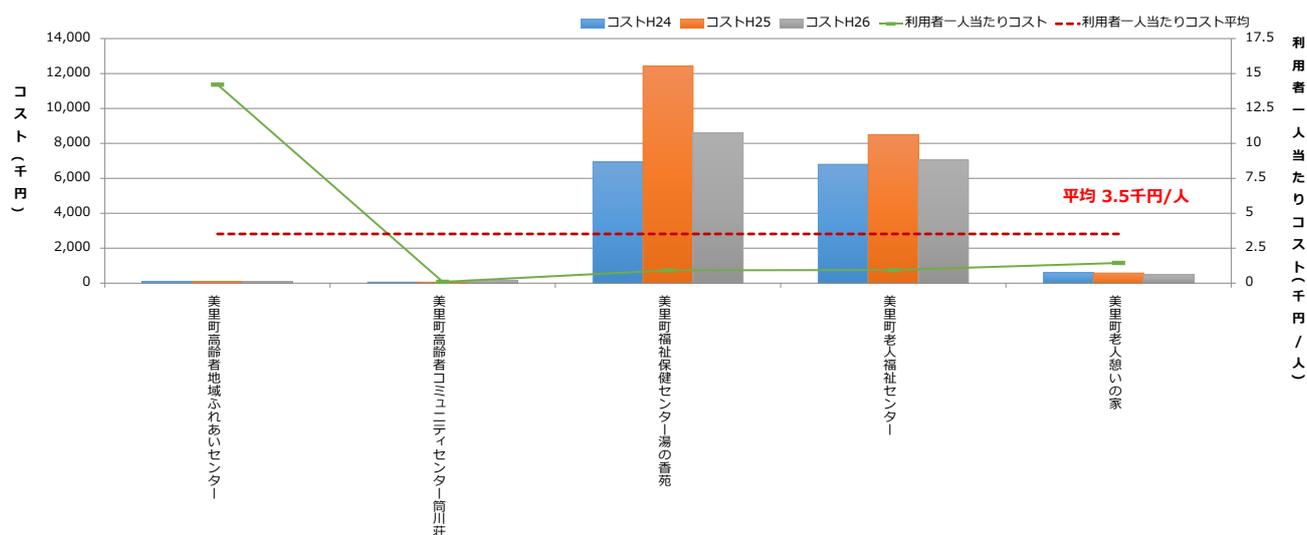


図 利用者一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

福祉保健センター湯の香苑のみ利用者が増加しており、平成 25 年度から 26 年度で 3,599 人増加しています。これを除く施設の利用者は減少または横ばい状態にあり、2 番目に規模が大きい老人福祉センターは 25 年度から 26 年度で 2,502 人減少しています。一方で福祉保健センター湯の香苑の貸室利用率は、26 年度に 28% と比較的高いものの、この 3 年間で減少傾向にあります。その他の施設は 3 年間での変化はなく、横ばい状態です。

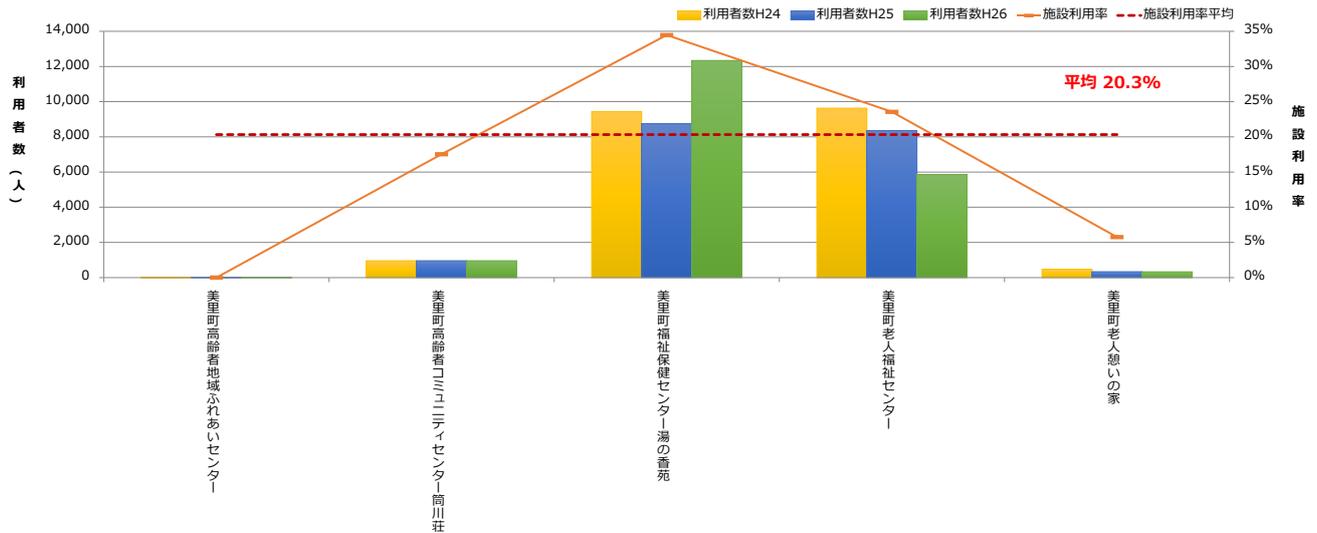


図 利用者数と施設利用率比較



美里町福祉保健センター湯の香苑



美里町老人福祉センター

8.行政系施設

8-1.庁舎等

1)施設配置状況

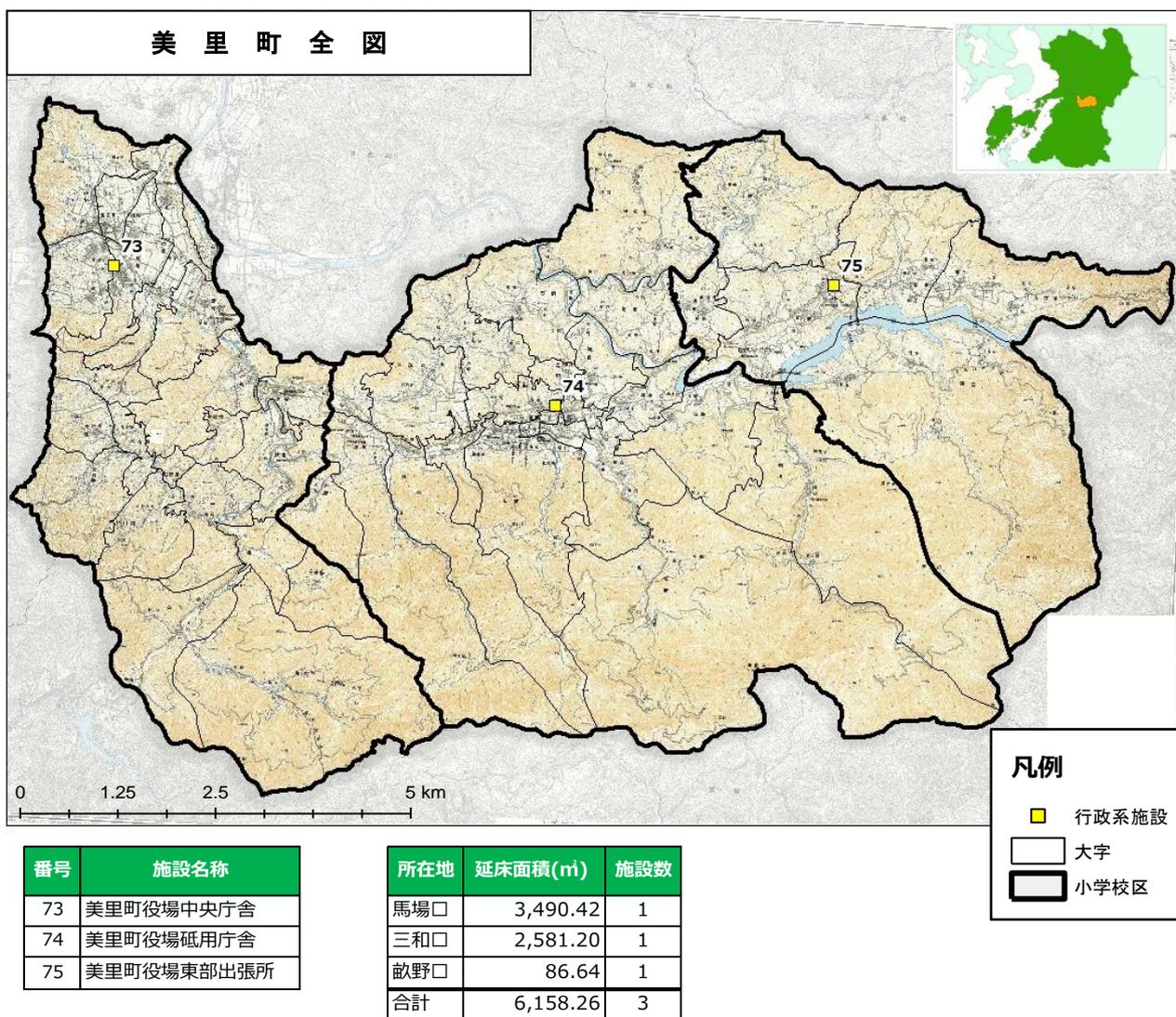


図 施設配置図

2)概要

行政系施設は、行政運営のための事務または事業を執行する事務所及び窓口出張所であり、東部出張所については都市と地域間の交流を促進し、併せて町民の健康と福祉の増進を図る地区交流室が併設されている施設となっています。分庁制をとっているため、主な行政機能は本庁である中央庁舎と砥用庁舎の二つに分かれています。延床面積は中央庁舎が 3,490.42 m²、砥用庁舎が 2,581.20 m²と他分類の施設と比較すると大きく、東部出張所は 86.64 m²です。東部出張所は平成 25 年 10 月に旧三本松出張所より移転しており、東部地区交流室を併設しています。また駐車場は東部地区活性化施設(物産館)(よんなっせ)の敷地を共用しています。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体	正規職員	その他 職員
美里町役場中央庁舎	馬場口00	行革管財係	平成07年10月	3,490.42	直営	—	57	10
美里町役場砥用庁舎	三和420	行革管財係	平成16年03月	2,581.20	直営	—	55	10
美里町役場東部出張所	畝野6B2-4	東部出張所	平成24年03月	86.64	直営	—	2	2

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3)施設の状況

庁舎等の合計延床面積は 6,158.26 m²で、全ての建物が新耐震です。またいずれの建物も比較的新しく、20 年以内に建築されています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (m ²)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
美里町役場中央庁舎	中央庁舎	鉄骨鉄筋コンクリート造	平成07年10月	20	3067.82	新耐震	—
	車庫	鉄骨造	平成07年10月	20	345.80	新耐震	—
	畜犬舎	鉄筋コンクリート造	平成07年10月	20	8.00	新耐震	—
	倉庫	鉄骨造	平成07年10月	20	64.80	新耐震	—
	ポンプ室	コンクリートブロック造	平成07年10月	20	4.00	新耐震	—
美里町役場砥用庁舎	砥用庁舎	鉄骨造	平成16年03月	12	2581.20	新耐震	—
美里町役場東部出張所	東部出張所	木造	平成24年03月	4	86.64	新耐震	—

4)コスト状況

中央庁舎と砥用庁舎について、平成 24 年 11 月から総務課と議会の機能を中央庁舎に移したためコストが大きく変化しており、24 年度では中央庁舎が 13,408 千円、砥用庁舎が 10,328 千円でしたが、26 年度では中央庁舎が 12,953 千円、砥用庁舎が 10,441 千円となっています。東部出張所は 1,272 千円となっています。

延床面積当たりコスト(3 か年平均)では、東部出張所が最も高い 16.8 千円/m²となっており、職員一人当たりコスト(3 か年平均)が最も高いのは東部出張所の 364.2 千円/人となっています。

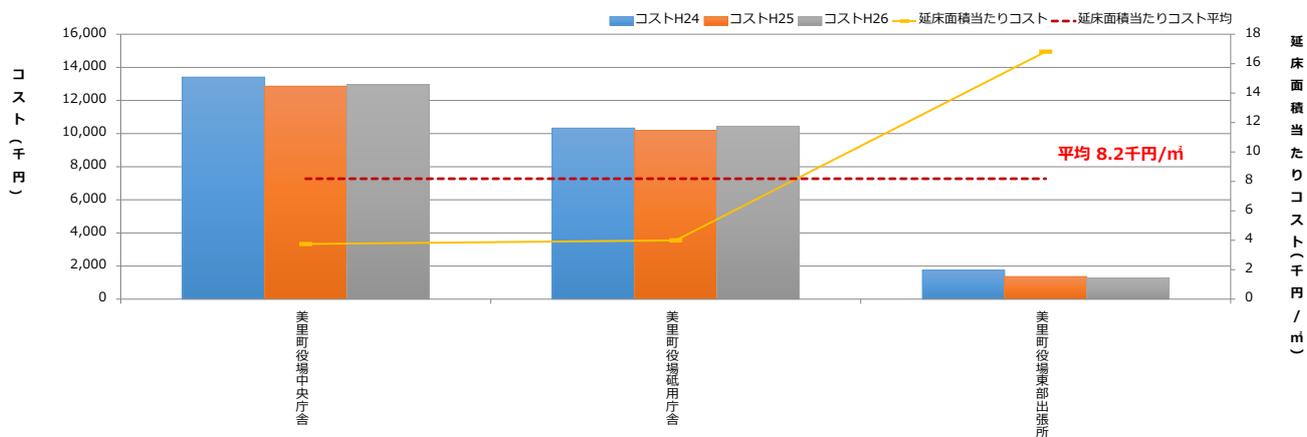


図 延床面積当たりのコスト比較

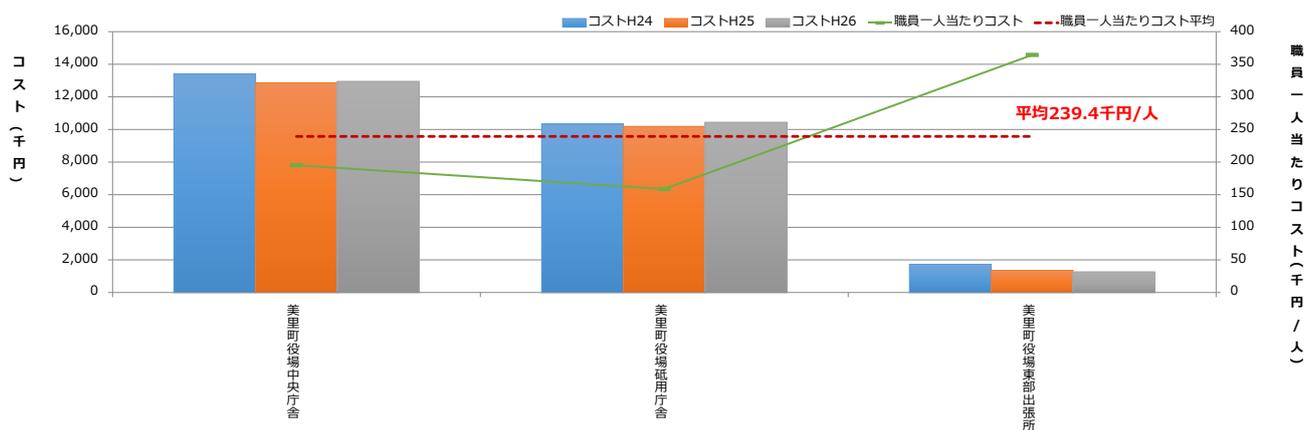


図 職員一人当たりのコスト比較

5) サービス状況

各庁舎の職員数は、中央庁舎が正規職員 57 人と非常勤職員 10 人の計 67 人であり、砥用庁舎が正規職員 55 人と非常勤職員 10 人の計 65 人、東部出張所が正規職員 2 人と嘱託職員 2 人の計 4 人となっています。

職員一人当たりの延床面積は 3 施設平均が 37.8 m²/人であり、中央庁舎が 52.1 m²/人、砥用庁舎が 39.7 m²/人、東部出張所が 21.7 m²/人となっています。一般的な町庁舎（本庁舎）の事例では、町人口 100 人当たり 20 m²以上、職員一人当たり 20~80 m²となっており、本町の場合もこの数値に当てはまる規模となっています。

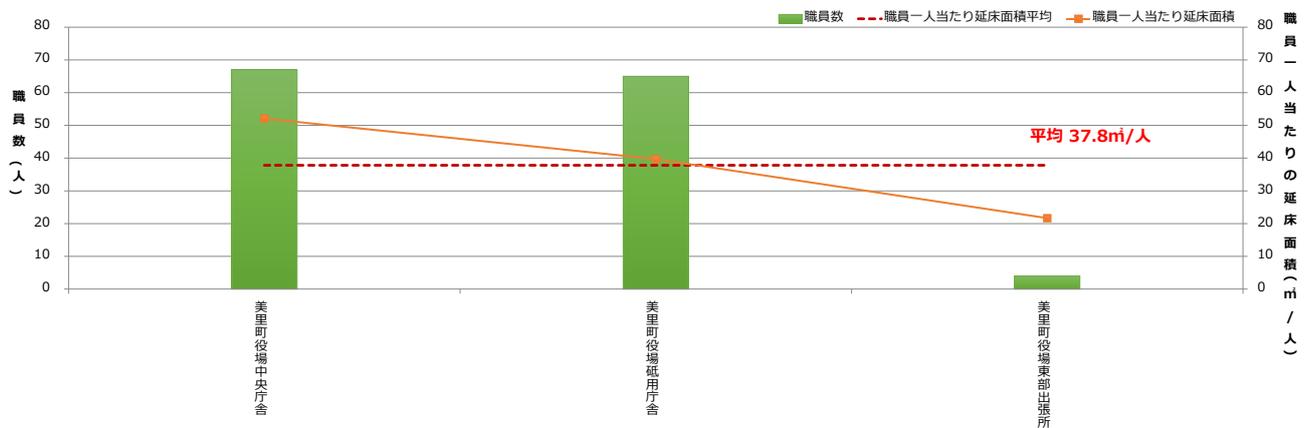


図 職員一人当たりの延床面積比較



美里町役場中央庁舎

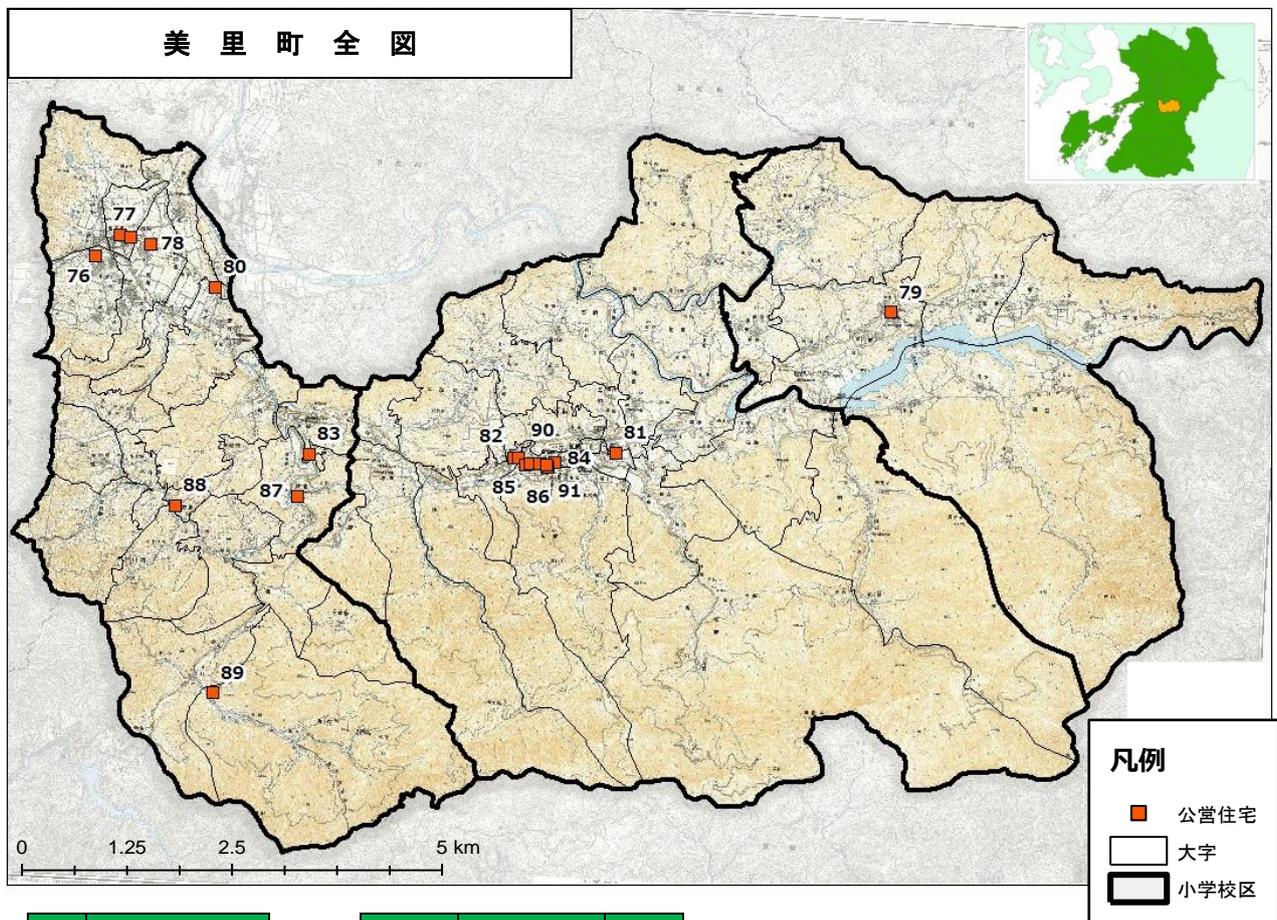


美里町役場砥用庁舎

9.公営住宅

9-1.公営住宅

1)施設配置状況



番号	施設名称
76	有安若者定住住宅
77	堅志田団地
78	片平団地
79	畝野団地
80	八幡原団地
81	古町団地
82	大窪団地
83	佐俣団地
84	永富団地
85	御前浜団地
86	高田団地
87	岩野団地
88	松野原団地
89	釈迦院川団地
90	モデル住宅
91	旧永富団地

所在地	延床面積(m ²)	施設数
中小路口	390.67	1
堅志田口	498.40	1
馬場口	1,071.71	1
畝野口	998.88	1
萱野口	1,682.63	1
土喰口	870.00	1
大窪口	2,335.00	1
佐俣口	1,577.51	1
永富口	3,351.98	3
岩野口	311.50	1
木早川内口	688.00	1
弘川口	356.80	1
永富口	145.00	2
合計	14,278.08	16

図 施設配置図

2)概要

本町の公営住宅は、健康で文化的な生活を営むのに足りる住宅を整備し、これを住宅に困窮する方に対して賃貸し、または転賃することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的として設置された施設です。また、古町団地は「美里町特定優良賃貸住宅条例」に基づき、中堅所得者等の居住の用に供するため、特定優良賃貸住宅として設置されています。

本町は平成 25 年 3 月に「美里町公営住宅等長寿命化計画」を策定しています。

延床面積は、大窪団地が 2,335.00 m²と最大です。続く 1,000 m²以上の団地は片平団地、八幡原団地、佐俣団地、御前浜団地、高田団地の 5 団地です。

管理戸数の合計は 221 戸であり、最も管理戸数が多いのは大窪団地の 32 戸で、次が佐俣団地の 28 戸です。公営住宅全体の入居率は高く、平成 26 年度末で空き戸数は 1 戸です。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体	管理戸数	入居戸数
有安若者定住住宅	中小路5D0-15,16,17,18	政策企画係	平成17年03月	390.67	—	貸付契約者	4	4
堅志田団地	堅志田10,144	管理係	昭和52年03月	498.40	直営	—	10	10
片平団地	馬場610	管理係	昭和53年03月	1,071.71	直営	—	20	20
畝野団地	畝野450	管理係	昭和55年03月	998.88	直営	—	16	15
八幡原団地	菅野495	管理係	昭和57年02月	1,682.63	直営	—	24	24
古町団地	土喰569	管理係	平成07年03月	870.00	直営	—	10	10
大窪団地	大窪2-2,166-1	管理係	平成02年03月	2,335.00	直営	—	32	32
佐俣団地	佐俣2D91-1	管理係	昭和53年03月	1,577.51	直営	—	28	28
永富団地	永富B78-7	管理係	昭和54年03月	464.00	直営	—	8	8
御前浜団地	永富E12,537-3	管理係	昭和58年03月	1,728.00	直営	—	26	26
高田団地	永富450	管理係	平成04年03月	1,159.98	直営	—	16	16
岩野団地	岩野5684-1	管理係	昭和51年03月	311.50	直営	—	7	7
松野原団地	木早川内2	管理係	昭和55年03月	688.00	直営	—	12	12
釈迦院川団地	弘川1B57	管理係	昭和56年03月	356.80	直営	—	6	6
モデル住宅	永富5D1-2	管理係	平成12年03月	110.00	直営	—	1	1
旧永富団地	永富4E1-1	管理係	昭和43年03月	35.00	直営	—	1	1

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3)施設の状況

公営住宅の合計延床面積は 14,285.08 m²で、うち 66%が築 30 年以上となっています。また構造別の割合を見ると木造 26%、コンクリートブロック造 65%、鉄筋コンクリート造 8%となっています。建築年度と構造の関係に注目すると築 30 年以上の建物はコンクリートブロック造の割合が多くなっています。鉄筋コンクリート造の建物は、大窪団地の 1 号棟のみで 1,178.60 m²と大きな延床面積を有しているため公営住宅全体の 8%を占めています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (m ²)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
有安若者定住住宅	15号区画	木造	平成17年03月	11	96.90	新耐震	—
	16号区画	木造	平成17年03月	11	94.20	新耐震	—
	17号区画	木造	平成17年03月	11	99.37	新耐震	—
	18号区画	木造	平成17年03月	11	100.20	新耐震	—
聖志田団地	2号棟	コンクリートブロック造	昭和52年03月	39	192.40	不要	不要
	1号棟	コンクリートブロック造	昭和52年03月	39	306.00	不要	不要
片平団地	2号棟	コンクリートブロック造	昭和53年03月	38	192.40	不要	不要
	1号棟	コンクリートブロック造	昭和53年03月	38	207.20	不要	不要
	3号棟	コンクリートブロック造	昭和53年03月	38	103.60	不要	不要
	5号棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	103.60	不要	不要
	6号棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	103.60	不要	不要
	7号棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	103.60	不要	不要
	8号棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	103.60	不要	不要
	9号棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	103.60	不要	不要
	集会所	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	50.51	不要	不要
畝野団地	A棟	コンクリートブロック造	昭和55年03月	36	240.00	不要	不要
	B棟	コンクリートブロック造	昭和55年03月	36	240.00	不要	不要
	C棟	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	240.00	不要	不要
	D棟	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	240.00	不要	不要
	集会所	木造	平成04年03月	24	38.88	新耐震	—
八幡原団地	1号棟	コンクリートブロック造	昭和57年02月	34	259.60	不要	不要
	2号棟	コンクリートブロック造	昭和57年03月	34	274.40	不要	不要
	3号棟	コンクリートブロック造	昭和57年03月	34	274.40	不要	不要
	5号棟	コンクリートブロック造	昭和58年01月	33	274.40	新耐震	—
	6号棟	コンクリートブロック造	昭和58年01月	33	274.40	新耐震	—
	集会所	コンクリートブロック造	昭和57年11月	33	51.03	新耐震	—
	7号棟	コンクリートブロック造	昭和58年02月	33	274.40	新耐震	—
古町団地	A棟	木造	平成07年03月	21	174.00	新耐震	—
	B棟	木造	平成07年03月	21	174.00	新耐震	—
	C棟	木造	平成08年03月	20	174.00	新耐震	—
	D棟	木造	平成08年08月	19	174.00	新耐震	—
	E棟	木造	平成08年08月	19	174.00	新耐震	—

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (㎡)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
大窪団地	2号棟	木造	平成02年03月	26	132.40	新耐震	—
	3号棟	木造	平成02年03月	26	139.00	新耐震	—
	4号棟	木造	平成02年03月	26	132.40	新耐震	—
	5号棟	木造	平成01年03月	27	132.40	新耐震	—
	6号棟	木造	平成01年03月	27	132.40	新耐震	—
	7号棟	木造	平成01年03月	27	132.40	新耐震	—
	8号棟	木造	平成01年03月	27	132.40	新耐震	—
	9号棟	木造	平成01年03月	27	139.00	新耐震	—
	1号棟	鉄筋コンクリート造	昭和62年09月	28	1,178.60	新耐震	—
集会所	木造	平成02年03月	26	84.00	新耐震	—	
佐俣団地	1号棟	コンクリートブロック造	昭和53年03月	38	192.40	不要	不要
	3号棟	コンクリートブロック造	昭和53年03月	38	192.40	不要	不要
	2号棟	コンクリートブロック造	昭和53年03月	38	96.20	不要	不要
	5号棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	207.20	不要	不要
	6号棟	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	173.70	不要	不要
	8号棟	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	173.70	不要	不要
	7号棟	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	115.80	不要	不要
	9号棟	コンクリートブロック造	昭和57年03月	34	187.80	不要	不要
	10号棟	コンクリートブロック造	昭和57年03月	34	187.80	不要	不要
集会所	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	50.51	不要	不要	
永富団地	A棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	232.00	不要	不要
	B棟	コンクリートブロック造	昭和54年03月	37	232.00	不要	不要
御前浜団地	1号棟	コンクリートブロック造	昭和58年03月	33	408.00	新耐震	—
	4号棟	コンクリートブロック造	昭和57年03月	34	252.00	不要	不要
	2号棟	コンクリートブロック造	昭和58年03月	33	408.00	新耐震	—
	3号棟	コンクリートブロック造	昭和57年03月	34	408.00	不要	不要
	5号棟	コンクリートブロック造	昭和58年03月	33	252.00	新耐震	—
高田団地	1号棟	木造	平成04年03月	24	139.00	新耐震	—
	2号棟	木造	平成04年03月	24	132.40	新耐震	—
	3号棟	木造	平成04年03月	24	132.40	新耐震	—
	4号棟	木造	平成05年03月	23	136.20	新耐震	—
	5号棟	木造	平成05年03月	23	136.20	新耐震	—
	6号棟	木造	平成06年03月	22	141.20	新耐震	—
	7号棟	木造	平成06年03月	22	141.20	新耐震	—
	8号棟	木造	平成06年03月	22	148.40	新耐震	—
	集会所	木造	平成05年03月	23	52.98	新耐震	—
岩野団地	1号棟	コンクリートブロック造	昭和51年03月	40	44.50	不要	不要
	2号棟	コンクリートブロック造	昭和51年03月	40	89.00	不要	不要
	3号棟	コンクリートブロック造	昭和51年03月	40	89.00	不要	不要
	5号棟	コンクリートブロック造	昭和51年03月	40	89.00	不要	不要
松野原団地	3号棟	コンクリートブロック造	昭和55年03月	36	109.40	不要	不要
	2号棟	コンクリートブロック造	昭和55年03月	36	164.10	不要	不要
	1号棟	コンクリートブロック造	昭和55年03月	36	164.10	不要	不要
	5号棟	コンクリートブロック造	昭和60年03月	31	125.20	新耐震	—
	6号棟	コンクリートブロック造	昭和60年03月	31	125.20	新耐震	—
釈迦院川団地	1号棟	コンクリートブロック造	昭和56年03月	35	231.60	不要	不要
	2号棟	コンクリートブロック造	昭和61年01月	30	125.20	新耐震	—
モデル住宅	モデル住宅	木造	平成12年03月	16	110.00	新耐震	—
旧永富団地	旧永富団地1戸	木造	昭和43年03月	48	35.00	不要	不要

4)コスト状況

年度ごとの修繕費によって、コストが大きく変動しています。特に平成 26 年度の畝野団地では、修繕費に 2,764 千円かかっており、同年度の八幡原団地の修繕費 1,028 千円、大窪団地の修繕費 1,100 千円と比べても高額となっています。25 年度では佐俣団地の修繕費が 2,111 千円と高くなっています。

延床面積当たりのコストを見ると、全公営住宅の平均は 0.3 千円/㎡となっており、片平団地、畝野団地、大窪団地、佐俣団地、岩野団地の 5 施設が平均以上です。中でも片平団地、大窪団地、佐俣団地は 1,000 ㎡以上の施設であり、他の施設に比べてコストが高くなっています。

一戸当たりのコストを見ると、平均の 21.4 千円/戸を超える施設は畝野団地、古町団地、大窪団地、佐俣団地、高田団地となっています。

大窪団地は面積、戸数共に最大ですが、延床面積当たりコスト、一戸当たりコストの双方で平均を上回っており、維持管理に多くの投資が必要となっています。

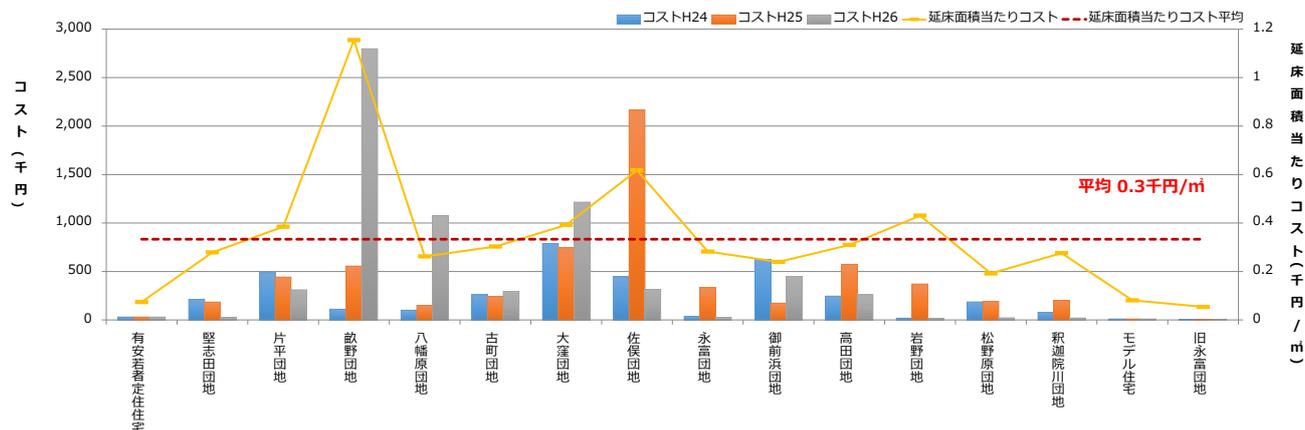


図 延床面積当たりのコスト比較

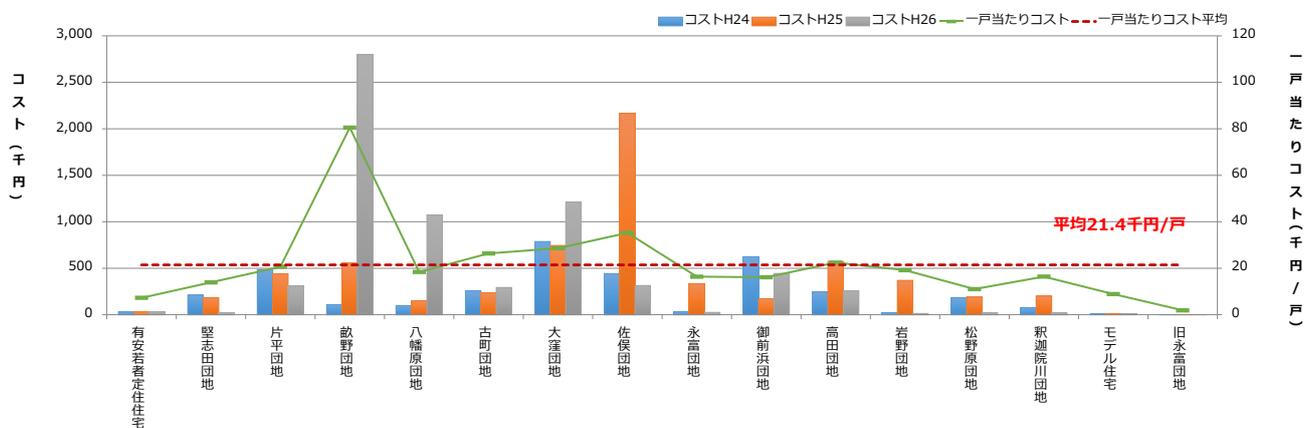


図 一戸当たりのコスト比較

5) サービス状況

平成 26 年度では、空き家が畝野団地に一戸だけで、入居率はほぼ 100%となっています。入居率の折れ線グラフは3か年の平均を示しているため佐俣団地と御前浜団地が 100%になっていませんが、26 年度からは全戸入居となっています。

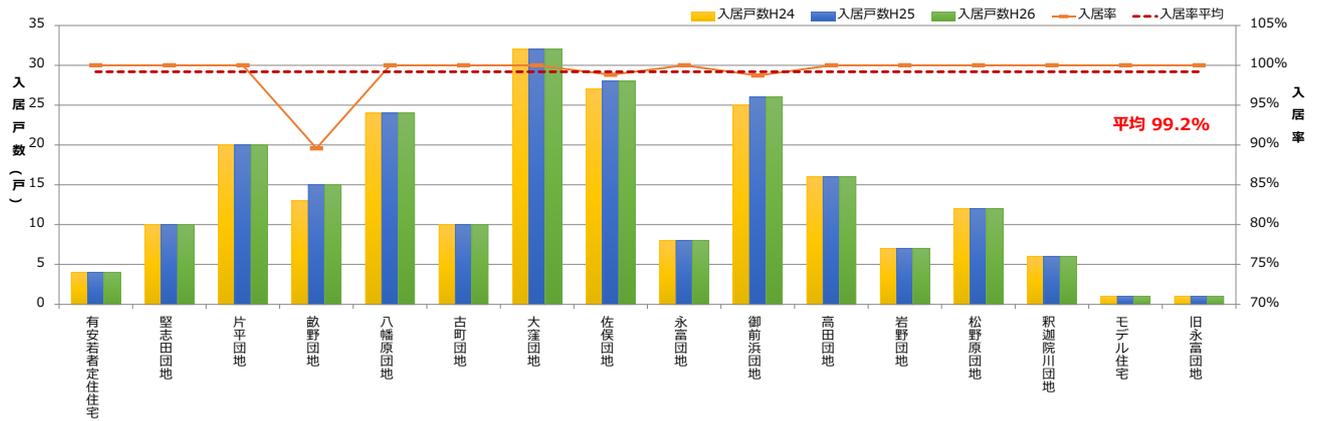


図 入居戸数と入居率比較

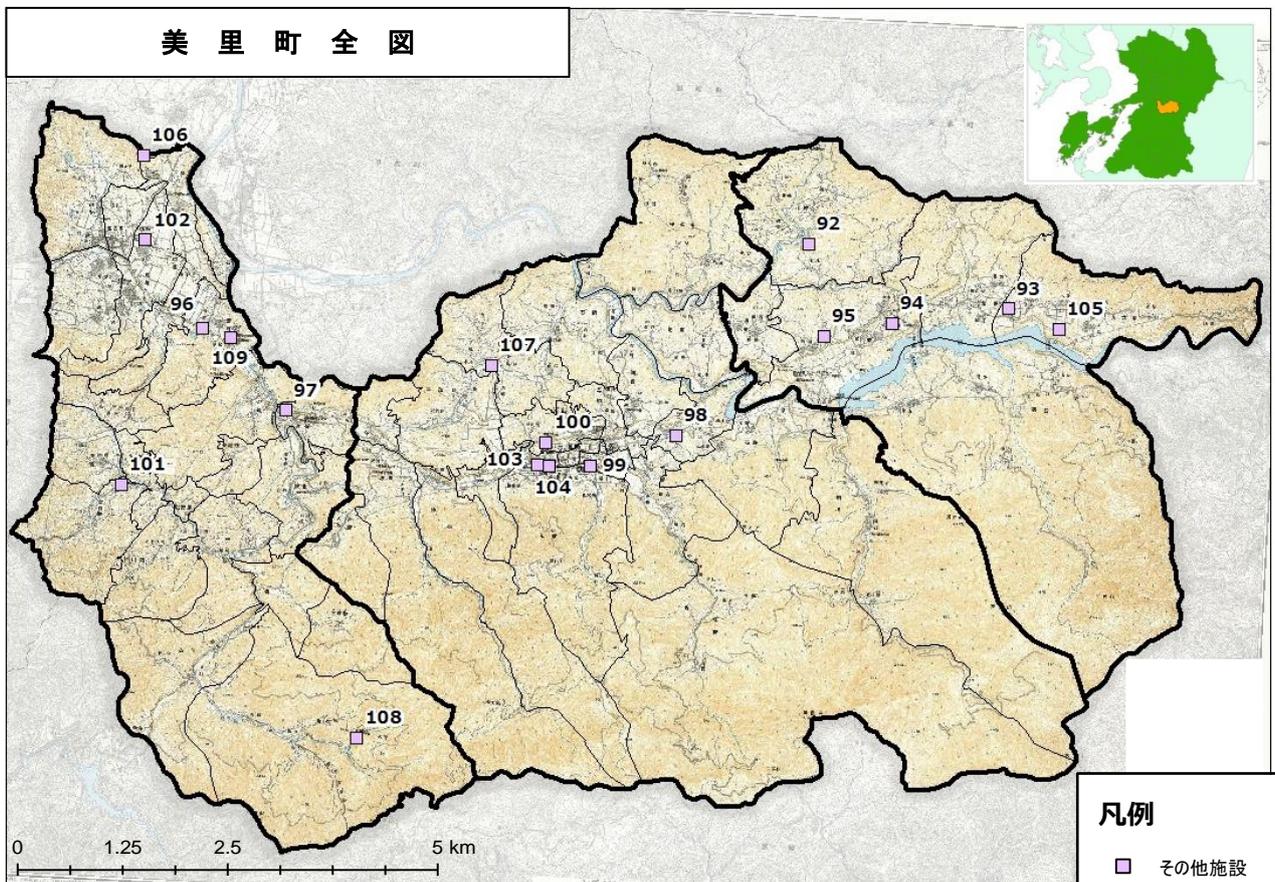


堅志田団地



古町団地

10.その他施設
 10-1.その他
 1)施設配置状況



番号	施設名称
92	旧川越保育園
93	旧遠野小学校
94	旧三本松出張所
95	旧畝野小学校
96	旧萱野老人憩いの家
97	旧JA佐俣米蔵倉庫
98	内山住宅
99	永富江尻野車庫
100	旧農林産物展示販売施設
101	美里町公民館西分館(住宅)
102	中央小学校教員住宅
103	御前浜教職員住宅
104	永富教職員住宅
105	美里町移動通信用鉄塔施設大井早基地局
106	おもやいネット用鉄塔施設
107	倉庫(こぼと保育園)
108	釈迦院川キャンプ場
109	旧自立生活訓練施設

所在地	延床面積(m ²)	施設数
名越谷	283.00	1
永富口	300.85	3
萱野口	537.99	2
佐俣口	223.08	1
坂本口	225.46	1
畝野口	1,258.65	2
清水口	60.41	1
川越口	147.73	1
大井早口	854.00	2
大沢水口	64.00	1
二和田口	65.55	1
馬場口	59.00	1
白石野口	59.00	1
合計	4,138.72	18

図 施設配置図

2)概要

その他施設のうち旧川越保育園、旧遠野小学校、旧三本松出張所、旧畝野小学校、旧萱野老人憩いの家、旧 JA 佐俣米蔵倉庫、内山住宅、永富江尻野車庫、旧農林物産展示販売施設、倉庫（こぼと保育園）、旧自立生活訓練施設の 11 施設は用途廃止（普通財産）となっていますが、現在でも一部の施設は貸付等により住民に利用されています。一方で旧 JA 佐俣米蔵倉庫は年に 1、2 回の利用がある程度の遊休資産となっており、釈迦院川キャンプ場は大雨の影響で平成 19 年より営業を休止しています。延床面積が比較的大きい施設として、590 m²の旧遠野小学校と 1,102 m²の旧畝野小学校があり、いずれも民間企業に貸付しています。

旧自立生活訓練施設は、平成 16 年度から NPO 法人と指定管理協定を締結し、知的障害者自立生活訓練等施設として管理運営を実施していましたが、障害者自立支援法の施行に伴い、施設と土地を普通財産に用途廃止し、同 NPO 法人に無償貸付中です。

表 施設の概要

施設名称	所在地	所管係	建築年月	延床面積 (m ²)	管理運営	管理団体
旧川越保育園	川越BB65-1	行革管財係	平成01年03月	147.73	—	貸付契約者
旧遠野小学校	大井早B797	行革管財係	昭和42年09月	590.00	—	貸付契約者
旧三本松出張所	畝野LB46-1	行革管財係	昭和42年04月	156.65	—	三本松地区
旧畝野小学校	畝野AD37	行革管財係	昭和29年04月	1,102.00	—	貸付契約者
旧萱野老人憩いの家	萱野LB80	行革管財係	昭和51年04月	372.96	—	萱野地区
旧JA佐俣米蔵倉庫	佐俣B1-3	行革管財係	昭和40年03月	223.08	直営	—
内山住宅	清水BB8-2	行革管財係	昭和41年03月	60.41	—	貸付契約者
永富江尻野車庫	永富LB45	行革管財係	昭和59年03月	166.00	直営	—
旧農林物産展示販売施設	二和田D288-1	行革管財係	昭和60年03月	65.55	—	貸付契約者
美里町公民館西分館(住宅)	白石野B	社会教育係	昭和58年03月	59.00	直営	—
中央小学校教員住宅	馬場BB7-1	学校教育係	昭和57年02月	59.00	直営	—
御前浜教職員住宅	永富BD1-2	学校教育係	平成12年03月	73.55	直営	—
永富教職員住宅	永富BB4	学校教育係	平成05年03月	61.30	直営	—
美里町移動通信用鉄塔施設大井早基地局	大井早BD52-2	情報推進係	平成19年02月	264.00	直営	—
おもやいネット用鉄塔施設	大沢水LB56-15	情報推進係	昭和56年03月	64.00	直営	—
倉庫(こぼと保育園)	名越谷4034	行革管財係	昭和35年12月	283.00	直営	—
釈迦院川キャンプ場	坂本LB64	観光商工係	平成04年03月	225.46	直営	—
旧自立生活訓練施設	萱野LB43-1	行革管財係	平成16年02月	165.03	—	貸付契約者

※管理運営・管理団体については平成 27 年 3 月 31 日現在

3)施設の状況

その他施設の合計延床面積は 3,973.69 m²で、うち 32%が新耐震となっています。

用途廃止（普通財産）となっている施設もあり様々な使われ方をしている一方で、75%が築30年以上の建物となっています。築50年を超える建物もあり、かなり老朽化が進行している建物が多くなっています。

表 建物の状況

施設名称	棟名称	構造	建築年月	経年数 (年度)	延床面積 (m ²)	耐震状況	
						診断状況	改修状況
旧川越保育園	旧保育所	木造	平成01年03月	27	147.73	新耐震	—
旧遠野小学校	旧校舎	木造	昭和42年09月	48	411.00	未実施	未実施
旧遠野小学校	旧用務員室	木造	昭和42年09月	48	53.00	未実施	未実施
旧遠野小学校	旧教員住宅	木造	昭和42年10月	48	66.00	未実施	未実施
旧遠野小学校	旧給食室	木造	昭和39年09月	51	60.00	未実施	未実施
旧遠野小学校	プール	鉄筋コンクリート造	昭和45年10月	45	—	—	—
旧三本松出張所	倉庫	木造	平成05年03月	23	17.25	新耐震	—
旧三本松出張所	会議室	木造	昭和42年04月	48	81.65	未実施	未実施
旧三本松出張所	調理室	木造	昭和48年01月	43	57.75	未実施	未実施
旧畝野小学校	屋外トイレ	木造	昭和29年04月	61	46.00	未実施	未実施
旧畝野小学校	旧校舎	木造	昭和29年04月	61	1,014.00	未実施	未実施
旧畝野小学校	倉庫	木造	昭和31年04月	59	20.00	未実施	未実施
旧畝野小学校	プール付属建物	木造	昭和46年06月	44	22.00	未実施	未実施
旧萱野老人憩いの家	旧老人福祉施設	鉄筋コンクリート造	昭和51年04月	39	296.00	未実施	未実施
旧萱野老人憩いの家	倉庫	コンクリートブロック造	平成04年07月	23	36.96	新耐震	—
旧萱野老人憩いの家	車庫	コンクリートブロック造	平成07年08月	20	28.00	新耐震	—
旧萱野老人憩いの家	自転車置場	木造	昭和63年03月	28	12.00	新耐震	—
旧JA佐俣米蔵倉庫	倉庫	鉄筋コンクリート造	昭和40年03月	51	223.08	未実施	未実施
内山住宅	住宅	木造	昭和41年03月	50	60.41	未実施	未実施
永富江尻野車庫	車庫	鉄骨造	昭和59年03月	32	166.00	新耐震	—
旧農林産物展示販売施設	旧農林産物展示販売施設	木造	昭和60年03月	31	65.55	新耐震	—
美里町公民館西分館(住宅)	教職員住宅	木造	昭和58年03月	33	59.00	新耐震	—
中央小学校教員住宅	教員住宅14	木造	昭和57年02月	34	59.00	未実施	未実施
御前浜教職員住宅	教職員住宅	木造	平成12年03月	16	73.55	新耐震	—
永富教職員住宅	教職員住宅	木造	平成05年03月	23	61.30	新耐震	—
美里町移動通信用鉄塔施設大井早基地局	鉄塔屋外工作物	その他	平成19年02月	9	264.00	新耐震	—
おもやいネット用鉄塔施設	無線LAN中継局	その他	昭和56年03月	35	64.00	未実施	未実施
倉庫(こぼと保育園)	倉庫	木造	昭和35年12月	55	283.00	未実施	未実施
釈迦院川キャンプ場	ログハウスえびね	木造	平成04年03月	24	25.00	新耐震	—
釈迦院川キャンプ場	ログハウスしゃくなげ	木造	平成06年03月	22	25.91	新耐震	—
釈迦院川キャンプ場	ログハウスさざんか	木造	平成06年03月	22	25.91	新耐震	—
釈迦院川キャンプ場	ログハウスひがなぼな	木造	平成06年03月	22	25.50	新耐震	—
釈迦院川キャンプ場	管理棟	木造	平成05年03月	23	72.74	新耐震	—
釈迦院川キャンプ場	炊事場	木造	平成05年03月	23	50.40	新耐震	—
旧自立生活訓練施設	旧自立生活訓練施設	木造	平成16年02月	12	165.03	新耐震	—

4)コスト状況

その他施設は貸付けを行っているものが多く、保険料のみ発生している施設が多いため、延床面積当たりコストの平均は0.3千円/m²と、他の類型と比較すると最も小さくなっています。

旧三本松出張所については、平成24年9月まで行政系施設として利用していましたが、東部出張所への機能移設のため用途廃止としています。なお、平成25年度に旧出張所事務所部分を解体し、残りの一部を地区に無償で貸付けています。その他施設の中では、旧三本松出張所のコストが一番高くなっています（3年間均平307千円）。

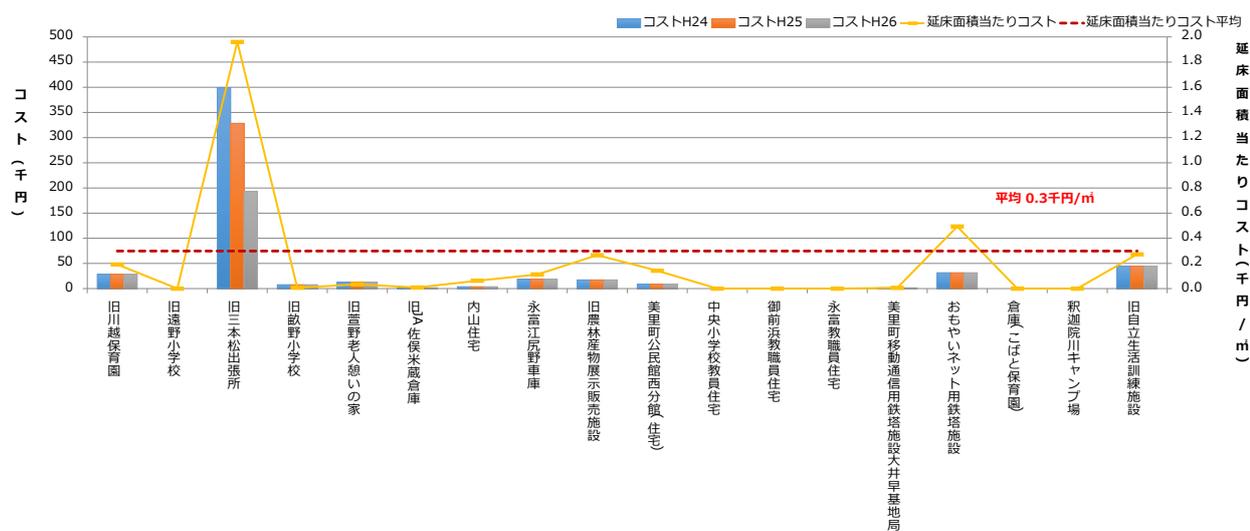


図 延床面積当たりのコスト比較



旧萱野老人憩いの家



旧自立生活訓練施設

11.インフラ施設の概要

11-1.道路

一般道路延長は 293.9km で、自転車歩行者道の延長は 11.4km となっており、道路改良率は 60% です。農道が 11.3km、また中山間地域であるため 117.0km の林道を保有しています。

11-2.橋梁

平成 25 年 3 月に「橋梁長寿命化修繕計画」を策定しています。

本町の橋梁の保有量は 14,258 m²であり、橋梁が大規模に整備されたのは 1970 年に 1,900 m²、2004 年に 1,248 m²となっており、また 1950 年以前までで 1,340 m²の橋梁が整備されました。

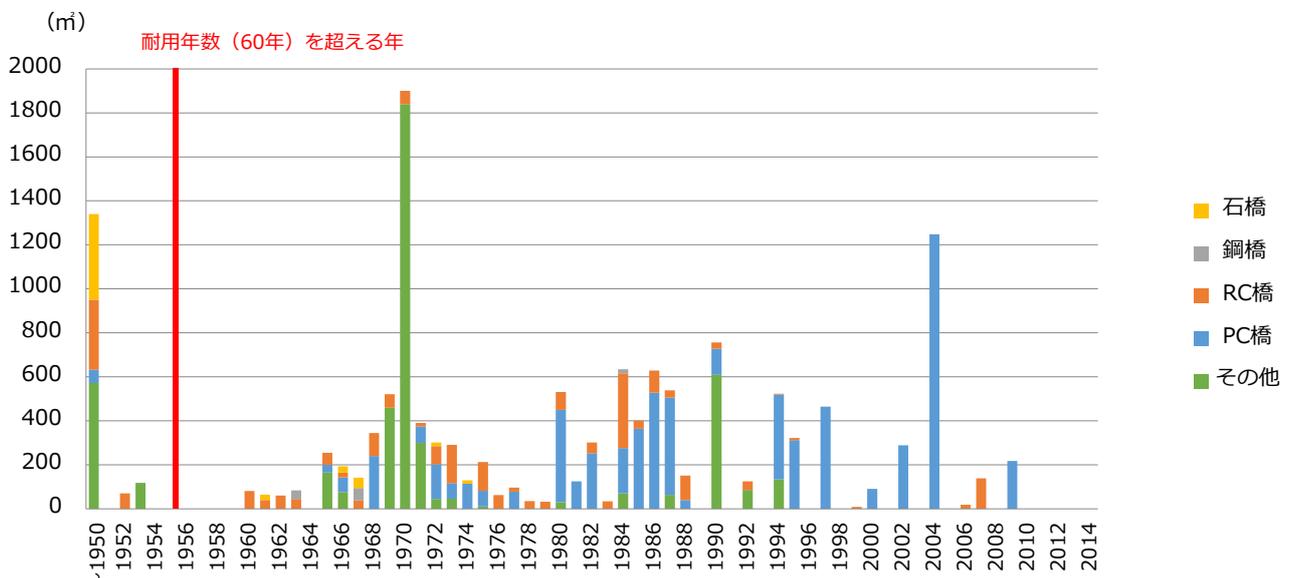


図 年度別橋梁の建設面積

11-3.上水道

本町が保有する上水道管の総延長は 120,560mとなっています。上水道に関する建築物の延床面積は 638.62 m²で、いずれも昭和 62 年度以降に建設されている新耐震の建物です。

表 上水道施設の概要

施設名称	延床面積 (m ²)	所在地	棟名称	建設年度	延床面積 (m ²)	構造	所管係
内山浄水場	242.96	清水419	浄水管理センター	昭和63年03月	62.87	鉄筋コンクリート造	上水道係
			膜ろ過装置室	平成21年03月	27.09	鉄骨造	上水道係
			水道管理センター	平成08年03月	153.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
清水取水場	20.96	清水1147-2	取水渠導水ポンプ室	昭和63年03月	20.96	鉄筋コンクリート造	上水道係
小崎ポンプ所	48.00	川越2394-4	小崎ポンプ室	平成09年03月	48.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
大井早ポンプ所	48.00	大井早2128-1	大井早ポンプ室	平成08年03月	48.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
永富水源地	25.92	永富2335-3	管理室	平成19年03月	25.92	木造	上水道係
永富第1配水場	49.00	永富2206-2	管理室	平成18年03月	49.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
永富第2配水場	35.78	永富2591	管理室	平成19年03月	12.96	木造	上水道係
			滅菌室	平成22年01月	8.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
			倉庫	平成22年01月	14.82	鉄筋コンクリート造	上水道係
貴平ポンプ所	48.00	川越116	貴平ポンプ室	平成09年03月	48.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
山瀬ポンプ所	48.00	大井早566-1	山瀬ポンプ室	平成08年03月	48.00	鉄筋コンクリート造	上水道係
山出浄水場	72.00	洞岳2588-3	機械室	平成06年03月	72.00	鉄筋コンクリート造	上水道係

11-4.公園

本町の保有する公園の土地面積は 214,559.07 m²となっており、公園に設置されている施設の延床面積は 445.34 m²となっています。(美里町固定資産台帳(平成 26 年度))

表 公園施設の概要

施設名称	延床面積 (m ²)	所在地	棟名称	建設年度	延床面積 (m ²)	構造	所管係
西山公園	59.00	大沢水604-20	屋外トイレ	平成06年12月	8.86	鉄筋コンクリート造	耕地係
			東屋	平成06年12月	17.64	鉄骨造	耕地係
			展望所	平成07年03月	32.50	木造	耕地係
金刀比羅公園	270.92	萱野1803-1	東屋	平成06年12月	11.33	木造	耕地係
			屋外トイレ	平成06年12月	6.25	木造	耕地係
			休憩所	昭和61年07月	16.00	木造	耕地係
			展望所	平成06年12月	237.34	鉄骨造	耕地係
中蓮寺公園	6.25	中郡456-2	東屋	平成06年06月	6.25	木造	耕地係
一燈遊園地	10.83	土喰137-1	屋外トイレ	平成12年12月	10.83	木造	子ども・生活支援係
いや川水源休養施設	29.00	中小路1607	屋外トイレ	平成02年03月	8.00	木造	観光商工係
			東屋	平成02年03月	21.00	木造	観光商工係
霊台公園休憩所	14.56	清水1164-3	東屋	昭和60年03月	14.56	木造	観光商工係
二俣橋公園	34.91	小筵863-1	屋外トイレ	平成22年02月	8.51	木造	観光商工係
			東屋	平成02年03月	26.40	木造	観光商工係
清正公屋敷跡休憩所	19.87	坂本2782	東屋	平成04年03月	19.87	木造	観光商工係

※固定資産台帳(平成 26 年度)に建築系施設の記載のあるもの

※延床面積は敷地面積ではなく設置された建築系施設のもの

第3章.今後の公共施設マネジメント

1.公共施設の課題の整理

本町の公共施設の現況を踏まえ、課題を整理します。建築系施設は5割近くが築30年を経過しており、今後施設を良好な状態で利用していくためには、適切な維持管理を実施する必要があります。インフラ系施設は、道路、橋梁、上水道など生活に必要不可欠なものであり、安全性を確保するとともに安定的な供給が求められます。

<将来人口から見た課題>

人口規模にふさわしい施設量

- 本町の公共施設の町民一人当たりの延床面積 8.2 m²/人は全国的な水準よりも多い状況です。
- 「美里町人口ビジョン」では2060年で5,725人を目指していますが、2010年（平成22年）から総人口、生産年齢人口ともに約半数となることが見込まれています。

⇒施設を維持し続けた場合、今後ますます町民一人当たりの施設量は高まることから、今後の将来人口に応じた適切な量を検討する必要があります。

<財政から見た課題>

財政見通しを踏まえた投資

- 公共施設の建設事業等にあてる投資的経費は今後約10億円/年と見込んでいます。
- 公共施設にかかる維持更新費用は、建築物で7.24億円/年、上水道を除くインフラ施設に約6.1億円/年が必要と試算され、合計で13.3億円/年となります。

⇒投資的経費の見込み（10億円/年）ではまかない切れないこととなり、施設保有量の縮減や優先順位の明確化が必要です。

⇒公共施設の新設、改修・更新等にかかる必要額の確保と限られた財源を効率的に使う工夫が必要です。また、年度ごとの費用のばらつきを解消する必要があります。

<施設の性能から見た課題>

施設の安全確保への対応

- 本町の建築系施設や橋梁などのインフラ施設は70年代から90年代にかけて整備されたものも多く、老朽化しています。
- 計画的な保全がなされていない施設もあり、サービスの低下や更新時期の短縮を招く可能性があります。
- 施設全体の14%は、旧耐震建物であり耐震性能が低い可能性があります。また、バリアフリーが一部未対応の施設もあります。

⇒施設を安全・安心・快適に利用できるように保ち、長期間の使用が可能な施設にするなど、LCC（ライフサイクルコスト）を意識した適切な保全方法を選択する必要があります。

⇒高齢化に伴うバリアフリーへの対応や、環境性能の向上など、施設に求められる機能が多様化しており、対応には大きな改修工事が必要です。

<施設のコスト・サービス状況から見た課題>

利用状況や維持管理コストの改善

- ・指定管理者制度を導入している施設は、平成27年3月31日現在で16施設です。
- ・集会所をはじめとする一部施設は地区管理となっています。
- ・空きスペースや遊休施設など、低利用となっている施設があります。
- ・施設によって利用者数やコストのばらつきが見られます。

⇒指定管理者制度を導入している施設はコスト削減効果等の検証をする必要があります。また、幅広い手法による住民サービス提供の検討が必要です。

⇒既存施設の空きスペースの活用や複合化の検討が必要です。遊休施設については、管理方針の設定と維持管理コスト削減等が必要です。

⇒利用の少ない施設についてサービスの必要性を検証するとともに、利用料の見直しについて検討する必要があります。

<施設の性能、コスト・サービス両面から見た課題>

既存施設の活用や複合化

⇒施設の建物性能が比較的よいものの、利用やコスト面での問題を抱える施設では、施設利用面での改善（用途転換、複合化などサービスの受け皿としての改善）を積極的に行う必要があります。

⇒建物性能が低いものの、利用ニーズが高いものや低コストの施設では、適切な建替えや長寿命化などによる改善を図る必要があります。

<施設の配置状況から見た課題>

利用圏域の設定による重複施設の解消

- ・配置状況を見ると、類似用途の施設が重複している場合や、距離が近接して設置されている施設が見られます。
- ・近隣自治体でも類似用途の施設を保有していることが想定されます。

⇒広域レベルの施設、住区レベルの施設など、各施設の利用圏域を考慮し、類似用途や近接している施設については集約や統廃合などの検討が必要です。

⇒施設全体を俯瞰しながら国・近隣自治体等との施設連携等の検討が必要です。

このような課題は、全庁的な施設情報の収集を行い、施設の現況を理解した上で明らかとなりましたが、公共施設を取り巻く環境やニーズの変化に対応するためには、常に施設の情報を最新にしておく必要があります。本町では施設ごとに管理する係が異なる事などから作業と精査には時間がかかり、情報更新も課題の一つとなっています。所管ごとに管理されている施設の情報を一元的に管理し、共有していく仕組みづくりも課題となっています。

公共施設は町民の財産であり、現状に合わない施設の保有は町民の負担にもなります。これまで通りの「施設ありき」を前提とした住民サービスとするのではなく、施設が無くてもサービスの提供が出来ないか、民間を活用したサービスの展開が考えられないかなど、柔軟な考え方によるサービスの提供を考えていく必要があります。また、人口増加への寄与、複合化による多世代交流の活性化など、積極的なまちづくりに寄与する再整備を行っていく必要があります。

施設の性能、コストの状況、利用の状況などを踏まえ、美里町のまちづくり、自治体経営に公共施設をどのように活用していくかを考えることが必要です。

2.公共施設マネジメントの必要性

「公共施設マネジメント」とは、自治体等が保有する全公共施設を、自治体経営の視点から総合的かつ総括的に企画、管理及び利用する仕組みです。

本町においても、近い将来、巨額の更新投資負担が集中して発生することが予想されるとともに、少子高齢化による人口構成の変化及びそれに伴って求められる施設機能の変化への対応や、施設の老朽化に伴う安全確保などの課題も顕在化しており、将来にわたり「持続性のある良質な公共サービスの提供を行う」ことが必要です。

このため、地域特性に応じた適切な公共サービスの提供と安定した財政運営を両立させるために、保有する公共施設を総合的に把握し、財政運営と連動させながら管理・活用する仕組みである「公共施設マネジメント」を導入することが急務となっています。

公共施設マネジメントを効率的・効果的に進めるためには、建物等の新規整備の抑制、施設の統廃合、施設の多機能化・複合化、長寿命化の推進など、予め自治体として考える公共施設マネジメントの原則を規定しておくことや具体的な数値目標の設定を行います。

さらに、町民や議会への十分な情報提供と合意形成、議論の発展段階に応じた柔軟な組織体制の構築、マネジメントの基礎となる資産情報の洗い出しと一元化などについても、効率的・効果的に進めるためのポイントとなります。

3.今後の取り組みについて

本町では、平成 28 年度に「美里町公共施設等マネジメント計画」を策定予定であり、公共施設の総合的かつ計画的な管理を推進するための行動指針を定め、施設の再配置を検討します。

公共施設のマネジメントを進めるために今回作成した「美里町公共施設白書」を活用して、以下に示す流れの中で、方針策定、計画の立案・実践、評価・改善の各ステップの取組を進めていきます。

また、取組の各ステップで町民の皆様・議会と情報を共有しながら進めていきます。

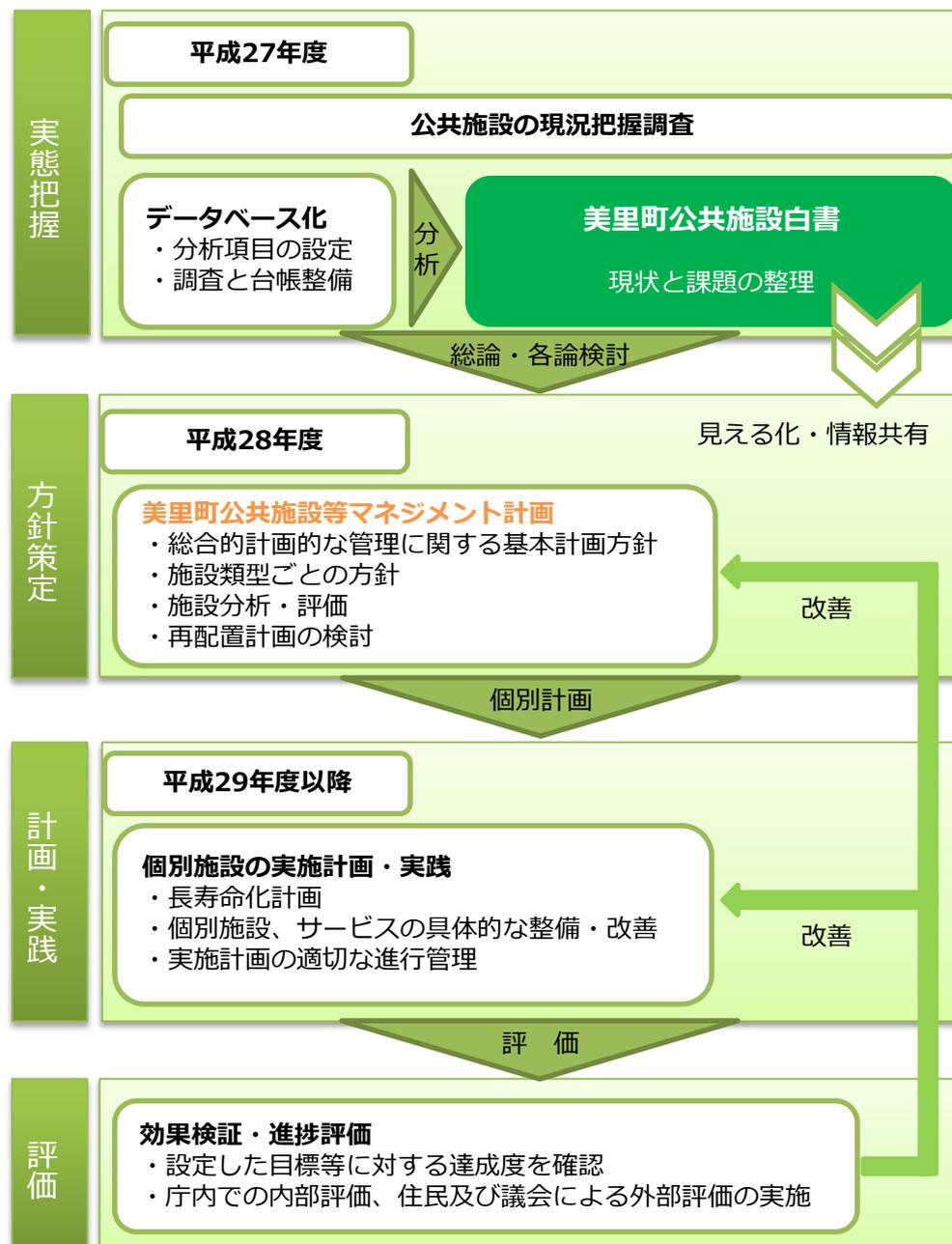


図 公共施設マネジメントの取組の流れ

